管理者ガイド

Sun™ ONE Instant Messaging

Version 6.1

817-4746-10
2003 年 12 月

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.
Sun Microsystems, Inc. は、この製品に含まれるテクノロジに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は http://www.sun.com/patents に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。
このソフトウェアは SUN MICROSYSTEMS, INC. の機密情報と企業秘密を含んでいます。SUN MICROSYSTEMS, INC. の書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアを使用、開示、複製することは禁じられています。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。
UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、JDK, Java Naming and Directory Interface、JavaMail、JavaHelp、J2SE、iPlanet、Duke のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴ、Solaris のロゴ、SunTone 認定ロゴマークおよび Sun ONE のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Legato および Legato のロゴマークは Legato Systems, Inc. の商標であり、Legato NetWorker は同社の商標または登録商標です。
Netscape Communications Corp のロゴマークは Netscape Communications Corporation　の商標または登録商標です。
OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目 次

本書について **9**

対象読者 9
お読みになる前に 10
マニュアルの構成 10
マニュアルの表記規則 11
モノスペースフォント 11
太字のモノスペースフォント 11
イタリックフォント 12
角括弧 12
コマンド行プロンプト 12
関連するサードパーティの Web サイトの参照 13
Sun オンラインマニュアルへのアクセス 13

第 1 章 Sun ONE Instant Messaging ソフトウェアの紹介 **15**
Sun ONE Instant Messaging のコンポーネント 15
基本的な配備シナリオ 16
Instant Messaging のコアコンポーネントの簡易リファレンス 16
Instant Messaging 関連コンポーネントの簡易リファレンス 17
配備の概要 : LDAP 単独配備 17
配備の概要 : シングルサインオン環境における Identity Server と Portal Server 19
Instant Messaging の各コンポーネントの役割 21
Sun ONE Instant Messenger 21
Sun ONE Portal Server 23
Sun ONE Identity Server 23
Instant Messaging Server 23
Instant Messaging マルチプレクサ 24
Web サーバー 24

LDAP ディレクトリサーバー 25
SMTP サーバー 25
Sun ONE Instant Messaging 配備構成 26
別のホスト上にインストールされた Web サーバーと Instant Messenger リソース 26
複数のマルチプレクサホスト 28
複数の Instant Messaging 配備の連合 30
設定ファイルとディレクトリ構造 32
Instant Messaging Server のディレクトリ構造 32
Sun ONE Instant Messaging Server の設定ファイル 34
Sun ONE Instant Messaging のデータ 34
Sun ONE Instant Messaging における SSL の使用 35
Sun ONE のプライバシ、セキュリティ、およびサイトポリシー 36
サイトポリシー 36
会議室とニュースチャネルのアクセス制御 37
ユーザーのプライバシ 37

第 2 章 Sun ONE Instant Messaging Server とマルチプレクサの管理 39
Instant Messaging の管理 : エンドユーザー 40
サーバーとマルチプレクサの起動と停止 (UNIX の場合) 41
Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサを起動するには 42
Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサを停止するには 42
設定を更新するには (Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサ) 42
Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサの起動と停止 (Windows の場合のみ) 43
Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサの設定パラメータの変更 43
設定パラメータを変更するには 44
ロギングの管理 44
ロギングレベル 45
ログファイルのレベルを設定するには 46
エンドユーザーの権限の管理 47
会議室とニュースチャネルのアクセス制御 47
会議室とニュースチャネルのアクセス制御ファイルの形式 48
ユーザーのプライバシ 49
複数の Instant Messaging Server の連合配備 50
Instant Messaging Server 間の通信を設定するには 51
SSL の設定 53
証明書発行局への証明書の要求 53
証明書のインストール 54
マルチプレクサと Instant Messenger 間の SSL を有効にするための Instant Messaging Server の設定 56
セキュア版 Instant Messenger の起動 59
サーバー間通信の SSL を有効にする 59
2 つの Instant Messaging Server 間の SSL を有効にするための Instant Messaging Server の設定 60

Sun ONE Instant Messaging の LDAP 構成 62
匿名ユーザーとしてのディレクトリ検索 63
Instant Messaging Server が、(匿名ユーザーとしてではなく) 特定のエンドユーザーとしてディレクトリ検索を行えるようにするには 63
動的 LDAP サーバーグループの設定 64
カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示する 65
カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示するためのカレンダーサーバーの設定 68
アラームの有効化 68
カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示するためのインスタントメッセージングサーバーの設定 69
カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示する具体例 . . 73
カレンダーサーバーの設定 73
インスタントメッセージングサーバーの設定 73
Instant Messenger でのカレンダーアラートの有効化 74
カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示する際のトラブルシューティング 75
Instant Messaging データのバックアップ 76
バックアップすべき情報 76
バックアップの実行 77
バックアップ情報の復元 77

第 3 章 Sun ONE Instant Messenger の管理 79
Sun ONE Instant Messenger の設定 79
Instant Messenger の起動 80
Sun ONE Instant Messenger を起動するには 80
Web サーバーに関する問題の解決 82
コードベースの変更 82
Web サーバーのポートの変更 83
Sun ONE Instant Messenger のカスタマイズ 84
Instant Messenger リソース 84
Sun ONE Instant Messenger ファイル 84
index.html ファイルと im.html ファイルのカスタマイズ (LDAP 単独配備) 87
Sun ONE Identity Server SSO による Instant Messenger の起動 88
アプリケーションのカスタマイズ (Java Web Start) 89
imbrand.jar の内容一覧 91
Instant Messenger の外観のカスタマイズ 93
ユーザー名表示のカスタマイズ 94
検索結果におけるユーザー名表示のカスタマイズ 94
ツールヒントにおけるユーザー名表示のカスタマイズ 94
Sun ONE Instant Messenger の会議室とニュースチャネルの管理 95
会議室およびニュースチャネルの作成権限のエンドユーザーへの付与 96
Sun ONE Instant Messenger プロキシ設定の変更 96

Sun ONE Instant Messenger のプロキシ設定を変更するには 96
メッセンジャの公開機能セットの制御 97
エンドユーザーのシステム上に格納される Instant Messenger データ 99

第 4 章 Instant Messaging ポリシーおよびプレゼンスポリシーの管理 101
エンドユーザーと管理者の権限を制御する方法 101
アクセス制御ファイルによるポリシー管理の概要 102
Sun ONE Identity Server によるポリシー管理の概要 102
ポリシー管理 : 使用する方法の選択 102
ポリシー設定パラメータ 103
アクセス制御ファイルによるポリシー管理 104
アクセス制御ファイルの形式 105
アクセス制御ファイルのサンプル 106
sysTopicsAdd.acl ファイル 106
エンドユーザーの権限の変更 107
Sun ONE Identity Server によるポリシー管理 107
Instant Messaging サービス属性 108
属性の直接変更 111
Instant Messaging ポリシーとプレゼンスポリシーの事前定義サンプル 114
新しい Instant Messaging ポリシーの作成 116
ロール、グループ、組織、ユーザーへのポリシーの割り当て 117
アイデンティティサーバーによる新しいサブ組織の作成 118
追加したエンドユーザーへのロールの割り当て 121
Sun ONE Instant Messaging 6.0 サーバーの Instant Messaging サービスからの移行 122
移行しない場合 122
移行する場合 122
アクセス制御ファイルの移行 122
アクセス制御ファイル情報の手動移行 123
アクセス制御ファイル情報の自動移行 123
Sun ONE Instant Messenger 設定の移行 124

第 5 章 Instant Messaging アーカイブの管理 125
Instant Messaging アーカイブの概要 125
インスタントメッセージのアーカイブ 128
アーカイブプロバイダの有効化 128
アーカイブプロバイダの設定 129
アーカイブプロバイダ設定パラメータ 131
デフォルト以外のデータベースへの Sun ONE Instant Messaging アーカイブメッセージの格納 135
Portal Server 検索データベース内のアーカイブデータの管理 136
rdmgr コマンド 137
リソース記述子 (RD) の検索 137

リソース記述子の削除 137
Instant Messenger アーカイブ制御の有効化 138
アーカイブデータの表示の変更 140
アーカイブプロバイダの配備シナリオ例 141

付録 A Instant Messaging の設定パラメータ 143
iim.conf ファイルの使用 143
一般的な設定パラメータ 145
ユーザーソース設定パラメータ 147
ロギング設定パラメータ 150
Instant Messaging Server 設定パラメータ 152
複数サーバー設定パラメータ 159
マルチプレクサ設定パラメータ 161

付録 B Instant Messaging リファレンス 163
imadmin 163
機能説明 164
オプション 164
アクション 165
コンポーネント 165

付録 C Instant Messaging API 167
Sun ONE Instant Messaging API の概要 167
Instant Messaging サービス API 168
メッセンジャ Bean 168
サービスプロバイダインタフェース 169
アーカイブプロバイダ API 169
メッセージ変換 API 170
認証プロバイダ API 170

付録 D Instant Messaging 障害追跡 171
メッセンジャクライアントが読み込まれないか、起動されない 172
接続が拒否され、タイムアウトが発生した 173
認証エラー 173
IM チャネルの表示エラー 173
Instant Messaging のコンテンツがアーカイブされない 174
サーバー間通信の開始に失敗した 174
致命的なエラーによってサーバーが不整合な状態に陥った 174

付録 E　従来の Sun ONE Instant Messaging 6.0 サービス 177

索引 179

本書について

このマニュアルでは、Sun Open Net Environment (ONE) Instant Messaging Server と付属ソフトウェアコンポーネントの管理方法について説明します。

この章には、以下の節があります。

- 対象読者
- お読みになる前に
- マニュアルの構成
- マニュアルの表記規則
- 関連するサードパーティの Web サイトの参照
- Sun オンラインマニュアルへのアクセス

対象読者

このマニュアルは、Instant Messaging を管理、設定、および配備する役割を担っている方を対象にしています。

お読みになる前に

このマニュアルの内容は、読者が Instant Messaging を設定、管理、および保守する役割を担っているとともに、以下の内容を理解していることを前提にしています。

- JavaScript™
- HTML
- Sun™ ONE Portal Server
- Sun ONE Application Server SE (Standard Edition)
- Sun ONE Directory Server
- Sun ONE Identity Server

マニュアルの構成

このマニュアルには、以下の章と付録があります。

- 本書について (この章)
- 第 1 章「Sun ONE Instant Messaging ソフトウェアの紹介」

  Sun ONE Instant Messaging のコンポーネント、アーキテクチャ、および構成について説明します。
- 第 2 章「Sun ONE Instant Messaging Server とマルチプレクサの管理」

  Sun ONE Instant Messaging Server とマルチプレクサの管理方法について説明します。
- 第 3 章「Sun ONE Instant Messenger の管理」

  Sun ONE Instant Messenger のカスタマイズ方法と管理方法について説明します。
- 第 4 章「Instant Messaging ポリシーおよびプレゼンスポリシーの管理」

  管理者とエンドユーザーの権限の管理方法について説明します。特に、Sun ONE Identity Server 内に設定されたポリシーについて詳しく説明します。
- 第 5 章「Instant Messaging アーカイブの管理」

  Sun ONE Instant Messaging アーカイブの管理方法と設定方法について説明します。
- 付録 A「Instant Messaging の設定パラメータ」

  Instant Messaging に関して設定可能なパラメータについて説明します。
- 付録 B「Instant Messaging リファレンス」

  Instant Messaging を管理するための `imadmin` コマンドについて説明します。

- 付録 C「Instant Messaging API」

  Sun ONE Instant Messaging によって使われる API について説明します。

- 付録 D「Instant Messaging 障害追跡」

  Sun ONE Instant Messaging Server のインストール中および配備中に発生する可能性の高い問題を列挙します。

- 付録 E「従来の Sun ONE Instant Messaging 6.0 サービス」

  Instant Messaging サービスについて説明したあと、このサービスの属性を列挙し、それらの各属性について説明します。管理者はこれらの属性を使うことで、Sun ONE Instant Messaging Server へのアクセスを制御するポリシーメカニズムを実行できます。

マニュアルの表記規則

モノスペースフォント

モノスペースフォントは、コンピュータ画面上に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを表します。また、ファイル名、識別名、関数名、およびコード例にも使用します。

太字のモノスペースフォント

このマニュアルに記載されているパスはすべて、UNIX 形式です。Windows NT ベースの Instant Messaging を使う場合は、このマニュアルのすべての UNIX ファイルパスを Windows NT の対応するファイルパスに読み替える必要があります。

太字のモノスペースフォントは、コード例中のユーザーが入力するテキストを表わします。たとえば、次のように使用されます。

```
./setup
Copyright (c) 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Use
is subject to license terms. Sun, Sun Microsystems, the Sun logo,
Java, Solaris and iPlanet are trademarks or registered trademarks of
Sun Microsystems, Inc.in the U.S. and other countries.  Federal
Acquisitions: Commercial Software - Government Users Subject to
Standard License Terms and Conditions.
```

```
Copyright (c) 2003 Sun Microsystems, Inc. Tous droits r市erv市.
Distribué par des licences qui en restreignent l'utilisation. Sun,
Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris et iPlanet sont des
marques de fabrique ou des marques d姿os仔s de Sun Microsystems,
Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

=====================================================================

Verifying permissions
Verifying java available
Found java (/usr/j2se/bin/java) version (1.3.0) in the system.
Verifying installation components available
Verifying directories available
Verifying files available
Starting install wizard in graphical mode
```

この例では、**./setup** が、ユーザーがコマンド行から入力する文字列で、それ以外は、その実行結果として表示されるテキストです。

イタリックフォント

*イタリックフォント*は、インストール状況に応じた固有の情報 (変数など) を使用して入力するテキストに使用されます。サーバーのパスや名前、アカウント ID に対して使います。

角括弧

角括弧 [] で囲まれているパラメータは、省略可能です。たとえば、このマニュアルでは、imadmin コマンドの使用例が次のように示されます。

```
imadmin [options] [action] [component]
```

この [subcommands]、[options]、および [arguments] は、dadmin コマンドに追加できるオプションパラメータがあることを示しています。

コマンド行プロンプト

コマンド行プロンプト (C シェルでは %、Korn シェルと Bourne シェルでは $) は、サンプル内に表示されていません。実際に表示されるコマンド行プロンプトは、ユーザーのオペレーティングシステム環境によって異なります。ただし、コマンドは特に指定されていないかぎり、このマニュアルに示されているとおりに入力してください。

関連するサードパーティの Web サイトの参照

このマニュアルではサードパーティの URL を参照し、追加の関連情報を入手できます。

注

Sun は、この文書に記載されたサードパーティの Web サイトの利用について責任を負いません。Sun は、かかるサイトまたはリソースを通じて入手できるコンテンツ、広告、製品などのマテリアルを保証せず、その責任を負いません。Sun は、かかるサイトまたはリソースを通じて入手できるコンテンツ、商品、サービスなどの利用に起因する損失または損害、またはその申し立てに対して責任を負いません。

サンマイクロシステムズ社は、そうしたサイトまたはリソース上で利用可能な、あるいはそれらを通じて利用可能なコンテンツ、商品、サービスの使用または依存によって直接的間接的に発生した実質的または疑いのある損害または損失に対する、いかなる責任をも負わないものとします。

Sun オンラインマニュアルへのアクセス

このマニュアルのほかに、管理者は次の関連マニュアルを参照できます。

- Sun ONE Directory Server のマニュアルセット

  http://docs.sun.com/db/prod/s1.s1dirs#hic

- Sun ONE Messaging Server マニュアルセット

  http://docs.sun.com/db/prod/s1msgsrv#hic

- Sun ONE Calendar Server のマニュアルセット

  http://docs.sun.com/db/prod/s1.s1cals#hic

- Sun ONE Instant Messaging Server のマニュアルセット

  http://docs.sun.com/db/prod/s1instmsg#hic

- Sun ONE Identity Server のマニュアルセット

  http://docs.sun.com/db/prod/s1.s1idsrv#hic

- Sun ONE Portal Server のマニュアルセット

  http://docs.sun.com/db/prod/s1.s1portals#hic

- Sun ONE Web Server のマニュアルセット

  http://docs.sun.com/db/prod/s1websrv#hic

以上のすべてのマニュアルおよびその他のマニュアルにアクセスするには、次の Web サイト内を検索してください。

http://docs.sun.com

第 1 章

Sun ONE Instant Messaging ソフトウェアの紹介

この章では、Sun™ ONE Instant Messaging のコンポーネント、アーキテクチャ、および構成について説明します。

この章には、次の節があります。

- Sun ONE Instant Messaging のコンポーネント
- Sun ONE Instant Messaging 配備構成
- 設定ファイルとディレクトリ構造
- Sun ONE Instant Messaging における SSL の使用
- Sun ONE のプライバシ、セキュリティ、およびサイトポリシー

Sun ONE Instant Messaging のコンポーネント

Instant Messaging Server を使うと、エンドユーザーは、リアルタイムかつインタラクティブなメッセージングおよびディスカッションに参加することができます。Sun ONE Instant Messaging は、エンドユーザーの Instant Messaging やチャットセッションへの参加、ユーザー間のアラートメッセージの送信、グループニュースの共有を、迅速に実現します。このため、この製品は、イントラネットとインターネットのどちらでの使用にも適しています。

Sun ONE Instant Messaging のサービスをエンドユーザーに提供する際に使用されるコンポーネントは、配備の種類に応じて異なります。

基本的な配備シナリオ

Sun ONE Instant Messaging Server は、次のいずれかのシナリオで配備できます。

- 特定の LDAP サーバーにのみ接続するサーバーとして配備
- Sun ONE Identity Server に接続するサーバーとして配備
- Sun ONE Identity Server および Sun ONE Portal Server に接続するサーバーとして配備。エンドユーザーは Portal Server のデスクトップ上で Instant Messenger を利用できる

Instant Messaging のコアコンポーネントの簡易リファレンス

Instant Messaging のコアコンポーネントは、上記のどの配備方式を使う場合も同一です。Instant Messaging のコンポーネントは、次のとおりです。

- Sun ONE Instant Messenger リソース : これは、Sun ONE Instant Messenger クライアントを構成する一連のファイルです。
- Sun ONE Instant Messenger: これは Java Instant Messaging アプレットです。この Java ベースの Sun ONE Instant Messenger クライアントは、Java™ Web Start、Java Plug-in のいずれかを使って Web 経由で起動されます。
- Sun ONE Instant Messaging Server : Instant Messaging Server は、プレゼンス情報をメッセンジャクライアントに提供したり、エンドユーザーが Instant Messaging セッションを確立できるようにしたり、ポリシーを適用したりします。
- Instant Messaging マルチプレクサ : スケーラビリティを高めるためのコンポーネントです。メッセンジャからサーバーへの複数の接続を単一の TCP (Transmission Control Protocol) 接続に集約します。Instant Messaging マルチプレクサは、単にマルチプレクサとも呼ばれます。
- Sun ONE Identity Server Instant Messaging サービス定義 : このコンポーネントをインストールできるのは、Identity Server または Identity Server SDK がシステム上にインストールされている場合だけです。

Instant Messaging 関連コンポーネントの簡易リファレンス

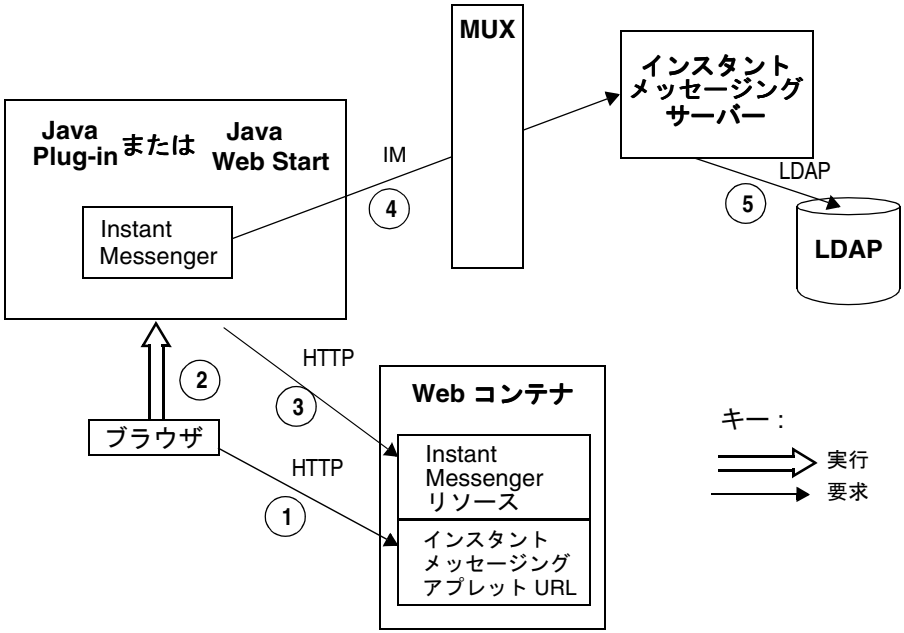
次の各ソフトウェアコンポーネントは、Sun ONE Instant Messaging Server と協調動作しますが、それらのインストールは個別に行う必要があります。

- Web サーバー : ポータル配備では、Sun ONE Portal Server に付属している Web サーバーを使います。LDAP 配備では、Sun ONE Application Server SE (Standard Edition) などの Web サーバーをインストールする必要があります。どちらの場合も、Instant Messenger のリソースが、Web サーバーのホストマシン上に存在している必要があります。
- LDAP ディレクトリサーバー : Instant Messaging は、Sun ONE Directory Server などの LDAP サーバーを使ってエンドユーザーの認証や検索を行います。ポータル配備の場合、Instant Messaging Server がエンドユーザーを検索する際、Portal Server が使用している LDAP サーバーが使われます。
- (省略可能) SMTP サーバー : オフラインのエンドユーザーに対するインスタントメッセージを転送する際に、Sun ONE Messaging Server またはその他の SMTP サーバーが使われます。
- (省略可能) Sun ONE Portal Server : ポータル配備の場合、Sun ONE Portal Server がインストールされます。
- (省略可能) Sun ONE Identity Server : Instant Messaging サービスを追加する場合、Sun ONE Identity Server がインストールされます。

配備の概要 : LDAP 単独配備

18 ページの図 1-1 は、LDAP 単独構成 Sun ONE Instant Messaging の認証プロセスにおける、ソフトウェアコンポーネント間の相互作用の様子を示したものです。この図のポイントは、認証要求の流れにあります。なお、各要求で使われるプロトコルが矢印の横に記載されています。IM プロトコルは、メーカー独自のプロトコルです。「MUX」という用語は、マルチプレクサ (マルチプレクサ) の略語です。このプロセスの手順について、以下で説明します。

図 1-1　LDAP 単独構成における認証要求の流れ



LDAP 単独の Sun ONE Instant Messaging 配備と Sun ONE Identity Server を使う Sun ONE Instant Messaging 配備の主な違いは、認証プロセスにあります。LDAP 単独の Instant Messaging 配備における認証プロセスは、次の手順に従って動作します。

1. エンドユーザーが、ブラウザから Sun ONE Instant Messenging アプレットの URL にアクセスします。
2. ブラウザが、Java Web Start または Java Plug-in を起動します。
3. Java Web Start または Java plug-in が、必要な Sun ONE Instant Messenger リソースファイルをダウンロードし、Instant Messenger を起動します。
4. ログイン用のウィンドウが表示されます。エンドユーザーがログイン名とパスワードを入力します。このデータが、マルチプレクサ経由で Instant Messaging Server に送信されます。
5. Sun ONE Instant Messaging Server は、LDAP サーバーと通信することで、エンドユーザーを認証し、エンドユーザーの情報を取得します。

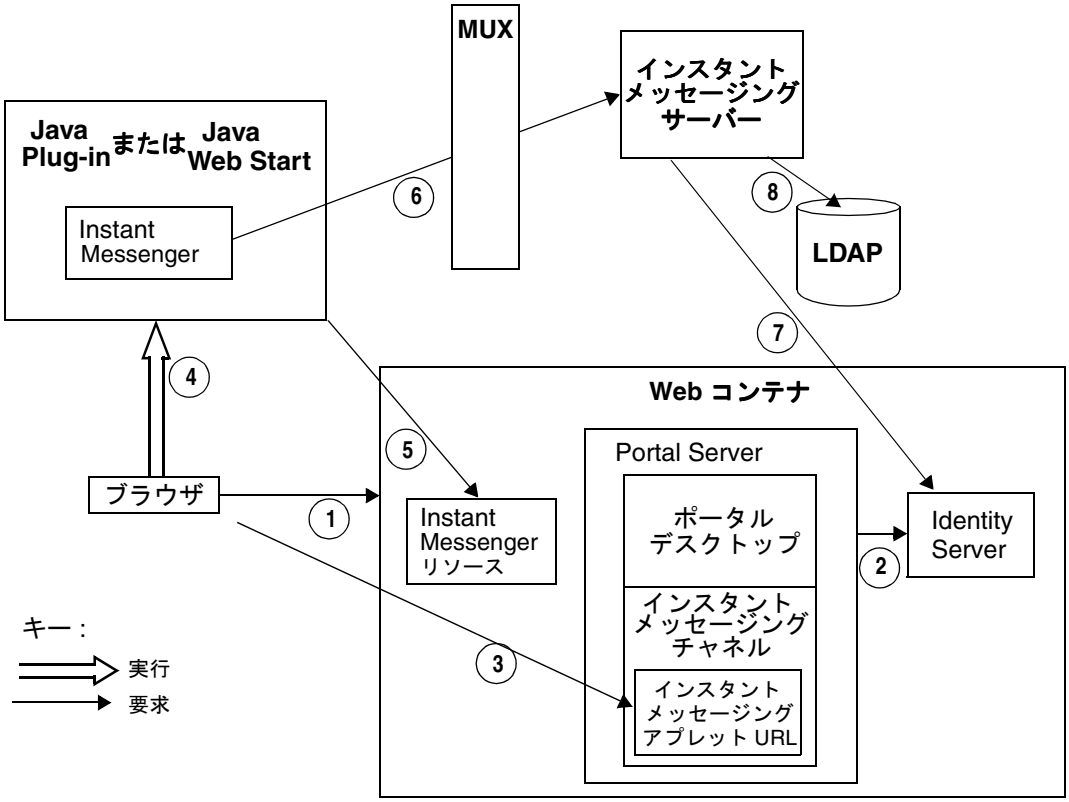
エンドユーザーは、オフライン時にアラートが電子メールとして転送されるように設定しておく必要があります。

エンドユーザーの認証が完了すると、Sun ONE Instant Messaging のメインウィンドウが表示され、そこにエンドユーザーの連絡先一覧が表示されます。これで、エンドユーザーは、ほかのエンドユーザーとの Sun ONE Instant Messaging セッションを開始し、それらに参加できるようになります。

配備の概要：シングルサインオン環境における Identity Server と Portal Server

図 1-2 は、シングルサインオン環境において、Sun ONE Instant Messaging ソフトウェアが Sun ONE Portal Server コンポーネントおよび Sun ONE Identity Server コンポーネントと協調動作しながら認証を行うプロセスを示したものです。この図のポイントは、18 ページの図 1-1 の場合と同様に、認証要求の流れにあります。このプロセスの手順について、以下で説明します。

図 1-2　Portal Server / Identity Server 構成における認証要求の流れ



シングルサインオン環境における Sun ONE Identity Server / Portal Server 配備での Sun ONE Instant Messaging Server の認証プロセスは、次の手順に従って動作します。

1. エンドユーザーが、Sun ONE Portal Server にログインするために、対応する URL を Web ブラウザから入力します。
2. Sun ONE Identity Server ソフトウェアが、エンドユーザーを認証し、セッショントークンを返します。続いて、Sun ONE Portal Server が、そのエンドユーザーの Portal Server デスクトップをダウンロードします。Portal Server デスクトップが、エンドユーザーのブラウザに表示されます。セッショントークンについては、手順 6 を参照してください。
3. エンドユーザーが、Portal Server デスクトップ上にある Instant Messaging チャネルの Sun ONE Instant Messenger URL リンクをクリックします。

4. ブラウザが、Java Web Start または Java Plug-in を起動します。
5. Java Web Start または Java plug-in が、必要な Sun ONE Instant Messenger リソースファイルをダウンロードし、Instant Messenger を起動します。
6. Sun ONE Instant Messenger が、Sun ONE Instant Messaging Server に対し、セッショントークンを使って認証を要求します。

   セッショントークンは、シングルサインオンを実現するために必要です。このトークンは、アプレットパラメータとして提供され、認証プロセス全体を通じて使われます。セッショントークンが存在する限り、エンドユーザーが資格情報の再入力を要求されることはありません。
7. Sun ONE Instant Messaging Server が、Sun ONE Identity Server にセッショントークンの検証を依頼します。セッションが有効な場合、エンドユーザーの連絡先一覧が Sun ONE Instant Messenger に表示され、そのエンドユーザーは、チャット、アラート、調査などの Sun ONE Instant Messenger サービスを利用できるようになります。
8. Sun ONE Instant Messaging Server は、LDAP 問い合わせを直接実行することで、連絡先一覧や加入などのエンドユーザー情報を取得および設定する必要があります。

ポータル環境で Sun ONE Instant Messaging を配備する方法の詳細については、『Sun ONE Instant Messaging 6.1 配備ガイド』を参照してください。

Instant Messaging の各コンポーネントの役割

Sun ONE Instant Messenger

Java ベースの Sun ONE Instant Messenger は、Instant Messaging のクライアントとして機能します。これは、Java Plug-in を使ったブラウザベースのアプレットとして設定することもできますし、Java Web Start を使ったブラウザに依存しないアプリケーションとして設定することもできます。

Sun ONE Instant Messenger クライアントを Solaris 上で実行するには、Java Web Start を使う必要があります。Microsoft Windows 上の Instant Messenger は、アプレット、Java Web Start アプリケーションのいずれとしても実行できますが、Java Web Start アプリケーションとして実行することをお勧めします。

Sun ONE Instant Messenger のカスタマイズ方法の詳細については、79 ページの「Sun ONE Instant Messenger の管理」を参照してください。

Sun ONE Instant Messenger が提供する通信モードは、次のとおりです。

- **チャット** - Instant Messaging 会議の Sun ONE Instant Messenger バージョンは、チャットと呼ばれます。リアルタイムに対話可能なチャットを使用すると、エンドユーザーは、プロジェクトを遂行したり、顧客の質問に答えたり、即時性が要求されるその他の業務をこなしたりすることができます。(2 人以上のユーザーが参加する) チャットセッションは、必要に応じて作成されたチャットルーム内で実施されます。
- **会議室** - 会議室は、通常のチャットセッションに似た機能を備えた永続的なチャットルームですが、次の機能を提供する点が異なります。
  - アクセス制御
  - モデレートチャット
- **アラート** - アラートは、Instant Messenger のインタフェース経由による情報配信やエンドユーザーへの応答を可能にします。アラートを使うと、即時性が要求される情報をエンドユーザーに配信できます。メッセージが配信され、それを受信者が読んだ時点で、そのことがアラートメッセージの送信者に通知されます。応答が必要なアラートメッセージを受け取った場合は、「ツール」メニューから「チャット」オプションを選択し、送信者とチャットします。
- **調査** - 調査機能を使うと、質問に対する回答をエンドユーザーに選んでもらうことができます。送信者は、質問と選択式の回答を調査の受信者に送信でき、受信者は、回答を選択することで応答できます。受信者が調査に応答すると、送信者の「ステータス」ウィンドウに回答が表示されます。結果の概要を「ステータス」ウィンドウに表示することもできます。
- **ニュース** - ニュースチャネルは、情報の投稿と共有を目的としたフォーラムです。エンドユーザーは、興味のあるニュースチャネルに加入できます。特定のニュースチャネルに加入すると、そのチャネルの URL にアクセスしたり、静的なメッセージを使ったりして、そのチャネルの更新情報を参照できます。管理者は、ニュースチャネルへのアクセスを制御するために、エンドユーザーを必要なニュースチャネルに割り当て、それらのチャネルの情報を閲覧または投稿できるユーザーを決定します。

注 インスタントメッセージには、`http://stocks.yahoo.com?id=sunw` のような、埋め込み URL を含めることができます。プロキシサーバーを使う場合、Java Web Start を使うクライアントのプロキシ設定を変更することで、そのような URL を解決できるようにする必要がある可能性があります。

プロキシ設定を手動で設定する方法の詳細については、「Sun ONE Instant Messenger プロキシ設定の変更」を参照してください。

Sun ONE Portal Server

Portal Server デスクトップ

Portal Server 環境にインストールされた Sun ONE Instant Messenger は、Portal Server デスクトップ上でエンドユーザーが利用可能な Instant Messaging チャネルから起動できます。

Sun ONE Portal Server, Secure Remote Access

Sun ONE Portal Server, Secure Remote Access を使用すると、リモートのエンドユーザーが、自身の所属する組織のネットワークやサービスにインターネット経由で安全にアクセスし、Solaris ベースまたは Windows ベースのシステムを利用できます。エンドユーザーがセキュアリモートアクセスにアクセスするには、Web ベースの Portal Server デスクトップにポータルゲートウェイ経由でログインします。Sun ONE Portal Server 用に設定された認証モジュールが、エンドユーザーの認証を行います。エンドユーザーと Sun ONE Portal Server 間のセッションが確立され、そのエンドユーザーの Portal Server デスクトップへのアクセスが可能になります。

Sun ONE Portal Server 環境では、Sun ONE Instant Messenger を、セキュアモード、非セキュアモードのいずれかに設定できます。セキュアモードでは、Sun ONE Portal Server Netlet によって通信が暗号化されます。セキュアモードで Sun ONE Instant Messenger にアクセスした場合、Instant Messenger の「ステータス」領域に鍵形のアイコンが表示されます。非セキュアモードでは、Sun ONE Instant Messenger セッションは暗号化されません。Netlet の詳細については、『Sun ONE Portal Server, Secure Remote Access 管理者ガイド』を参照してください。

Sun ONE Identity Server

Sun ONE Identity Server は、エンドユーザーとサービス管理者に対し、認証サービスとシングルサインオンサービスを提供します。また、ポリシー管理、ロギングサービス、デバッグユーティリティ、管理コンソール、およびクライアントサポートの各インタフェースも提供します。

Instant Messaging Server

Instant Messaging Server は、Instant Messenger の権限やセキュリティを制御したり、Sun ONE Instant Messenger クライアントがアラートの送信、チャットの開始、利用可能なニュースチャネルへのメッセージの投稿などを通じて相互通信できるようにします。

Instant Messaging Server は、1 つのソケット上で接続を集約するマルチプレクサの接続をサポートします。マルチプレクサの詳細については、「Instant Messaging マルチプレクサ」を参照してください。

アクセス制御ファイルおよび Sun ONE Identity Server ポリシーは、エンドユーザー、ニュースチャネル、および会議室を管理するために使われます。

Instant Messaging マルチプレクサ

Instant Messaging マルチプレクサコンポーネントは、複数の Instant Messenger 接続を単一の TCP (Transmission Control Protocol) 接続に接続します。その単一の接続はさらに、バックエンドの Instant Messaging Server に接続されます。マルチプレクサは、Sun ONE Instant Messenger からのデータを読み取り、それをサーバーに書き込みます。逆に、サーバーが Sun ONE Instant Messenger にデータを送信した場合、マルチプレクサはそのデータを読み取り、それを対応する接続に書き込みます。マルチプレクサは、エンドユーザーの認証や、クライアント / サーバー間のプロトコル (IM プロトコル) の解析などは行いません。

ユーザーの配備要求に基づいて、複数のマルチプレクサをインストールできます。詳細については、26 ページの「Sun ONE Instant Messaging 配備構成」を参照してください。

Web サーバー

Instant Messaging は、Instant Messenger リソースを提供する Web サーバーを必要とします。Instant Messenger リソースファイルには、次のリソースが含まれます。

- Sun ONE Instant Messenger に付属する `index.html` ファイルまたは Sun ONE Instant Messenger 起動用リンクを含むホームページ
- Sun ONE Instant Messenger の `jar` ファイル (`messenger.jar`、`imres.jar`、`imbrand.jar`、`imdesktop.jar`、`imnet.jar`、および `imjni.jar`)
- Sun ONE Instant Messenger のオンラインヘルプ

Instant Messenger リソースは、Web サーバーがインストールされているホスト上にインストールする必要があります。Identity Server 配備の場合、Sun ONE Instant Messenger のインストール先として、Sun ONE Identity Server ホストを選択することもできますし、別の Web サーバーホストを選択することもできます。多くの場合、Instant Messenger リソースは、Instant Messaging Server ソフトウェアをインストールしたホスト上にインストールされます。Instant Messaging Server やマルチプレクサがインストールされていないホスト上に Instant Messenger リソースを配置することも可能です。詳細については、『Sun ONE Instant Messaging 6.1 インストールガイド』を参照してください。

注	Web サーバーをインストールしたあとに、Sun ONE Instant Messaging をインストールしてください。 Sun ONE Portal Server を使う場合、その製品に同梱されている Web サーバーを使用できます。別の Web サーバーを Instant Messaging 用に別途インストールする必要はありません。

LDAP ディレクトリサーバー

Sun ONE Instant Messaging Server は、エンドユーザーの認証、エンドユーザーの検索、エンドユーザー情報およびグループ情報へのアクセス時に、LDAP ディレクトリサーバーを必要とします。

Instant Messenger のエンドユーザー情報は、Sun ONE Instant Messaging Server には格納されず、代わりに LDAP サーバーに格納されます。Instant Messaging Server は、LDAP サーバー内のエンドユーザーを検索する際に、LDAP の cn 属性と uid 属性を使います。

Sun ONE Instant Messaging Server は、エンドユーザーとグループの情報検索を、共通のエンドユーザー属性に基づいて行います。設定ファイルを使用すると、システム管理者は、サーバーが使う属性名と検索フォルダを指定できます。Sun ONE Instant Messaging プロパティ (Sun ONE Instant Messenger のプロパティと加入情報) は、Sun ONE Instant Messaging Server 上のファイル内に格納することも、LDAP サーバー内に格納することもできます。

Sun ONE Instant Messaging は、Sun ONE Directory Server などの LDAP ディレクトリ内に定義および保持されたエンドユーザーをサポートします。

LDAP ディレクトリがまだインストールされていない場合は、インストールする必要があります。詳細については、『Sun ONE Instant Messaging 6.1 インストールガイド』を参照してください。

SMTP サーバー

Instant Messaging は、オフラインであるためにアラートを受け取れないエンドユーザーに対し、SMTP サーバーを使ってアラートを電子メールとして転送します。

SMTP サーバーは、Instant Messaging に同梱されていません。SMTP サーバーがまだインストールされていない場合は、インストールする必要があります。詳細については、『Sun ONE Instant Messaging インストールガイド』を参照してください。

Sun ONE Instant Messaging 配備構成

Sun ONE Instant Messaging Server は、ユーザーサイトの要件に合うようにインストールおよび構成できます。以下に、Instant Messaging 配備シナリオのいくつかを示します。

- 別の Web サーバーホストを含む Sun ONE Instant Messaging 配備
- 複数のマルチプレクサホストを含む Sun ONE Instant Messaging 配備
- 複数の Instant Messaging Server ホストを含む Sun ONE Instant Messaging 配備

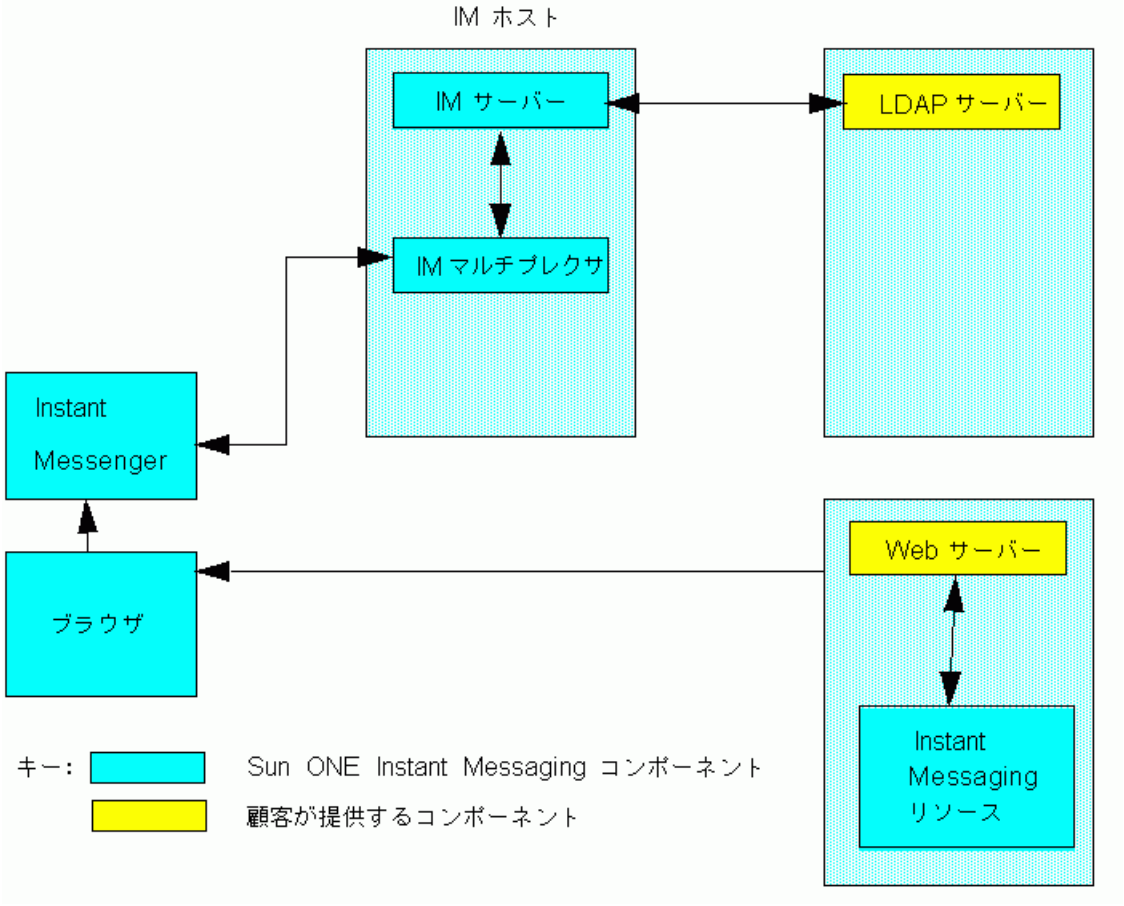
注 この節で説明している構成詳細は、LDAP 配備の Instant Messaging Server に対するものです。

ポータル配備の Instant Messaging Server の構成については、『Sun ONE Instant Messaging 6.1 配備ガイド』を参照してください。

別のホスト上にインストールされた Web サーバーと Instant Messenger リソース

図 1-3 は、Instant Messaging Server とマルチプレクサが同じホスト上にインストールされ、Web サーバーがそれとは別のホスト上にインストールされる構成を示したものです。また、Web サーバーのホスト上には、Instant Messenger リソースも存在しています。既存の Web サーバーと LDAP サーバーのインスタンスが存在しており、それらのホスト上にほかのアプリケーションをインストールしたくない場合に、この構成を使います。

図 1-3　別のホスト上にインストールされた Web サーバーと Instant Messenger



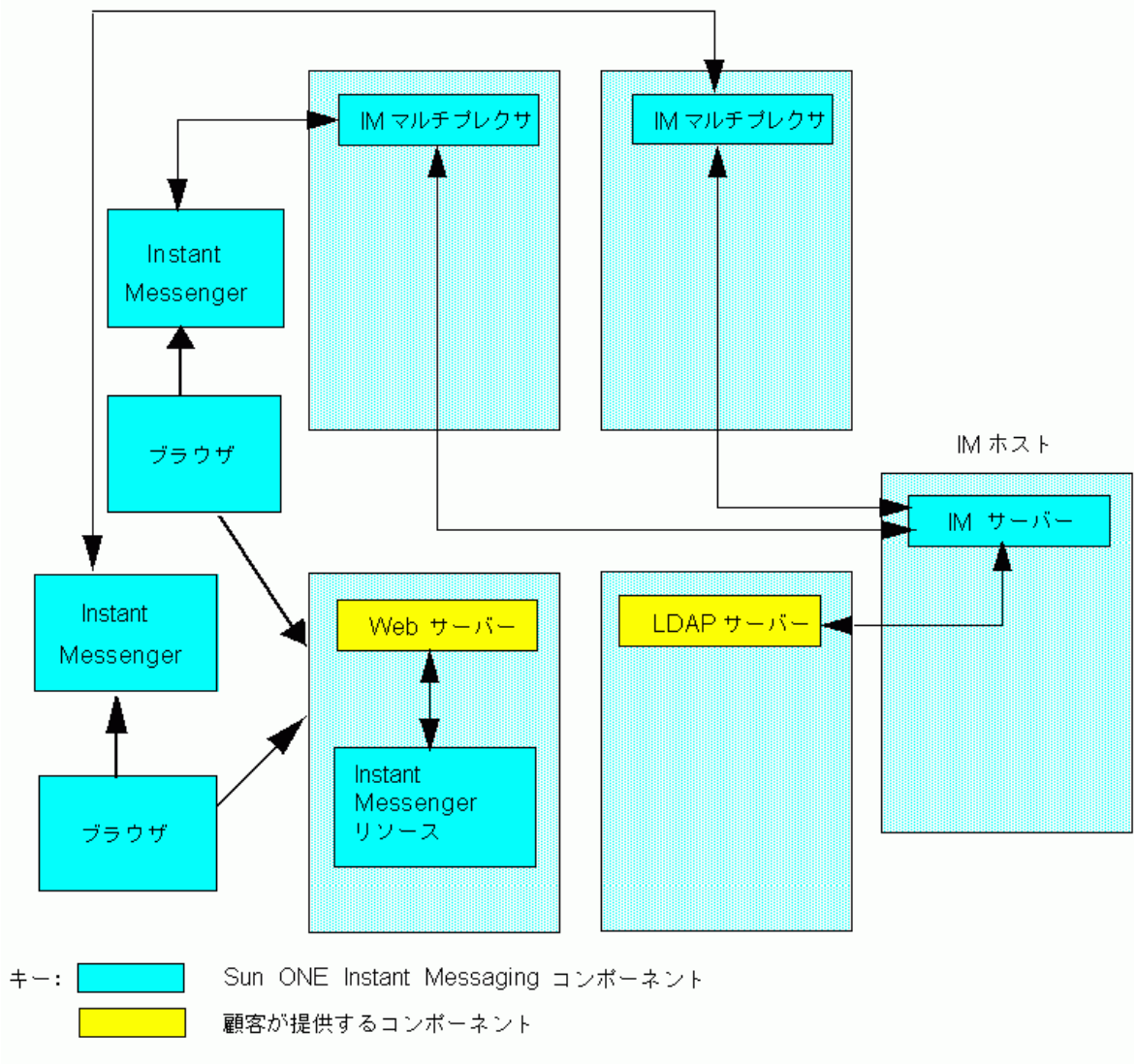
複数のマルチプレクサホスト

図 1-4 は、2 つのマルチプレクサがそれぞれ別のホスト上にインストールされ、Instant Messaging Server がそれらとは別のホスト上にインストールされる構成を示したものです。この構成を使用すると、会社のファイアウォールの外側にマルチプレクサを配置できます。マルチプレクサを複数のホスト上にインストールすると、Instant Messaging Server の複数システムへの負荷分散が図れます。

注

- マルチプレクサは大量のリソースを消費する場合があるため、それらを別のホスト上に配置すると、システム全体のパフォーマンスが向上する可能性があります。
- Windows の場合、1 台のホスト上に配置できるマルチプレクサインスタンスは 1 つだけです。

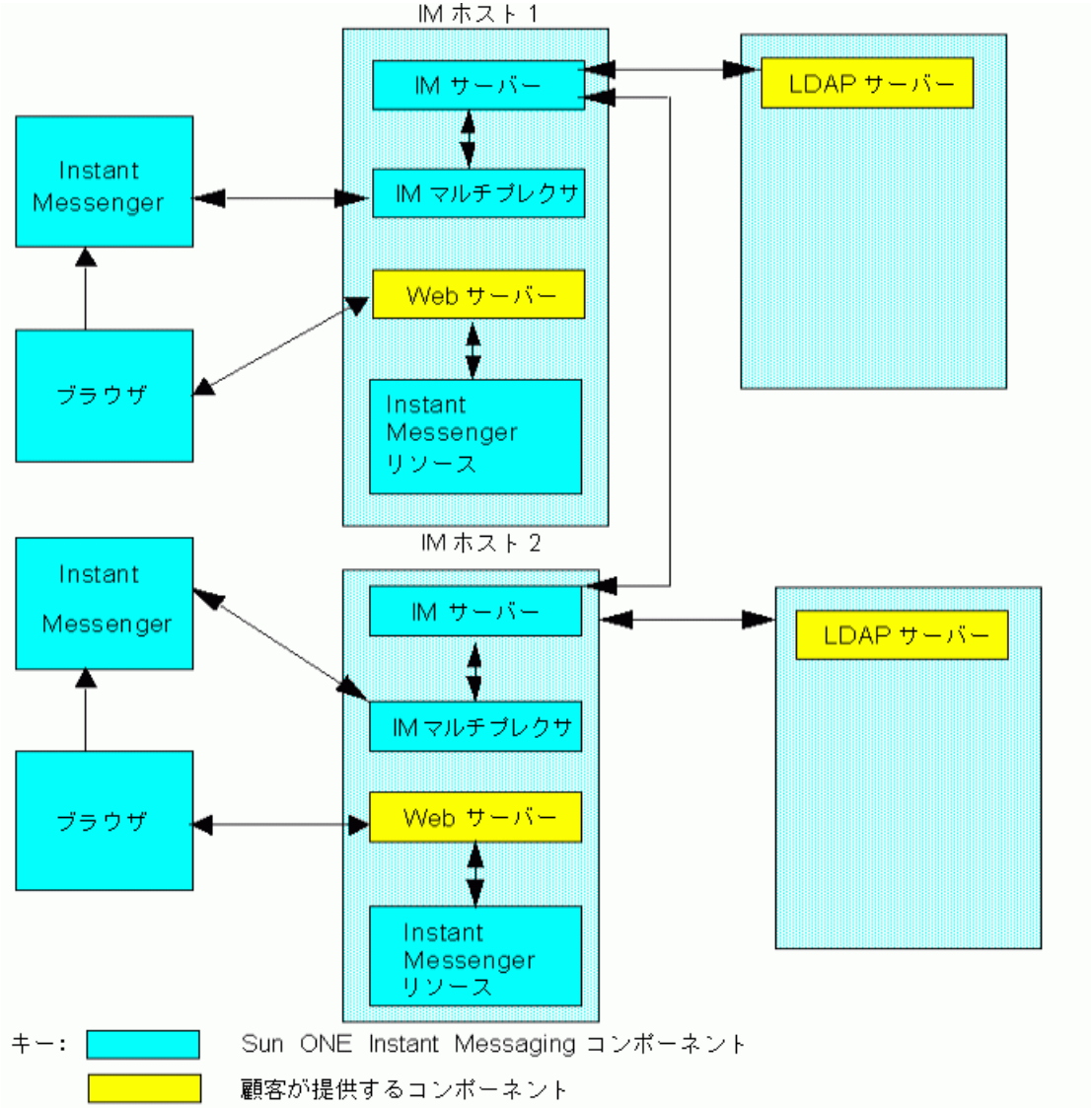
図 1-4　異なる 2 つのホスト上にインストールされた Instant Messaging マルチプレクサ



複数の Instant Messaging 配備の連合

図 1-5 は、2 つの Instant Messaging Server を含む構成を示したものです。サイトに複数の管理ドメインが含まれている場合に、この構成を使います。各 Instant Messaging Server ホスト上のサーバーを設定することで、一方の Instant Messaging Server 上のエンドユーザーが他方の Instant Messaging Server 上のエンドユーザーと通信できるようにする必要があります。複数の Instant Messaging 配備を連合させる方法の詳細については、50 ページの「複数の Instant Messaging Server の連合配備」を参照してください。

図 1-5　複数の Instant Messaging Server ホスト



設定ファイルとディレクトリ構造

この節では、Instant Messaging Server のディレクトリ構造と、Instant Messaging の処理データと設定情報を格納するためのプロパティファイルについて説明します。

Instant Messaging Server のディレクトリ構造

表 1-1 は、Instant Messaging Server のプラットフォーム別のディレクトリ構造を示したものです。

表 1-1 Instant Messaging server のディレクトリ

説明	Solaris 環境での格納場所	Windows 環境での格納場所
プログラムファイル これらのファイルには、ネイティブの実行可能ファイルとライブラリファイル (bin ディレクトリまたは lib ディレクトリ内)、シェルスクリプト (sbin ディレクトリ内)、Java クラス (classes ディレクトリ内)、テンプレートファイル (lib ディレクトリ内) が含まれている	*instant-messaging-installation* ディレクトリ /SUNWiim instant-messaging-installation-directory のデフォルト値は /opt	*instant-messaging-installation* ディレクトリ instant-messaging-installation-directory のデフォルト値は c:¥Program Files¥Sun¥InstantMessaging
サーバー設定ファイル これらのファイルは、instant-messaging-configuration ディレクトリ内に格納される。このディレクトリには、iim.conf ファイルが格納される。また、そのサブディレクトリには、サーバー全体に対するすべてのアクセス制御ファイルが格納される	デフォルトで、instant-messaging-configuration ディレクトリは次の場所に設定される /etc/opt/SUNWiim/default/config **注**：インストーラは、/etc/opt/SUNWiim/default/config から *instant-messaging-installation* ディレクトリ /SUNWiim/config へのシンボリックリンクを作成する	*instant-messaging-installation-directory*¥config

表 1-1 Instant Messaging server のディレクトリ (続き)

説明	Solaris 環境での格納場所	Windows 環境での格納場所
Instant Messaging Server データ これらのファイルには、実行時にサーバーによって生成されたファイルを格納するための設定可能なディレクトリが含まれる。エンドユーザーデータが `instant-messaging-database` ディレクトリ内に格納される。このディレクトリには、ユーザーやニュースチャネル用のディレクトリなどの情報が含まれる。また、サーバーおよびマルチプレクサのログファイルが `log` ディレクトリ内に格納される	*instancevardir*/`default` *instancevardir* のデフォルト値は `/var/opt/SUNWiim`	*instant-messaging-installation-directory*¥
Instant Messenger リソース これらのファイルには、Sun ONE Instant Messenger が使用する HTML 文書や `jar` ファイルなどがある。最上位のディレクトリにはロケールに依存しないリソースが、ロケール固有のディレクトリにはローカライズされたリソースが、それぞれ格納される	instant-messaging-resource ディレクトリ このリソースディレクトリのデフォルト値は次のとおり `/opt/SUNWiim/html`	instant-messaging-resource ディレクトリ

注 Linux 上でのプライマリサーバーパッケージ名は、`soim` です。したがって、表 1-1 の「Solaris の場所」欄に記載されているすべてのパス内のパッケージ名を、`soim` で置き換える必要があります。たとえば、`SUNWiim` を `soim` で置き換えます。

Sun ONE Instant Messaging Server の設定ファイル

Instant Messaging は、すべての設定オプションを `iim.conf` ファイル内に格納します。このファイルに格納されるパラメータと値の詳細については、「Instant Messaging の設定パラメータ」を参照してください。

Sun ONE Instant Messaging のデータ

Instant Messaging Server は、Sun ONE Instant Messenger が使用する以下のデータを、ユーザーがインストール時に指定した実行時ファイル用ディレクトリ内に格納します。このディレクトリ名は、`iim.conf` ファイル内の `iim.instancevardir` パラメータに設定されています。

- 連絡先一覧、メッセンジャの設定、加入しているニュースチャネル、アクセス制御などのエンドユーザーのプロパティ (これらのプロパティは、LDAP に格納することもできる)
- ニュースチャネルのメッセージとアクセス規則
- 配信すべきアラートメッセージ。これらのメッセージは、受信者がログインした際に配信および削除される
- 公開会議。これには、永続的でないインスタントメッセージは含まれない。含まれるのは、アクセス規則など、会議オブジェクト自体のプロパティのみ

Sun ONE Instant Messaging における SSL の使用

Instant Messaging は、複数の Instant Messaging Server 間で暗号化された通信や証明書に基づく認証を行えるように、SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルをサポートしています。Instant Messaging Server は、SSL バージョン 3.0 をサポートしています。

Sun ONE Instant Messaging マルチプレクサと Sun ONE Instant Messenger も、クライアントとマルチプレクサ間で暗号化された通信を行えるように、SSL をサポートしています。

SSL の詳細については、『Sun ONE Console and Administration Server 5.0 Server Management Guide』の付録 B を参照してください。

Sun ONE Instant Messaging Server の SSL を有効にするには、次の手順を実行する必要があります。

1. ユーザーの Instant Messaging Server に対する証明書を取得およびインストールしたあと、証明書発行局の証明書を信頼するように Instant Messaging Server を設定します。
2. ユーザーのサーバーと SSL を使って通信する必要がある各 Instant Messaging Server で、証明書が取得およびインストールされていることを確認します。
3. `iim.conf` ファイル内に適切なパラメータを設定して、サーバーの SSL を有効にします。

マルチプレクサと Sun ONE Instant Messenger 間の SSL を有効にするには、次の手順を実行する必要があります。

1. Instant Messaging マルチプレクサのホストに対する証明書を取得およびインストールしたあと、証明書発行局の証明書を信頼するように Instant Messaging Server を設定します。
2. `iim.conf` ファイル内に適切なパラメータを設定することで、マルチプレクサの SSL を有効にします。
3. エンドユーザーが SSL 版の Instant Messenger (`imssl.jnlp` ファイル、`imssl.html` ファイルなど) を確実にダウンロードおよび使用するようにします。

SSL の設定手順については、「SSL の設定」を参照してください。

Sun ONE のプライバシ、セキュリティ、およびサイトポリシー

Sun ONE Instant Messaging は、Instant Messaging 機能へのアクセスを制御する機能と、エンドユーザーのプライバシを保護する機能を備えています。

サイトポリシー

サイトポリシーは、Sun ONE Instant Messaging の特定機能に対するエンドユーザーのアクセス権を指定します。指定できる権限は、次のとおりです。

- ほかのエンドユーザーのプレゼンスステータスにアクセスする権限
- ほかのエンドユーザーにアラートを送信する権限
- プロパティをサーバー上に保存する権限
- 会議室を作成および管理する権限
- ニュースチャネルを作成および管理する権限

Instant Messaging 管理者は、すべての Instant Messaging 機能にアクセスできます。管理者は、すべての会議室とニュースチャネルに対する MANAGE アクセス権を持っており、任意のエンドユーザーのプレゼンス情報を表示でき、任意のエンドユーザーのプロパティ (連絡先一覧や Instant Messenger 設定など) を表示および変更できます。サイトポリシーの設定は、管理者権限にはまったく影響しません。

エンドユーザーにはデフォルトで、ほかのエンドユーザーのプレゼンスステータスにアクセスする権限、ほかのエンドユーザーにアラートを送信する権限、およびプロパティをサーバー上に保存する権限が与えられます。ほとんどの配備では、このデフォルト値は変更されません。このデフォルト値を変更する必要があるのは、Instant Messaging をポップアップ機能専用として使う場合です。

Instant Messaging をポップアップ機能専用として使う場合、エンドユーザーには、プレゼンス情報、チャット機能、およびニュース機能に対するアクセス権限が付与されません。

注 管理者は、特定の権限をグローバルに設定できますが、それらの権限に対する例外を定義することも可能です。たとえば、管理者は、選択されたエンドユーザー、ロール、またはグループに対して、特定のデフォルト権限を拒否することができます。

サイトポリシーの設定方法の詳細については、101 ページの「Instant Messaging ポリシーおよびプレゼンスポリシーの管理」を参照してください。

会議室とニュースチャネルのアクセス制御

会議室とニュースチャネルに対してエンドユーザーが持つことのできるアクセス権限は、次のとおりです。

- MANAGE - 完全なアクセス権限 (会議室またはニュースチャネルに対するほかのエンドユーザーの権限を設定する権限も含む)
- WRITE - 会議室またはニュースチャネルにコンテンツを追加する権限
- READ - 会議室またはニュースチャネルのコンテンツを読み取る権限
- NONE - アクセス権限なし

MANAGE 権限を持つエンドユーザーは、すべてのエンドユーザーに対するデフォルトの権限レベルを設定できます。また、そうしたエンドユーザーは、特定のエンドユーザーやグループに対してデフォルトとは異なるアクセスレベル権限を付与する例外規則を定義することもできます。

注 WRITE 権限が設定されたエンドユーザーには、READ 権限も付与されます。

ユーザーのプライバシ

エンドユーザーは、自身のプレゼンス情報をほかのエンドユーザーに公開するかどうかを指定できます。デフォルトでは、すべてのエンドユーザーが、ほかのエンドユーザーのプレゼンス情報にアクセスできるようになっています。また、エンドユーザーは、特定のエンドユーザーやグループからのアクセスを拒否する例外を設定することもできます。

あるエンドユーザーが自身のプレゼンスステータスにほかのエンドユーザーがアクセスするのを拒否した場合、ほかのエンドユーザーの連絡先一覧で、そのエンドユーザーのステータスはオフラインとして表示されます。プレゼンスステータスがオフラインになっているエンドユーザーには、アラートやチャットへの参加依頼を送信できません。

ユーザーのプライバシを設定するには、Instant Messenger の「ユーザー設定」ウィンドウを使います。ユーザーのプライバシを設定する方法の詳細については、『Sun ONE Instant Messenger Online Help』を参照してください。

第 2 章

Sun ONE Instant Messaging Server とマルチプレクサの管理

この章では、Sun ONE Instant Messaging Server と Sun ONE マルチプレクサの管理方法について説明するとともに、設定パラメータの変更やエンドユーザーの権限管理など、その他の管理作業の実施方法について説明します。また、Sun ONE Portal Server 配備に対する管理作業についても説明します。

この章には、次の節があります。各節では、Instant Messaging のさまざまな管理作業について説明します。

- Instant Messaging の管理 : エンドユーザー
- サーバーとマルチプレクサの起動と停止 (UNIX の場合)
- Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサの設定パラメータの変更
- ロギングの管理
- エンドユーザーの権限の管理
- 複数の Instant Messaging Server の連合配備
- SSL の設定
- Sun ONE Instant Messaging の LDAP 構成
- カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示する
- Instant Messaging データのバックアップ

Instant Messaging の管理 : エンドユーザー

前の節では Instant Messaging の管理作業を列挙しましたが、この章の残りの節では、これらの各管理作業について詳しく説明していきます。エンドユーザーをプロビジョニングおよび管理する方法 (後述) に注意してください。

Instant Messaging には、ユーザープロビジョニングツールは含まれていません。ディレクトリのプロビジョニングツールを使って Instant Messaging エンドユーザーのプロビジョニングを行う必要があります。Instant Messaging には、Instant Messaging エンドユーザーを追加、変更、削除するためのコマンドは用意されていません。

さらに、LDAP 単独配備では、エンドユーザーが Sun ONE Instant Messenger を使用するのを防ぐことはできません。LDAP 単独配備でエンドユーザーによる Instant Messaging の使用を防ぐには、それらのエンドユーザーをディレクトリから削除するしか方法がありません。ポリシー属性を使ったアイデンティティ配備では、エンドユーザーが Sun ONE Instant Messenger にアクセスするのを防ぐことができます。

管理者は、Instant Messaging の管理アクセス制御メカニズムを使って Instant Messaging エンドユーザーを管理できます。Instant Messaging の管理アクセス制御の詳細については、36 ページの「Sun ONE のプライバシ、セキュリティ、およびサイトポリシー」を参照してください。アイデンティティ配備では、Sun ONE Identity Server を使って Instant Messaging エンドユーザーのプロビジョニングを行います。詳細については、23 ページの「Sun ONE Identity Server」を参照してください。

警告 管理者が `sysWatch.acl` ファイルを編集することによって、各エンドユーザーから、他のユーザーをウォッチする権限を無効にすると、Sun ONE Instant Messenger は、該当するエンドユーザーに対し、そのメインウィンドウを表示しなくなります。これにより、それらのエンドユーザーは事実上、インスタントメッセージを送信できなくなります。ただし、アラートとニュースチャネルの閲覧は、以前と同様に行えます。

サーバーとマルチプレクサの起動と停止 (UNIX の場合)

`imadmin` コマンドを使用すると、以下のことが行えます。

- Instant Messaging Server とマルチプレクサを起動および停止する
- マルチプレクサのみ、あるいはサーバーのみを起動および停止する
- Instant Messaging Server とマルチプレクサの設定を更新する
- マルチプレクサのみ、あるいはサーバーのみの設定を更新する

`imadmin` コマンド行ユーティリティを実行できるのは、Sun ONE Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサが実行されているシステムに対する管理者権限を持つエンドユーザーのみです。このエンドユーザーは通常、サーバーの実行 ID であり、サーバーのインストール時に次のように指定されます。

- Solaris の場合 - `inetuser`
- Windows の場合 - `administrator` など、すべての管理者権限を持つエンドユーザー
- アイデンティティ配備では、Portal Server と Instant Messaging Server が同一ホスト上にインストールされている場合、そのようなエンドユーザーは、Sun ONE Identity Server を `root` として実行しているユーザーになります。

`imadmin` コマンド行ユーティリティは、次のディレクトリ内に格納されています。

- Solaris の場合 : *instant-messaging-installation-directory*/`SUNWiim/sbin`

Sun ONE Instant Messaging Server を起動すると、Sun ONE Instant Messenger がサーバーに接続できるようになります。Instant Messaging Server を停止すると、すべての接続が閉じられ、すべての Instant Messenger の接続が切断されます。

必要であれば、マルチプレクサインスタンスのみを起動および停止できます。たとえば、マルチプレクサだけに影響する設定パラメータを変更した場合や、マルチプレクサが別のホスト上にインストールされている場合、マルチプレクサインスタンスのみを起動および停止すると便利です。

Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサを起動するには

特定のインスタンスに対して有効になっているのが、マルチプレクサのみなのか、サーバーのみなのか、あるいはマルチプレクサとサーバーの両方なのかは、設定パラメータを通じて指定されます。

次の `imadmin` コマンドを実行すると、Sun ONE Instant Messaging のサーバー、マルチプレクサのいずれかまたは両方が起動されます。これはどのコンポーネントが有効になっているかによって変わります。

```
imadmin start
```

サーバーとマルチプレクサの両方が有効になっていた場合、このコマンドによって、まず Instant Messaging Server が起動され、続いてマルチプレクサが起動されます。

Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサを停止するには

次の `imadmin` コマンドを実行すると、Sun ONE Instant Messaging のサーバー、マルチプレクサのいずれかまたは両方が停止されます。これはどのコンポーネントが有効になっているかによって変わります。

```
imadmin stop
```

このコマンドを実行すると、サーバーとマルチプレクサが停止され、すべてのエンドユーザー接続が終了し、設定されているすべての送受信サーバーへの接続が切断されます。

設定を更新するには (Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサ)

次の例のように `refresh` パラメータを指定して `imadmin` コマンドを実行すると、サーバー、マルチプレクサのいずれかまたは両方の設定が更新されます。

```
imadmin refresh
```

このコマンドにより、有効になっているコンポーネント (サーバー、マルチプレクサのいずれかまたは両方) が停止および再起動されます。

注 `iim.conf` ファイル内の設定パラメータを変更した場合は必ず、設定を更新してください。

必要に応じて、マルチプレクサのみ、あるいはサーバーのみを停止、開始、更新することができます。その際、設定ファイル内でどのコンポーネントが有効になっているかは関係ありません。コンポーネントを指定するには、マルチプレクサ、server のいずれかの引数を、imadmin コマンドに指定します。

- マルチプレクサのみを起動するには、次のように入力します。

  ```
  imadmin start multiplexor
  ```

- サーバーのみを停止するには、次のように入力します。

  ```
  imadmin stop server
  ```

Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサの起動と停止 (Windows の場合のみ)

Windows の場合、コントロールパネルから「サービス」ダイアログボックスを開き、そこから Instant Messaging Server とマルチプレクサを起動および停止できます。サービスを起動および停止する方法の詳細については、Windows オペレーティングシステムに付属しているマニュアルを参照してください。

Instant Messaging のサーバーとマルチプレクサの設定パラメータの変更

Instant Messaging の設定パラメータは、iim.conf ファイルに格納されます。設定パラメータを網羅した一覧については、「Instant Messaging の設定パラメータ」を参照してください。

設定パラメータを変更するには、iim.conf ファイル内の設定パラメータとその値を手動で編集したあと、Sun ONE Instant Messaging Server の設定を更新します。マルチプレクサのパラメータのみを変更した場合は、次の imadmin コマンドを使ってマルチプレクサを更新するだけでかまいません。

```
imadmin refresh multiplexor
```

設定パラメータを変更するには

パラメータとその値を網羅した一覧については、「Instant Messaging の設定パラメータ」を参照してください。

設定パラメータを変更するには、次の手順を実行します。

1. `config` ディレクトリに移動します。たとえば、Solaris 上では次のように入力します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWiim/default/config
   ```

2. `iim.conf` ファイルを編集します。たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi iim.conf
   ```

3. 変更内容を保存します。
4. 設定を更新します。

警告 マルチプレクサの待機ポート (`iim_mux.listenport`)、マルチプレクサのホストのいずれかを変更した場合、`im.html` ファイルまたは `im.jnlp` ファイルをそれに応じて変更してください。そうしないと、Sun ONE Instant Messenger がサーバーに接続できなくなります。詳細については、「Sun ONE Instant Messenger の管理」を参照してください。

ロギングの管理

Instant Messaging は、イベント、各種ソフトウェアコンポーネントの関連ステータス、システムエラーといった、サーバーとマルチプレクサに関する情報を記録するためのログファイルを生成します。ログファイルを調査することで、サーバーの処理状況を多角的に監視できます。

Sun ONE Instant Messaging Server とマルチプレクサの両方のロギングレベルを設定できます。それには、`iim.conf` ファイル内で適切なパラメータを指定します。`iim.conf` ファイルにおけるロギングレベルの設定方法の詳細については、「設定パラメータを変更するには」の節を参照してください。

ログファイルの場所は、Instant Messaging のインストール時に指定されます。

- Solaris 上でのデフォルトディレクトリ

  `/var/opt/SUNWiim/default/log`

- Linux 上でのデフォルトディレクトリ

  `/var/opt/soim/default/log`

- Windows 上でのデフォルトディレクトリ

```
c:¥Program Files¥Sun¥InstantMessaging¥log
```

Instant Messaging server システムの通常の保守作業の一環として、ログファイルを定期的に確認し、必要に応じて内容を削除してください。そうしないと、ディスク占有量が増加してしまいます。サーバーは、そのような処理を実行しません。

ロギングレベル

エラーログの優先順位 (レベル) によって、ログの詳細レベル (冗長度) が決まります。優先レベルが高ければ、詳細レベルは低くなります。なぜなら、優先レベル (重要度) の高いイベントのみがログファイルに記録されるからです。逆に、優先レベルが低ければ、詳細レベルは高くなります。なぜなら、より多くのイベントがログファイルに記録されるからです。

ロギングレベルの設定は、Instant Messaging Server、マルチプレクサのそれぞれに対して行えます。

表 2-1 に、Instant Messaging Server のロギングレベルとその説明を示します。これらのロギングレベルは、UNIX の `syslog` 機構で定義されているレベルのサブセットになっています。

表 2-1 Instant Messaging Server とマルチプレクサのロギングレベル

レベル	説明
FATAL	この優先レベルでは、最小限のロギング詳細がログファイルに記録される。重大な問題や緊急事態が発生するたびに、対応するログレコードがログファイルに追加される。FATAL に該当する問題が発生すると、アプリケーションの実行が停止されることもある
ERROR	復旧可能なソフトウェアエラーが発生するか、ネットワーク障害が検出されるたびに、対応するログレコードがログファイルに追加される。たとえば、サーバーがクライアントや別のサーバーへの接続に失敗した場合など
WARNING	ユーザーエラーが検出されるたびに、対応するログレコードがログファイルに追加される。たとえば、クライアントから送信されてきた通信内容をサーバーが理解できない場合など
NOTICE	サーバーの状態を報告するイベントが、ログファイルに定期的に書き込まれる。そのような情報としては、状態 (実行中)、接続中のクライアント数、接続中の送受信サーバー数などが挙げられる
INFO	主要なアクションが発生するたびに、対応するログレコードがログファイルに追加される。たとえば、エンドユーザーがログインやログアウトに成功した場合など

表 2-1　Instant Messaging Server とマルチプレクサのロギングレベル (続き)

レベル	説明
DEBUG	タスク情報がログファイルに記録される。この情報はデバッグ時にのみ役立つ。個々のプロセスまたはタスク内の各イベントとその関連ステップが、ログファイルに書き込まれる。これらの情報は、エンドユーザーがアプリケーションのデバッグ時に問題を特定する際に役立つ

特定のロギングレベルを選択すると、そのレベルのイベントと、それより高いレベルのイベント (つまり、冗長レベルの低いイベント) がすべてログに記録されます。

NOTICE が、サーバーとマルチプレクサの両方のログファイルにおける、デフォルトのレベルです。

注　ロギングレベルとして DEBUG を指定すると、ログファイルはより多くのディスク領域を占有するようになります。ディスク占有量の増加を防ぐために、ログファイルを監視し、必要に応じてその内容を削除してください。

ログファイルのレベルを設定するには

ログファイルのレベルは、iim.conf ファイル内で設定します。ログファイルのロギングレベルを設定する 2 つのオプションを、次に示します。

- サーバー用のロギングパラメータ iim.log.iim_server.severity
- マルチプレクサ用のロギングパラメータ iim.log.iim_mux.severity

Instant Messaging の設定方法の詳細については、「設定パラメータを変更するには」を参照してください。

エンドユーザーの権限の管理

管理者は、エンドユーザーの権限を制限することで、Instant Messaging 情報へのエンドユーザーのアクセスを制御できます。ニュースチャネルの追加と削除、アラートの送信、およびほかのエンドユーザーの監視をエンドユーザーが行えるかどうかは、そのエンドユーザーが持つ権限によって決まります。こうした機能によって、エンドユーザーは、Instant Messaging 内の必要な機能や画面にアクセスできます。Instant Messaging のすべての機能が、この権限システムによって制御されます。このシステムによって、エンドユーザーが Instant Messaging 上の何を表示でき、何を実行できるかが決定されます。

Sun ONE Instant Messaging が提供するアクセス制御メカニズムは、次のとおりです。

- 会議室とニュースチャネルのアクセス制御
- ユーザーのプライバシ

会議室とニュースチャネルのアクセス制御

個々の会議室ごと、ニュースチャネルごとに、エンドユーザーのデフォルトのアクセス権を定義できます。会議室とニュースチャネル上でエンドユーザーが持つことのできるアクセス権は、次のとおりです。

- `MANAGE`
- `WRITE`
- `READ`
- `NONE`

`MANAGE` 権限を持つエンドユーザーは、すべてのエンドユーザーに対するデフォルトの権限レベルを設定できます。また、特定のエンドユーザーやグループに対してデフォルトとは異なるアクセスレベルを付与する例外規則を定義することもできます。

注 `WRITE` 権限が設定されたエンドユーザーには、`READ` 権限も付与されます。

会議室とニュースチャネルに対する権限は、Sun ONE Instant Messenger 経由で設定します。これらのファイルは、Sun ONE Instant Messenger を使って会議室とニュースチャネルを管理する際に自動更新されます。

表 2-2 は、会議室およびニュースチャネルのアクセス制御ファイルと、それらのファイルがエンドユーザーに対して提供する権限を記載した一覧です。これらのアクセス制御ファイルは、`db/acls` ディレクトリ内に格納されています。

表 2-2　会議室とニュースチャネルのアクセス制御ファイル

アクセス制御ファイル	権限
roomname.acl	このファイルでは、会議室でのエンドユーザーのアクセス権限を設定します。
news channelname.acl	このファイルでは、ニュースチャネルでのエンドユーザーのアクセス権限を設定します。

会議室とニュースチャネルのアクセス制御ファイルの形式

roomname.acl ファイルと *news channelname*.acl ファイルの形式は、システムレベルのアクセス制御ファイルの形式とは若干異なります。システムレベルのアクセス制御ファイルの詳細については、105 ページの「アクセス制御ファイルの形式」を参照してください。*roomname*.acl ファイルと *news channelname*.acl ファイルでは、アクセスレベルを定義する数字エントリが、ユーザーエントリまたはグループエントリのあとに追加されます。アクセスレベルは、次のとおりです。

- 1 - なし
- 2- 読み取り
- 6 - 書き込み
- 14 - 管理

次に示すニュースチャネルのサンプルアクセス制御ファイルでは、「読み取り」がデフォルトのアクセス権として設定されているほか、アクセス権「管理」が user1 に、「書き込み」が user2 に、「なし」が user3 に、それぞれ割り当てられています。

```
# Example newschannel.acl file
v:3.0.1
u:user1:14
u:user2:6
u:user3:1
g:cn=group1,ou=groups,o=example:6
d:2
```

注　newschannel.acl ファイル内の「 v:3.0.1」の行は、値の解釈方法をサーバーに通知するためのものです。この行が含まれていない場合には、サーバーが、2 の値を読み取りアクセス権に、6 の値を書き込みアクセス権に、それぞれ関連付けることができなくなってしまいます。

注 *roomname*`.acl` ファイルと *news channelname*`.acl` ファイルは、手作業で編集しないでください。これらのファイルは、Sun ONE Instant Messenger を使って会議室とニュースチャネルを管理する際に自動更新されます。エンドユーザーが Sun ONE Instant Messenger 経由でアクセス権を変更した際に、Sun ONE Instant Messaging Server はこれらのファイルの読み書きを行います。したがって、サーバーの稼働中にファイルを手作業で編集した場合、その変更内容が失われる可能性があります。

ユーザーのプライバシ

エンドユーザーは、自身のプレゼンス情報をほかのエンドユーザーに公開するかどうかを指定できます。デフォルトでは、エンドユーザーのプレゼンスステータスは、すべてのエンドユーザーから参照可能になっています。また、エンドユーザーは、特定のエンドユーザーやグループからのアクセスを拒否する例外を設定することもできます。

あるエンドユーザーが、自身のプレゼンスステータスにほかのエンドユーザーがアクセスするのを拒否した場合、それらのエンドユーザーの連絡先一覧では、そのエンドユーザーのステータスはオフラインとして表示されます。それらのエンドユーザーのプレゼンスステータスがオフラインであるため、アラートやチャットへの参加依頼をそのエンドユーザーに送信できません。

ユーザーのプライバシを設定するには、Instant Messenger の「ユーザー設定」ウィンドウを使います。ユーザーのプライバシを設定する方法の詳細については、『Sun ONE Instant Messaging Online Help』を参照してください。

複数の Instant Messaging Server の連合配備

LDAP 単独配備で、複数の Sun ONE Instant Messaging 配備を連合させた場合、より大きな Instant Messaging コミュニティが形成されます。異なるサーバー上のエンドユーザーが、アクセス権限に基づいて、お互いに通信したり、ほかのドメイン上の会議室を使用したり、リモートサーバー上のニュースチャネルに加入したりできます。

アイデンティティ配備では、単一の Sun ONE Instant Messaging Server が複数のドメインをホストできます。特定の単一ドメインを、Sun ONE Instant Messaging Server インスタンスのデフォルトドメインとして指定することができます。同一サーバーによってホストされた異なるドメイン内のエンドユーザーは、互いに通信することはできません。複数の Sun ONE Instant Messaging 配備を連合させた場合、デフォルトドメイン内のエンドユーザーは、ほかのリモートの Sun ONE Instant Messaging Server のデフォルトドメイン内のエンドユーザーを参照できます。

ネットワーク内の複数の Sun ONE Instant Messaging Server 間の通信を有効にするには、ネットワーク内の各サーバーを設定して、ほかの Sun ONE Instant Messaging Server がそのサーバーを識別できるようにする必要があります。特定の Sun ONE Instant Messaging Server を識別するには、ドメイン名、ホスト名、ポート番号、サーバー ID、およびパスワードを指定します。

サーバーの設定ファイル内で、各 Sun ONE Instant Messaging Server に、文字と数字から構成されるシンボリック名 (`IMserver1` など) を割り当てることができます。

警告 サーバー間通信を TLS (SSL) で保護することをお勧めします。というのも、2 つのサーバー間でデータを交換する際には、第三者によるセキュリティ違反を防止する必要があるからです。2 つのサーバー間を公共のインターネットで結ぶ場合、この対策は不可欠となります。Instant Messaging Server 間の SSL を設定する際には、後述する SSL 設定の概要手順に従ってください。

Instant Messaging Server 間の通信を設定するには

この手順は、iim.company22.com と iim.i-zed.com という、2 つの Instant Messaging Server 間の通信を有効にする方法について説明したものです。

1. 以下の表 2-3 に記載された情報を収集します。

   表 2-3 は、iim.conf ファイル内のサーバー間通信に関するパラメータと、Instant Messaging Server iim.company22.com と iim.i-zed.com. における値を一覧にまとめたものです。

表 2-3　サーバー間通信用の設定情報

iim.conf ファイル内のパラメータ	サーバー iim.company22.com に設定する値	サーバー iim.i-zed.com に設定する値
iim_server.serverid	Iamcompany22	Iami-zed
iim_server.password	secretforcompany22	secret4i-zed
iim_server.coservers	coserver1	coserver1
iim_server.coserver1.host	iim.i-zed.com:9919	iim.company22.com:9919
iim_server.coserver1.serverid	Iami-zed	Iamcompany22
iim_server.coserver1.password	secret4i-zed	secretforcompany22

   設定パラメータの詳細については、「Instant Messaging の設定パラメータ」を参照してください。

注　ほかの Instant Messaging Server と通信するようにサーバーを設定できます。各 Instant Messaging Server は、シンボリック名で識別します。サーバーのシンボリック名は、iim.conf ファイル内の iim_server.coservers パラメータに追加します。このパラメータには複数の値を設定でき、個々の値はコンマで区切ります。

2. サーバー iim.company22.com 上で、config ディレクトリに移動します。たとえば、Solaris 上では次のように入力します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWiim/default/config
   ```

3. iim.conf ファイルを編集します。たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi iim.conf
   ```

注 iim.conf ファイルの所有者は、インストール時に作成した Instant Messaging server アカウントでなければなりません。iim.conf ファイルを Instant Messaging Server アカウントで開けない場合、Instant Messaging Server とマルチプレクサもこの設定ファイルを読み取れません。さらに、iim.conf ファイルを編集できなくなる可能性もあります。

次の例は、iim.company22.com 上の iim.conf ファイル内の、サーバー間通信に対応する部分を示したものです。これらは変更可能です。

```
iim_server.serverid=Iamcompany22
iim_server.password=secretforcompany22
iim_server.coservers=coserver1
iim_server.coserver1.host=iim.i-zed.com:9919
iim_server.coserver1.serverid=Iami-zed
iim_server.coserver1.password=secret4i-zed
```

4. サーバー iim.i-zed.com 上の iim.conf ファイルについて、手順 2 と手順 3 の手順に従います。

   次の例は、iim.i-zed.com 上の iim.conf ファイル内の、サーバー間通信に対応する部分を示したものです。これらは変更可能です。

```
iim_server.serverid=Iami-zed
iim_server.password=secret4i-zed
iim_server.coservers=coserver1
iim_server.coserver1.host=iim.company22.com:9919
iim_server.coserver1.serverid=Iamcompany22
iim_server.coserver1.password=secretforcompany22
```

5. 変更内容を保存し、両方のサーバーの設定を更新します。

SSL の設定

Instant Messenger は、サーバーのマルチプレクサコンポーネントと通信します。Instant Messaging Server と Instant Messenger 間の接続のセキュリティを確保するには、Sun ONE Instant Messenger とマルチプレクサ間の SSL を設定する必要があります。

注 Instant Messaging Server の SSL 実装は、マルチプレクサの実装とは異なっています。このため、この節では、マルチプレクサの SSL を設定する手順を個別に取り上げています。

Sun ONE Instant Messenger とマルチプレクサ間の SSL 設定に必要な手順を、以下に示します。

1. 証明書発行局への証明書の要求
2. 証明書のインストール

注 証明書の管理方法の詳細については、『Sun ONE Web Server 6.1 管理者ガイド』を参照してください。

---

3. マルチプレクサと Instant Messenger 間の SSL を有効にするための Instant Messaging Server の設定
4. サーバー間通信の SSL を有効にする
5. セキュア版 Instant Messenger の起動

証明書発行局への証明書の要求

Instant Messenger とマルチプレクサ間の SSL を有効にするには、証明書をインストールし、セキュア通信用のデータベースを作成する必要があります。証明書の要求とインストールは、Sun ONE Web Server を使って行えます。

Sun ONE Web Server を使って証明書を要求およびインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次の管理サーバー起動用 URL をブラウザに入力します。

   ```
   http://hostname.domain-name:administration_port
   ```

   すると、Sun ONE Web Server によって、ユーザー名とパスワードの入力を要求するウィンドウが表示されます。

2. その Web サーバーのインストール時に指定した管理ユーザー名とパスワードを入力します。

   Sun ONE Web Server によって「Administration Server」ページが表示されます。

3. 別の Web サーバーインスタンスを作成します。複数のサーバーインスタンスをインストールする方法の詳細については、次の場所にある『Sun ONE Web Server, Enterprise Edition Administrator's Guide』の「Installing Multiple Instances of the Server」を参照してください。

   `http://docs.sun.com/source/816-5682-10/esgstart.htm#1003083`

4. 公開鍵と非公開鍵を格納するための信頼データベースを作成します。このデータベースはキーペアファイルと呼ばれます。キーペアファイルは、SSL 暗号化に使われます。

   信頼データベースの作成方法については、次の場所にある『Sun ONE Web Server, Enterprise Edition Administrator's Guide』の「Creating a Trust Database」を参照してください。

   `http://docs.sun.com/source/816-5682-10/esecurty.htm#1004127`

5. 証明書発行局に証明書を要求します。

   証明書を要求する方法の詳細については、次の場所にある『Sun ONE Web Server, Enterprise Edition Administrator's Guide』の「Requesting and Installing Other Server Certificates」を参照してください。

   `http://docs.sun.com/source/816-5682-10/esecurty.htm#1004981`

証明書のインストール

証明書発行局からサーバーの証明書を受け取ったら、その証明書をインストールする必要があります。

証明書をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次の管理サーバー起動用 URL をブラウザに入力します。

   `http://hostname.domain-name:administration_port`

   すると、Sun ONE Web Server によって、ユーザー名とパスワードの入力を要求するウィンドウが表示されます。

2. その Web サーバーのインストール時に指定した管理ユーザー名とパスワードを入力します。

   Sun ONE Web Server によって「Administration Server」ページが表示されます。

3. サーバーの証明書をインストールします。

   証明書をインストールする方法の詳細については、次の場所にある『Sun ONE Web Server, Enterprise Edition Administrator's Guide』の「Requesting and Installing Other Server Certificates」を参照してください。

http://docs.sun.com/source/816-5682-10/esecurty.htm#1004981

4. Web サーバーの alias ディレクトリに移動します。
5. Web サーバーの alias ディレクトリから Instant Messaging Server の config ディレクトリにデータベースファイルをコピーします。

   Web サーバーの alias ディレクトリから Instant Messaging Server の config ディレクトリにデータベースファイルをコピーするには、次のように入力します。

   ```
   cp https-serverid-hostname-cert7.db
   /etc/opt/SUNWiim/default/config/cert7.db
   ```

   ```
   cp https-serverid-hostname-key3.db
   /etc/opt/SUNWiim/default/config/key3.db
   ```

   ```
   cp secmod.db /etc/opt/SUNWiim/default/config/secmod.db
   ```

注 Instant Messaging Server を実行するエンドユーザーは、cert7.db、key3.db、secmod.db の各ファイルに対する読み取り権限を持っている必要があります。

---

6. Instant Messaging Server の config ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWiim/default/config
   ```

7. 任意のエディタを使って sslpassword.conf ファイルを作成します。たとえば、次のように入力できます。

   ```
   vi sslpassword.conf
   ```

8. sslpassword.conf ファイルに次の行を入力します。

   Internal (software) Token:*password*

   password : 信頼データベースの作成時に指定したパスワード

9. ファイルを保存します。

注 Instant Messenger のすべてのエンドユーザーは、sslpassword.conf ファイルの所有権限と読み取り権限を持っている必要があります。

---

10. SSL の動作を確認したあと、Sun ONE Web Server に管理者としてログインし、証明書の要求時に作成したその Web サーバーインスタンスを削除します。

マルチプレクサと Instant Messenger 間の SSL を有効にするための Instant Messaging Server の設定

表 2-4 は、iim.conf ファイル内の、Sun ONE Instant Messenger とマルチプレクサ間の SSL を有効にするためのパラメータを一覧にまとめたものです。また、この表には、これらのパラメータの説明とデフォルト値も含まれています。

表 2-4　Sun ONE Instant Messenger とマルチプレクサ間の SSL を有効にするための設定情報

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_mux.usessl	off	値が on に設定されている場合、マルチプレクサは、アプリケーションデータを交換する前に、受け入れた接続ごとに SSL ハンドシェークを要求する
iim_mux.secconfigdir	/etc/opt/SUNWiim/default/config	このディレクトリには鍵と証明書のデータベースが含まれる。また、通常はセキュリティモジュールデータベースも含まれる
iim_mux.keydbprefix	なし	この値には、鍵データベースのファイル名のプレフィックスが必要。鍵データベースのファイル名は、必ず key3.db で終わる必要がある たとえば、鍵データベース名が This-Database-key3.db であった場合 (プレフィックスが含まれていた場合)、このパラメータの値は This-Database になる

表 2-4 Sun ONE Instant Messenger とマルチプレクサ間の SSL を有効にするための設定情報 (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_mux.certdbprefix	なし	この値には、証明書データベースのファイル名のプレフィックスが必要。証明書データベースのファイル名は、必ず cert7.db で終わる必要がある たとえば、証明書データベース名が Secret-stuff-cert7.db であった場合 (プレフィックスが含まれていた場合)、このパラメータの値は Secret-stuff になる
iim_mux.secmodfile	secmod.db	この値には、セキュリティモジュールファイルの名前が必要
iim_mux.certnickname	Server-Cert	この値には、証明書のインストール時に入力した証明書の名前が必要 この証明書の名前は、大文字、小文字が区別される
iim_mux.keystorepasswordfile	sslpassword.conf	この値には、鍵データベースのパスワードが格納されたファイルの相対パスと名前が必要。このファイルには、次の行が含まれている必要がある Internal (software) Token:*password* ここで、*password* は、鍵データベースを保護しているパスワードである

Sun ONE Instant Messenger とマルチプレクサ間の SSL を有効にするには、次の手順を実行します。

1. `config` ディレクトリに移動します。たとえば、Solaris 上では次のように入力します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWiim/default/config
   ```

2. `iim.conf` ファイルを編集します。たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi iim.conf
   ```

3. マルチプレクサ設定パラメータに、表 2-4 で説明した値を追加します。

   次に示すのは、マルチプレクサ設定パラメータを含む `iim.conf` ファイルの例です。

```
! IIM multiplexor configuration
! ==============================
!
! Multiplexor specific options

! IP address and listening port for the multiplexor.
! WARNING: If this value is changed, the port value of '-server'
! argument in the client's im.html and im.jnlp files should also
! be changed to match this.
iim_mux.listenport = "siroe.com:49909"

! The IM server and port the multiplexor talks to.
iim_mux.serverport = "siroe.com:49999"

! Number of instances of the multiplexor.
iim_mux.numinstances = "1"

! Maximum number of threads per instance
iim_mux.maxthreads = "10"

! Maximum number of concurrent connections per multiplexor process
iim_mux.maxsessions = "1000"

iim_mux.usessl = "on"
iim_mux.secconfigdir = "/etc/opt/SUNWiim/default/config"
iim_mux.keydbprefix = "This-Database"
iim_mux.certdbprefix = "Secret-stuff"
iim_mux.secmodfile = "secmod.db"
iim_mux.certnickname = "Server_Cert"
iim_mux.keystorepasswordfile = "sslpassword.conf"
```

セキュア版 Instant Messenger の起動

セキュア版の Instant Messenger を起動するには、ブラウザから `imssl.html` ファイルまたは `imssl.jnlp` ファイルにアクセスします。これらのファイルは、リソース用のディレクトリ内に格納されています。このベースディレクトリには、Sun ONE Instant Messenger のすべてのリソースが格納されます。

また、これらのアプレット記述子ファイルへのリンクを、`index.html` ファイルに追加することもできます。

サーバー間通信の SSL を有効にする

SSL を有効にする前に、前述したように証明書データベースを作成し、サーバーの証明書を取得してインストールし、CA の証明書を信頼する必要があります。

1. 次の `iim.conf` パラメータを設定します。
   - `iim_server.usesslport=true`
   - `iim_server.sslport=49910`

   これらのパラメータはすでに、`iim.conf` ファイル内に存在しているはずです。
2. 「複数の Instant Messaging Server の連合配備」で説明したようにサーバー間の設定を行った後、次のパラメータを追加します。
   - `iim_server.coserver1.usessl=true`

   ポート番号を次のように変更します。
   - `iim_server.coserver1.host=hostname:49910`

   このポート番号は、相手側のサーバーの SSL ポートである必要があります。

   必要な SSL 設定を含む `iim.conf` ファイルの一部を、次に示します。

```
! Server to server communication port.
iim_server.port = "49919”
! Should the server listen on the server to server communication port
iim_server.useport = "True”
! Should this server listen for server-to-server communication using ssl port
iim_server.usesslport = "True”
iim_server.sslport=49910
iim_server.coservers=coserver1
iim_server.coserver1.serverid=Iamcompany22
iim_server.coserver1.password=secretforcompany22
iim_server.coserver1.usessl=true
iim_server.coserver1.host=iim.i-zed.com:49910
iim_server.serverid=Iami-zed
iim_server.password=secret4i-zed
iim_server.secconfigdir = "/etc/opt/SUNWiim/default/config"
iim_server.keydbprefix = "This-Database"
iim_server.certdbprefix = "Secret-stuff"
iim_server.secmodfile = "secmod.db"
iim_server.certnickname = "Server_Cert"
iim_server.keystorepasswordfile = "sslpassword.conf"
```

2 つの Instant Messaging Server 間の SSL を有効にするための Instant Messaging Server の設定

60 ページの表 2-5 は、`iim.conf` ファイル内の、2 つの Sun ONE Instant Messaging Server 間の SSL を有効にするためのパラメータの一覧です。また、この表には、これらのパラメータの説明とデフォルト値も含まれています。

表 2-5 2 つの Sun ONE Instant Messaging Server 間の SSL を有効にするための設定情報

パラメータ	デフォルト値	説明
`iim_server.secconfigdir`	`/etc/opt/SUNWiim/default/config`	このディレクトリには鍵と証明書のデータベースが含まれる。また、通常はセキュリティモジュールデータベースも含まれる

表 2-5　2 つの Sun ONE Instant Messaging Server 間の SSL を有効にするための設定情報 (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_server.keydbprefix	なし	この値には、鍵データベースのファイル名のプレフィックスが必要。鍵データベースのファイル名は、必ず key3.db で終わる必要がある たとえば、鍵データベース名が This-Database-key3.db であった場合 (プレフィックスが含まれていた場合)、このパラメータの値は This-Database になる
iim_server.certdbprefix	なし	この値には、証明書データベースのファイル名のプレフィックスが必要。証明書データベースのファイル名は、必ず cert7.db で終わる必要がある たとえば、証明書データベース名が Secret-stuff-cert7.db の場合 (プレフィックスが含まれていた場合)、このパラメータの値は Secret-stuff になる
iim_server.secmodfile	secmod.db	この値には、セキュリティモジュールファイルの名前が必要
iim_server.certnickname	Server-Cert	この値には、証明書のインストール時に入力した証明書の名前が必要 この証明書の名前は、大文字、小文字が区別される

表 2-5　2 つの Sun ONE Instant Messaging Server 間の SSL を有効にするための設定情報 (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
`iim_server.keystorepasswordfile`	`sslpassword.conf`	この値には、鍵データベースのパスワードが格納されたファイルの相対パスと名前が必要。このファイルには、次の行が含まれている必要がある `Internal (software) Token:`*`password`* ここで、*password* は、鍵データベースを保護しているパスワードである
`iim_server.trust_all_cert`	`false`	この値が `true` の場合、サーバーはすべての証明書を信頼するとともに、証明書の情報をログファイル内に追加する

Sun ONE Instant Messaging の LDAP 構成

Sun ONE Instant Messaging Server の LDAP 単独配備では、ディレクトリサーバーが必要となります。LDAP 単独配備では、Instant Messaging Server は、ディレクトリサーバーを使ってエンドユーザーの認証と検索を行います。

アイデンティティ配備では、Sun ONE Instant Messaging Server は、Sun ONE Portal Server が使用しているディレクトリを使います。アイデンティティ配備環境にインストールされた Sun ONE Instant Messaging Server は、Sun ONE Identity Server が使用するディレクトリをエンドユーザーの検索用としては使います。ただし、エンドユーザーの認証用としては使いません。アイデンティティ配備では、Sun ONE Identity Server が認証を実行します。

LDAP ディレクトリを使ってユーザーの名前空間を管理する場合、デフォルトの設定では、このディレクトリで使用するスキーマに関して、次のような仮定がなされます。

- エンドユーザーエントリは、`inetOrgPerson` オブジェクトクラスによって識別される
- グループエントリは、`groupOfUniqueNames` オブジェクトクラスによって識別される
- Sun ONE エンドユーザーの Instant Messenger ユーザー ID 属性は、(`inetOrgPerson` オブジェクトクラスの) `uid` 属性によって提供される

- エンドユーザーの電子メールアドレスは、mail 属性によって提供される
- エンドユーザーまたはグループの表示名は、cn 属性によって提供される
- グループのメンバーリストは、(groupOfUniqueNames オブジェクトクラスの) uniqueMember 属性によって提供される

これらのデフォルト設定は変更可能です。それには、iim.conf ファイルを編集します。

匿名ユーザーとしてのディレクトリ検索

Instant Messaging が正しく機能するには、ディレクトリを検索できる必要があります。匿名ユーザーによる検索が可能であるようにディレクトリが設定されている場合、Instant Messaging はディレクトリを検索できます。ディレクトリが匿名ユーザーによって読み取れないようになっている場合、そのディレクトリに対して読み取り権限以上のアクセス権限を持つユーザー ID の資格情報を使って、iim.conf ファイルを設定する手順を行う必要があります。

それらの資格情報は、次のとおりです。

- 識別名 (dn)
- 上記の dn に対するパスワード

Instant Messaging Server が、(匿名ユーザーとしてではなく) 特定のエンドユーザーとしてディレクトリ検索を行えるようにするには

1. iim.conf ファイル内で、次のパラメータに対する値を探します。
   - iim_ldap.usergroupbinddn - 検索時のディレクトリへのバインドに使う識別名 (dn) を指定します。
   - iim_ldap.usergroupbindcred - 識別名 (dn) に対して使うパスワードを指定します。

   以下に例を示します。

   ```
   iim_ldap.usergroupbinddn="cn=iim server,o=i-zed.com"
   iim_ldap.usergroupbindcred=secret
   ```

注	ここで必要なのは、ドメインツリーに対する読み取りアクセス権のみであるため、書き込みレベルのアクセス権を持つ管理者レベルの資格情報を使用する必要はありません。したがって、読み取りレベルのアクセス権を持つ LDAP ユーザーが存在していれば、その資格情報を代わりに使用してください。そうしたほうが、管理者レベルの資格情報が拡散するのを防げるため、システムの安全性が向上します。

2. アイデンティティ配備では一般に、匿名ユーザーはディレクトリを検索できません。アイデンティティ配備では、`iim_ldap.useidentityadmin` 設定パラメータを `true` に設定します。また、次の設定パラメータは、削除もしくはコメントアウトできます。
   - `iim_ldap.usergroupbinddn`
   - `iim_ldap.usergroupbindcred`
3. `iim.conf` ファイルを編集します。

   `iim.conf` ファイルの編集手順については、44 ページの「設定パラメータを変更するには」を参照してください。

   パラメータ `iim_ldap.usergroupbinddn` と `iim_ldap.usergroupbindcred` が `iim.conf` ファイル内に存在しない場合、ファイル内の任意の場所に、それらのパラメータを追加してください。

動的 LDAP サーバーグループの設定

LDAP サーバーの動的グループを使うと、DN に基づいてエンドユーザーをフィルタリングし、それらのエンドユーザーを単一のグループ内に含めることができます。動的グループは、Sun ONE Directory Server 内の `groupOfUrls` オブジェクトクラスとして定義されます。

エンドユーザーが、動的グループを検索結果内に表示し、それらを連絡先一覧に追加できるようにするには、`groupOfUrls` オブジェクトを検索結果内に含める必要があります。

サーバーの設定ファイル `iim.conf` に対して、次の変更を行う必要があります。

1. `config` ディレクトリに移動します。たとえば、Solaris 上では次のように入力します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWiim/default/config
   ```

2. `iim.conf` ファイルを編集します。たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi iim.conf
   ```

3. iim.conf ファイルに次の情報を追加します。

```
iim_ldap.usergroupbynamesearchfilter=(|(&(|(objectclass=groupofu
niquenames)(objectclass=groupofurls)))(cn={0}))(&(objectclass=in
etorgperson)(cn={0})))

iim_ldap.groupbrowsefilter=(|(objectclass=groupofuniquenames)(ob
jectclass=groupofurls))

iim_ldap.groupclass=groupOfUniqueNames,groupOfURLs
```

属性名とオブジェクトクラス名は、設定可能です。デフォルトでは、memberOfUrls 属性が、動的グループのメンバーシップ属性として使用されます。memberOfUrls 以外の属性名を使用したい場合は、その属性名を iim_ldap.groupmemberurlattr オプションに設定してください。

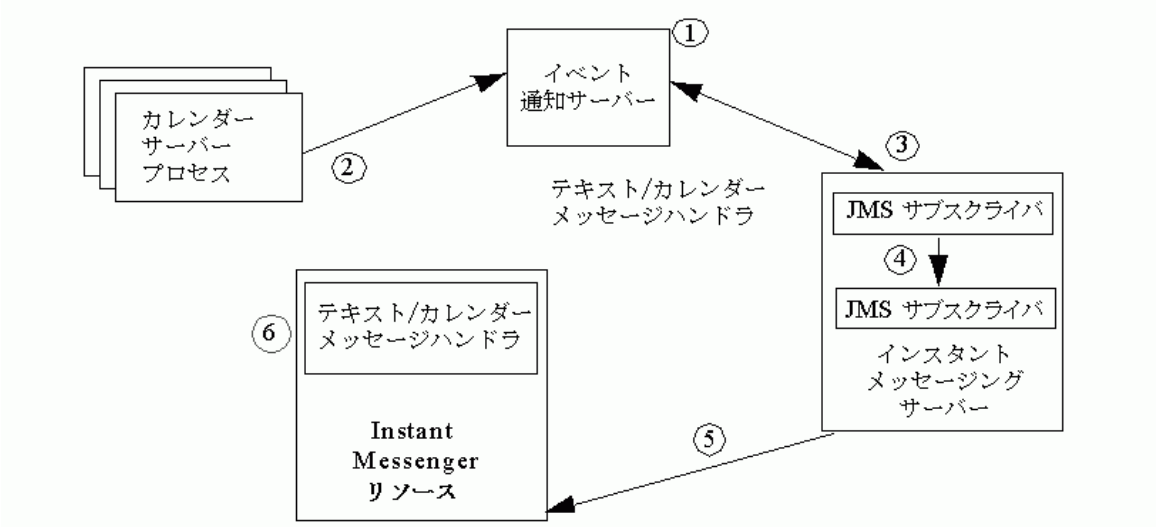
カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示する

Sun ONE Calendar Server と Sun ONE Instant Messaging Server が配備されている環境では、カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示するように、Instant Messenger を設定することができます。text/xml 形式または text/calendar 形式としてフォーマットされたカレンダー通知は、インスタントメッセージングによって解析され、Instant Messenger のポップアップとして表示されます。

ポップアップ機能のみにアクセスしたい場合、カレンダーユーザーは、完全な Instant Messenger 機能を使用する代わりに、「POPUP」メッセンジャ様式を使用できます。メッセンジャ様式の設定方法の詳細については、97 ページの「メッセンジャの公開機能セットの制御」を参照してください。

注 Sun ONE Calendar Server と Sun ONE Instant Messaging 間ではシングルサインオンが提供されていないため、ユーザーは、両方のサービスでそれぞれ認証する必要があります。ただし、これらのサービスがポータル環境に配備されている場合、再認証の必要はありません。

図 2-1　Instant Messenger のポップアップアーキテクチャ



カレンダーのリマインダと通知を表示する、Instant Messenger のポップアップアーキテクチャについて、以下で説明します。

1. Java Messaging Service (JMS とも呼ばれる) のサブスクライバが、カレンダーイベント通知サーバー (Event Notification Server、ENS) からカレンダーイベントをサブスクライブします。
2. カレンダーサーバーが、イベントまたは通知を ENS に公開します。
3. JMS サブスクライバが、それらのリマインダやイベントを、カレンダー ENS のメッセージとして受信します。
4. JMS サブスクライバが、これらのメッセージからテキスト形式またはカレンダー形式のインスタントメッセージングメッセージを生成します。

   カレンダーの所有者がオンラインである場合、サーバーはそれらのインスタントメッセージングメッセージをその所有者に送信します。
5. Instant Messenger 内のテキスト / カレンダーメッセージハンドラが、インスタントメッセージングサーバーによって解析されたそれらのメッセージコンテンツに基づいて、HTML アラートを生成します。

カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示するのに必要なコンポーネントは、次のとおりです。

JMS メッセージリスナー (サブスクライバ) : このモジュールは、JMS の `javax.jms.MessageListener` インタフェースを実装しています。このモジュールは、受信した各 JMS メッセージに対して、インスタントメッセージングの通知 (アラート) メッセージを生成します。使用されるサーバー設定と受信 JMS メッセージコンテンツは、次のとおりです。

- カレンダー ID イベント URI パラメータに基づいて、カレンダー所有者のユーザー ID が決定されます。さらに、そのユーザー ID に基づいて、アラート受信者のアドレスが生成されます。
- `comptype` パラメータに基づいて、メッセージのボディ部に記述されているカレンダーオブジェクトのタイプ (イベントまたはタスク) が決定されます。
- 設定とコンポーネントタイプから、生成されるメッセージの件名が決定されます。
- メッセージの作成者は、設定内に記述しておきます。
- メッセージのコンテンツタイプは、`text/xml`、`text/calendar` のいずれかです。受信メッセージのタイプが `text/xml` であった場合、そのメッセージは `text/calendar` に変換されます。この `text/calendar` 表現は、テキスト / カレンダーメッセージハンドラが Instant Messenger のアラートを生成する際に使われます。

テキスト / カレンダーメッセージハンドラ : このモジュールは、メッセンジャ Bean 仕様によって定義されたメッセンジャ Bean です。このモジュールは、すべてのインスタントメッセージングメッセージまたはメッセージタイプを傍受し、傍受した各メッセージに対して HTML アラートを生成し、それを Instant Messenger 内に表示します。このモジュールが HTML アラートへの変換時に使用する受信インスタントメッセージ属性は、次のとおりです。

- 受信メッセージの件名から、リマインダ、カレンダーデータベース通知、イベント、タスクといったメッセージタイプに関する情報が得られます。カレンダーイベントの各タイプにはローカライズ版の件名が対応しており、それらの件名がポップアップ内に表示されます。
- アラートのテキストは、`text/calendar` 形式のメッセージコンテンツに含まれる情報に基づいて生成されます。各イベント、各タスクに対してテンプレートが 1 つずつ用意されています。

カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示するためのカレンダーサーバーの設定

カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示するには、カレンダーサーバーで次の設定を行う必要があります。

アラームの有効化

カレンダーサーバーでアラームを有効にするとともに、カレンダーイベント通知サーバー (ENS) を設定してアラーム通知の送受信を有効にする必要があります。

コード例 2-1 に、ディレクトリ *calendar-server-install-dir*/cal/bin/config/ に格納されたファイル ics.conf 内のアラーム設定パラメータの値を示します。

コード例 2-1 ファイル ics.conf 内のアラーム設定パラメータ

```
caldb.serveralarms = yes
caldb.serveralarms.dispatch = yes
caldb.serveralarms.dispatchtype = ens
```

text/xml 形式または text/calendar 形式の通知を有効にするには、ics.conf ファイル内にカスタムアラーム URL を定義する必要があります。

コード例 2-2 に、ファイル ics.conf 内におけるカスタムアラーム URL とコンテンツタイプの定義例を示します。

コード例 2-2 ファイル ics.conf 内に定義されたカスタムアラーム URL

```
caldb.serveralarms.url = enp:///ics/customalarm
caldb.serveralarms.contenttype = text/calendar
```

カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示するためのインスタントメッセージングサーバーの設定

カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示するには、インスタントメッセージングサーバーを設定する必要があります。インスタントメッセージングサーバー内の JMS クライアントには、ENS ブローカとの通信手順を設定する必要があります。というのも、カレンダーサーバーがイベント通知サーバー (ENS) を JMS バスとして使用するからです。これを行うには、ファイル `iim.conf` 内のサーバー設定オプションを使います。

表 2-6 に、ファイル `iim.conf` 内のサーバー設定オプションとその説明を示します。

表 2-6　ファイル `iim.conf` 内のサーバー設定オプションとその説明

オプション	説明
`jms.consumers`	このオプションには、コンマ区切りのコンシューマ ID リストが含まれる。各コンシューマ ID は、特定のコンシューマを記述するためのオプション名を生成するために使用される
`jms.providers`	このオプションには、コンマ区切りの JMS プロバイダ ID リストが含まれる。各 ID は特定の JMS プロバイダに関連付けられ、そのプロバイダを記述するオプション名で使用される
`jms.consumer.`*consumer*`.provider`	JMS プロバイダ ID が、JMS コンシューマモジュール *consumer* に関連付けられる。この *consumer* は、オプション `iim.jms.consumers` に指定された実際のコンシューマ ID に置き換えられる
`jms.consumer.`*consumer*`.name`	このオプションには、コンシューマ *consumer* に関連付けられた JMS トピック名または JMS キュー名が含まれる

表 2-6　ファイル iim.conf 内のサーバー設定オプションとその説明 (続き)

オプション	説明
jms.consumer.*consumer*.type	このオプションには、JMS コンシューマ *consumer* のタイプが含まれる。設定可能な値は次のとおり • topic (JMS トピックのサブスクリプション) • queue (JMS キューのバインド) デフォルト値は topic である
jms.consumer.*consumer*.factory	JMSMessageListenerFactory を使用すると、コンシューマ *consumer* に対するメッセージリスナーをインスタンス化し、それを JMS コールバックとして登録できる
jms.consumer.*consumer*.param	このオプションには自由形式の ASCII 文字列が含まれる。この文字列はメッセージリスナーから利用可能になる。この文字列には、受信 JMS メッセージを処理するために必要な、コンシューマ固有の追加情報を含めることができる
jms.provider.*provider*.broker	このオプションには、JMS プロバイダ *provider* の初期化時に使用する JMS ブローカのホストとポートが含まれる
jms.provider.*provider*.factory	このオプションには、プロバイダの ConnectionFactory クラス名が含まれる

コード例 2-3 に、ファイル iim.conf 内に記述すべき JMS プロバイダ定義を示します。

コード例 2-3　ファイル iim.conf 内の JMS プロバイダ定義

```
jms.providers = ens
jms.provider.ens.broker = ical.example.com:7997
jms.provider.ens.factory =
com.iplanet.ens.jms.ENSConnectionFactory
```

コード例 2-4 に、ファイル iim.conf 内の、カレンダーの JMS コンシューマ定義を示します。

コード例 2-4 カレンダーの JMS コンシューマ定義

```
jms.consumers = calendar [,...]
```

コード例 2-5 に、ファイル iim.conf 内の、カレンダーサーバーの JMS コンシューマタイプと JMS プロバイダを示します。

コード例 2-5 カレンダーサーバーの JMS コンシューマタイプと JMS プロバイダ

```
jms.consumer.calendar.type = topic
jms.consumer.calendar.provider = ens
```

コード例 2-6 に、ファイル iim.conf ファイル内の、カレンダーサーバーの JMS コンシューマトピック名を示します。

コード例 2-6 カレンダーサーバーの JMS コンシューマトピック名

```
jms.consumer.calendar.topic = enp:///ics/customalarm
```

Instant Messenger のメッセージを構築するには、追加パラメータを追加する必要があります。メッセージ構築時には、jms.consumer.consumer.param オプションが使用されます。カレンダーサーバーのメッセージリスナーは、次のような URL 形式のパラメータリストを使用します。

```
params := param "=" value *("&" param "=" value)
param  := URL-ENCODED
value  := URL-ENCODED
```

カレンダーサーバーのメッセージリスナーがサポートするパラメータは、次のとおりです。

- eventtype にはカレンダーイベントタイプが含まれます。パラメータ eventtype の値は、メッセンジャカレンダー Bean が使用する件名プロパティと同等です。

- originator には作成者のアドレスが含まれます。この値は、メッセージ生成時に使用されます。

表 2-7 に、パラメータ eventtype の値とその説明を示します。

表 2-7 パラメータ eventtype の値とその説明

eventtype の値	説明
calendar.alarm.event	この値には、イベントリマインダが含まれる
calendar.alarm.todo	この値には、タスクリマインダが含まれる
calendar.alarm	この値には、イベントリマインダとタスクリマインダの両方が含まれる。イベント、タスクのいずれであるかは、comptype URL パラメータに基づいて決定される
calendar.notification.new.event	この値には、イベント作成通知が含まれる
calendar.notification.new.todo	この値には、タスク作成通知が含まれる
calendar.notification.new	この値には、コンポーネント作成通知が含まれる。イベント、タスクのいずれであるかは、comptype URL パラメータに基づいて決定される
calendar.notification.mod.event	この値には、イベント変更通知が含まれる
calendar.notification.mod.todo	この値には、タスク変更通知が含まれる
calendar.notification.mod	この値には、コンポーネント変更通知が含まれる。イベント、タスクのいずれであるかは、comptype URL パラメータに基づいて決定される
calendar.notification.del.event	この値には、イベント削除通知に使用される件名が含まれる
calendar.notification.del.todo	この値には、タスク削除通知に使用される件名が含まれる
calendar.notification.del	この値には、コンポーネント削除通知が含まれる。イベント、タスクのいずれであるかは、comptype URL パラメータに基づいて決定される

次の例は、パラメータ eventtype と originator を含む jms.consumer.calendar.param オプションを示したものです。

```
jms.consumer.calendar.param =
eventtype=calendar.alarm&originator=ical
```

カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示する具体例

この例では、Sun ONE Calender Server 5.1.1 が `cal.example.com` 上に、Sun ONE Instant Messaging server 6.0 が `im.example.com` 上に、それぞれインストールされているものと仮定します。カレンダーサーバーとインスタントメッセージングサーバーの設定が完了すると、インスタントメッセージングユーザーは、カレンダーのイベントとタスクに関するリマインダを受信できるようになります。

カレンダーサーバーの設定

Sun ONE Calendar Server がインストールされており、最新のパッチが適用されていることを確認します。カレンダーが `cal.example.com` 上に、インスタントメッセージングが `im.example.com` 上にそれぞれインストールされていると仮定すると、ファイル `ics.conf` 内で、オプションを次のように設定する必要があります。

```
caldb.serveralarms = "yes"
caldb.serveralarms.contenttype = "text/xml"
caldb.serveralarms.dispatch = "yes"
caldb.serveralarms.dispatchtype = "ens"
caldb.serveralarms.url = "enp:///ics/customalarm"
```

設定を変更した場合は、次のコマンドを使ってカレンダーサーバーを再起動します。

```
stop-cal
start-cal
```

インスタントメッセージングサーバーの設定

ファイル `iim.conf` 内で、オプションを次のように設定する必要があります。

```
! JMS Consumers
jms.consumers=cal_reminder
jms.consumer.cal_reminder.destination=enp:///ics/customalarm
jms.consumer.cal_reminder.provider=ens
jms.consumer.cal_reminder.type=topic
jms.consumer.cal_reminder.param="eventtype=calendar.alarm"
jms.consumer.cal_reminder.factory=com.iplanet.im.server.JMSCalen
darMessageListener

! JMS providers
jms.providers=ens
jms.provider.ens.broker=cal.example.com:7997
jms.provider.ens.factory=com.iplanet.ens.jms.EnsTopicConnFactory
```

インスタントメッセージングサーバーの設定が完了したら、次のコマンドを使ってサーバーを再起動します。

```
/opt/SUNWiim/sbin/imadmin refresh
```

Instant Messenger でのカレンダーアラートの有効化

Sun ONE Instant Messenger のカレンダーアラートを有効にするには、次の手順を実行します。

1. メインウィンドウの「設定」アイコンをクリックするか、「ツール」メニューから「設定」を選択して、「ユーザー設定」ウィンドウを表示します。
2. 「アラート」タブを選択し、「カレンダーリマインダアラートを表示」オプションをオンにします。

カレンダーのリマインダと通知を Instant Messenger のポップアップとして表示する際のトラブルシューティング

カレンダーアラートが表示されない場合は、以下で概説する手順に従って問題を解決してください。

1. リマインダが生成されているかどうかを確認します。それには、電子メールリマインダの受信有無を確認するのが、最良の方法です。

2. インスタントメッセージングサーバーは、カレンダーサーバー (ENS) からリマインダを受信します。インスタントメッセージングサーバーのログファイルを開き、カレンダーから何らかのデータを受信しているかどうかを確認します。ログファイル内で、`CalendarReminder` を含むレコードを探します。この情報を収集するには、サーバーのログの重要度 (`iim.log.iim_server.severity`) を `debug` に変更します。ログファイル内にリマインダの情報がまったく記録されていなかった場合、それは、インスタントメッセージングサーバーがカレンダーサーバーからリマインダを受信していないことを意味しています。その原因としては、ENS との接続時に問題が発生したか、カレンダーとインスタントメッセージングが使用する ENS イベント参照 (上の例では `enp:///ics/customalarm`) が一致していないことが考えられます。

   カレンダーリマインダの情報がログファイルに記録されているにもかかわらず、Instant Messenger 上にイベントやタスクが表示されない場合は、次の手順に進んでください。

3. Instant Messenger で、カレンダーアラートの受信は完了しているが、その表示に失敗している可能性があります。この問題の詳細情報を入手するには、Java コンソールを有効にします。`debug` アプレットパラメータの詳細情報としては、アプレットページ `im[ssl].html`、`im[ssl].jnlp`、`jnlpLaunch.jsp`、`pluginLaunch.jsp` のいずれかで、そのパラメータの値を `true` に設定します。

Instant Messaging データのバックアップ

Instant Messaging には障害復旧ツールは付属していません。サイトのバックアップシステムを使って、設定ディレクトリとデータベースディレクトリを定期的にバックアップしてください。

バックアップすべき情報

バックアップすべき Instant Messaging 情報の種類は、次のとおりです。

- 設定情報
- Instant Messaging のエンドユーザーデータ
- Instant Messenger リソース

設定情報が格納されている Instant Messaging 設定ディレクトリは、次のとおりです。

- Solaris の場合 : `/etc/opt/SUNWiim/default/config`
- Linux の場合 : `/etc/opt/soim/default/config`
- Windows の場合 : *instant-messaging-installation-directory*¥`config`
- (省略可能)「Sun ONE Instant Messenger のカスタマイズ」で説明しているファイルを 1 つでもカスタマイズした場合、カスタマイズしたファイルをリソースディレクトリからバックアップします。

Sun ONE Instant Messaging のエンドユーザーデータが格納されているデータベースディレクトリは、次のとおりです。

- Solaris の場合 : `/var/opt/SUNWiim/default/db`
- Linux の場合 : `/var/opt/soim/default/db`
- Windows の場合 : *instant-messaging-installation-directory*¥`db`

Instant Messenger リソースがカスタマイズされている場合、それらのリソースもバックアップする必要があります。Instant Messenger リソースの場所は、インストール時に指定します。

バックアップの実行

設定情報はあまり頻繁には変更されませんが、Instant Messaging エンドユーザーデータは頻繁に変更されます。したがって、Instant Messaging エンドユーザーデータが失われることのないよう、それらを定期的にバックアップすることをお勧めします。バックアップは、インストールプログラムやアンインストールプログラムの実行前に実行する必要があります。

エンドユーザーデータや設定情報をバックアップする際、Instant Messaging Server を停止する必要はありません。というのも、サーバーによるすべてのディスクコミットは自動的に実行されるからです。

バックアップ情報の復元

ディスクに障害が発生し、すべてのエンドユーザーデータと設定情報が失われた場合、バックアップしたエンドユーザーデータと設定情報を復元する必要があります。

バックアップしたエンドユーザーデータを復元するには、次の手順を実行します。

1. 実行時ディレクトリに移動します。たとえば、次のように入力します。

   `cd` *runtime-directory*

2. instant-messaging-database ディレクトリに対する読み取り専用権限を付与します。次のように入力します。

   ```
   chmod -R 400 db
   ```

3. Instant Messaging Server を停止します。次のように入力します。

   ```
   imadmin stop
   ```

4. サーバーエンドユーザーに対して、エンドユーザーデータファイルに対する書き込み権限を付与します。次のように入力します。

   `chmod -R 600` *runtime-directory*`/db/.`

5. データを復元するには、バックアップデータを instant-messaging-database ディレクトリにコピーします。

6. Instant Messaging Server を起動します。次のように入力します。

   ```
   imadmin start
   ```

   Solaris の場合 - *runtime-directory* のデフォルト値は、`/var/opt/SUNWiim/default` です。

   Linux の場合 - *runtime-directory* のデフォルト値は、`/var/opt/soim/default` です。

第 3 章

Sun ONE Instant Messenger の管理

この章では、Sun™ ONE Instant Messenger のカスタマイズ方法と管理方法について説明します。

この章には、次の節があります。

- Sun ONE Instant Messenger の設定
- Instant Messenger の起動
- Web サーバーに関する問題の解決
- Sun ONE Instant Messenger のカスタマイズ
- Sun ONE Instant Messenger の会議室とニュースチャネルの管理
- Sun ONE Instant Messenger プロキシ設定の変更
- メッセンジャの公開機能セットの制御
- エンドユーザーのシステム上に格納される Instant Messenger データ

Sun ONE Instant Messenger の設定

Sun ONE Instant Messenger を設定および起動する方法としては、次の 2 つがあります。

Java Web Start を使用する方法 : この設定では、Sun ONE Instant Messenger は、Java Web Start からアプリケーションとして起動されます。Sun ONE Instant Messenger がいったん起動すると、ブラウザは必要なくなります。

Java Plug-in を使用する方法 : この設定では、Sun ONE Instant Messenger は Java アプレットとして実行されます。Instant Messenger のセッションを有効に保つには、アプレットが起動したブラウザウィンドウを開いたままにしておく必要があります。このウィンドウを使ってほかの URL に移動することはできません。

Sun ONE Instant Messenger を利用可能にする Java ソフトウェアの設定方法の詳細については、『Sun One Instant Messaging 6.1 インストールガイド』を参照してください。

Instant Messenger の起動

Sun ONE Instant Messenger を起動するには、次のいずれかを使います。

- `index.html` ファイル。このファイルには、Sun ONE Instant Messenger の Java Web Start 版を起動するオプションと Java Plug-in 版を起動するオプションの両方が含まれる。また、このファイルには、Sun ONE Instant Messenger マニュアルへのリンクも含まれる
- Sun ONE Instant Messenger へのリンクを含む、ユーザー自身が設計した Web ページ
- ファイル `im.html`、`im.jnlp` のいずれかを直接参照する URL

Sun ONE Instant Messenger を起動するには

Instant Messenger を起動するには、次の URL を使います。

`http://`*webserver*`:`*webserverport*`/`*subdirectory*`/`*filename*

この URL の構成要素は、次のとおりです。

webserver	Instant Messenger リソースがインストールされている Web サーバーの名前を指定します。
webserverport	(省略可能) Web サーバーのポートを指定します。デフォルト値は `80` です。
subdirectory	(省略可能) クライアントファイルのインストール先ディレクトリを指定します。インストール時にデフォルトの *web-server-resource-directory* を選択した場合、クライアントファイルの格納先サブディレクトリを指定する必要はありません。

filename

使用する Sun ONE Instant Messenger ファイルを指定します。指定できるのは、次のいずれかです。

`index.html` - このファイルは製品に付属しています。このファイルには、Instant Messenger の Java Web Start 版へのリンクと Java Plug-in 版へのリンクの両方が含まれています。

`im.jnlp` - Sun ONE Instant Messenger の Java Web Start 版のみを起動する `jnlp` ファイル

`im.html` - Sun ONE Instant Messenger の Java Plug-in 版のみを起動するページ

また、次のことも行えます。

- URL をお気に入りに追加する
- デスクトップ上の Java Web Start アイコンを使ってアプリケーションを起動する
- デスクトップ上のショートカットを使用する (ターゲット値として「`Java-Web-Start/javaws.exe 'URL'`」を設定することで、ショートカットを作成できる)
- Solaris 上で Instant Messenger をコマンド行から起動する。それには、次のように入力する

  ```
  Java-Web-Start/javaws URL
  ```

Web サーバーに関する問題の解決

この節では、Web サーバーに関する問題について説明します。その内容は、LDAP 配備に対して適用可能です。また、Sun ONE Instant Messenger が、Portal Server ホスト上ではなく別の Web サーバー上にインストールされているようなポータル配備に対しても、適用可能です。

コードベースの変更

web-server-resource ディレクトリと instant-messaging-resource ディレクトリは、同じディレクトリであってもかまいませんが、必ずしもそうする必要はありません。実際のサイトで両ディレクトリが同じでない場合、次の中から適切な方法を選び、Web サーバーが Sun ONE Instant Messenger リソースをダウンロードできるようにします。

- Web サーバー - Web サーバーが Sun ONE Instant Messenger ファイルのインストール先ディレクトリにアクセスできるように、Web サーバーを設定するか、web-server-resource ディレクトリ内にシンボリックリンクを作成します。

  たとえば、Instant Messaging server のホストが `iim.i-zed`、Sun ONE Instant Messenger ファイルのインストール先ディレクトリが `/opt/SUNWiim/html` であった場合、`/opt/SUNWiim/html` ディレクトリを参照するシンボリックリンク `iim` を、web-server-resource ディレクトリ内に作成する必要があります。

注 シンボリックリンクを使用する場合、Web サーバー設定を変更する必要はありません。

- Sun ONE Instant Messenger の起動用 URL - エンドユーザーが `index.html`、`im.html`、または `im.jnlp` にアクセスする際に使用する URL です。この URL は、Sun ONE Instant Messenger のインストールディレクトリを参照する必要があります。

  たとえば、Sun ONE Instant Messaging server のホストが `iim.i-zed`、Sun ONE Instant Messenger ファイルのインストール先ディレクトリが `/opt/SUNWiim/html` であった場合、`/opt/SUNWiim/html` を参照するシンボリックリンク `iim` を、web-server-resource ディレクトリ内に作成する必要があります。エンドユーザーは、次の URL を使って Sun ONE Instant Messenger のメインページ `index.html` にアクセスできます。

  `http://iim.i-zed.com/iim/`

  また、エンドユーザーは、次の URL を入力することで、Sun ONE Instant Messenger を直接起動することもできます。

Java Plug-in の場合 :

```
http://iim.i-zed.com/iim/im.html
```

Java Web Start の場合 :

```
http://iim.i-zed.com/iim/im.jnlp
```

- Java Web Start による Instant Messenger の起動 - インストール時に指定された Instant Messaging のコードベースが変更された場合、im.jnlp ファイル内の codebase パラメータを変更することで、正しい Web サーバーと Sun ONE Instant Messenger パスが参照されるようにする必要があります。codebase パラメータの変更は、次の構文に従って行います。

  codebase= http://*servername:port/path/*

  Web サーバーのポート番号がデフォルト値の 80 に設定されていない場合、そのポート番号を含める必要があります。

  たとえば、Instant Messaging Server のホストが iim.i-zed、Sun ONE Instant Messenger ファイルのインストール先ディレクトリが /opt/SUNWiim/html であった場合、/opt/SUNWiim/html を参照するシンボリックリンク iim を、web-server-resource ディレクトリ内に作成できます。続いて、im.jnlp ファイル内の codebase パラメータを、次のように変更します。

  ```
  codebase="http://iim.i-zed.com/iim/"
  ```

注 im.jnlp は、Java Web Start 用のファイルです。Java Plug-in を使って Instant Messenger を起動する場合、それらのファイルを変更する必要はありません。

Web サーバーのポートの変更

Web サーバーがデフォルト (80) 以外のポート上にインストールされている場合、次の変更を行う必要があります。

- Java Web Start を使って Instant Messenger を起動する場合 - im.jnlp ファイルを開き、codebase パラメータを次の構文に従って変更します。

  codebase="http://*webserver*:*webserverport*"

  たとえば、Instant Messaging Server のホストが iim.i-zed であり、Web サーバーがポート 8080 上で実行されている場合、im.jnlp ファイル内の codebase パラメータは、次のようになります。

  ```
  codebase="http://iim.i-zed.com:8080"
  ```

- URL を使って Sun ONE Instant Messenger を起動する場合 - index.html、im.html、im.jnlp の各ファイル内の URL に、Web サーバーのポートを含める必要があります。

たとえば、Instant Messaging Server のホストが `iim.i-zed` であり、Web サーバーのポートが `8080` であった場合、Sun ONE Instant Messenger のメインページ `index.html` にアクセスする URL は、次のようになります。

```
http://iim.i-zed.com:8080
```

Sun ONE Instant Messenger のカスタマイズ

Sun ONE Instant Messenger は、カスタマイズ可能です。個々の組織の要求に応じて、HTML ファイルや JNLP ファイルをカスタマイズできます。

ユーザー要件に応じて Instant Messenger をカスタマイズする方法としては、次のものがあります。

- index.html ファイルと im.html ファイルのカスタマイズ (LDAP 単独配備)
- アプリケーションのカスタマイズ (Java Web Start)
- ユーザー名表示のカスタマイズ

この節では、Sun ONE Instant Messenger をカスタマイズする目的で変更可能な Instant Messaging server ファイルについて説明します。カスタマイズ可能なファイルはすべて、`html` ディレクトリに格納されます。たとえば、Solaris の場合、HTML ファイルは instant-messaging-resource ディレクトリ内に格納されます。

Instant Messenger リソース

Sun ONE Instant Messenger ファイル

Sun ONE Instant Messenger ファイルは、「instant-messaging-resource ディレクトリ」と呼ばれるディレクトリ内に格納されます (このディレクトリは、単に「リソースディレクトリ」と呼ばれることもあります)。

表 3-1 に、instant-messaging-resource ディレクトリ内の Sun ONE Instant Messenger ファイルの一覧を示します。また、この表には、それらのファイルの説明とカスタマイズ情報も含まれています。instant-messaging-resource ディレクトリ内には、ディレクトリパス内で一般的に「*lang*」と表現されるロケール別サブディレクトリが存在しています (実際には、`en_US`、`jp`、`fr_FR` といった、各言語の略語として表現されます)。

表 3-1　Sun ONE Instant Messenger ファイル

ファイル	説明	カスタマイズ可能か
lang/im.html	Java Plug-in 版の Sun ONE Instant Messenger を起動するための初期ページ	可能
im.html.template	im.html のテンプレート版	不可能。このファイルは、インストールプログラムによる im.html ファイル生成時に使用される
imdesktop.jar	im.html ファイルまたは im.jnlp ファイルによってダウンロードされるクライアント jar ファイル	不可能
lang/im.jnlp	Java Web Start 版の Sun ONE Instant Messenger を起動するための jnlp ファイル	可能
im.jnlp.template	im.jnlp のテンプレート版	不可能
imjni.jar	im.html または im.jnlp によってダウンロードされるクライアント jar ファイル	不可能
messenger.jar	im.html または im.jnlp によってダウンロードされるメインクライアント jar ファイル	不可能
icalendar.jar	カレンダーリマインダの処理時に使用される icalendar パーサ	不可能
imnet.jar	im.html または im.jnlp によってダウンロードされるクライアント jar ファイル	不可能
lang/imbrand.jar	このファイルには、カスタマイズ可能なプロパティ、スタイルシート、イメージ、音声の各ファイルが含まれている	可能
lang/imssl.html	Java Plug-in 版の Sun ONE Instant Messenger を起動するための初期ページ。クライアントとマルチプレクサ間で SSL を実行する場合に使用される	可能

表 3-1　Sun ONE Instant Messenger ファイル (続き)

ファイル	説明	カスタマイズ可能か
`imssl.html.template`	`imssl.html` のテンプレート版	不可能
lang/`imssl.jnlp`	Java Web Start 版の Sun ONE Instant Messenger を起動するためのファイル。このファイルは、クライアントとマルチプレクサ間で SSL を実行する場合に使用される	可能
`imssl.jnlp.template`	`imssl.jnlp` ファイルのテンプレート版	不可能
`jnlpLaunch.jsp`	このファイルを使うと、Sun ONE Identity Server にすでにログオンしているエンドユーザーが、シングルサインオンと Java Web Start による Sun ONE Instant Messenger の起動を行える	可能
`pluginLaunch.jsp`	このファイルを使うと、Sun ONE Identity Server にすでにログオンしているエンドユーザーが、シングルサインオンと Java Plug-in による Sun ONE Instant Messenger の起動を行える	可能
`index.html`	LDAP 配備用のスプラッシュ (初期) ページ。`im.html` と `im.jnlp` へのリンクが含まれているほか、`windows.htm`、`solaris.htm`、および `quickref.htm` へのマニュアルリンクも含まれている。このページはサイトの要件に応じてカスタマイズ可能	可能
`index.html.template`	`index.html` のテンプレート版	不可能
lang/`imhelp/SunONE.jpg`	`quickref.htm`、`solaris.htm`、および `windows.htm` によって使用されるイメージ	置換可能

表 3-1　Sun ONE Instant Messenger ファイル (続き)

ファイル	説明	カスタマイズ可能か
`javaws_not_installed.html`	Java Web Start を使って Sun ONE Instant Messenger を起動しようとしたエンドユーザーのシステム上に、Java Web Start がインストールされていなかった場合に表示されるページ	可能

`quickref.html`
`solaris.html`
`windows.html`
	`lang/imhelp/` 内に格納されたこれらのファイルには、Sun ONE Instant Messenger の入門レベルのマニュアルが含まれている	可能

lang`/imhelp`	Instant Messenger のオンラインヘルプディレクトリ	不可能
`icalendar.jar`	この `jar` ファイルには、カレンダー通知の表示に使用されるファイルが含まれている	不可能

index.html ファイルと im.html ファイルのカスタマイズ (LDAP 単独配備)

Instant Messenger では、`index.html` ファイルと `im.html` ファイルの「静的な」部分を変更することで、完全にカスタマイズされたユーザーインタフェースを実現できます。これらの HTML ファイルには、テキストと、それらのテキストの書式や処理方法を記述したマークアップの両方が含まれています。マークアップは一連のタグを使って実装されており、それらのタグは、ヘッダ、インデント、フォントサイズ、およびフォントスタイルに対する書式を指定しています。

変更可能なページ要素のいくつかを、次に示します。

- イメージおよびバナー
- 画面上のテキスト (タイトルやフィールドラベルなど)
- 背景のスキーム

`index.html` ファイルは、Sun ONE Instant Messenger のアプレットと Java Web Start アプリケーションの両方を起動します。Sun ONE Instant Messenger アプレットを実行する場合は、`im.html` ファイルを変更してください。`im.html` ファイルは、`index.html` から呼び出され、Instant Messenger のアプレットを起動します。`im.html` ファイルは、インストール時に生成されます。また、このファイルには、マルチプレクサを参照するアプレット引数が含まれています。

注 im.html ファイル内の引数「<PARAM NAME="server" VALUE="*servername*">」は、Sun ONE Instant Messaging のマルチプレクサとそのポートを表しています。iim_mux.listenport パラメータのデフォルト値を変更した場合、値 *servername* を *host.domain* : *port* に変更する必要があります。

Sun ONE Identity Server SSO による Instant Messenger の起動

Sun ONE Instant Messenger クライアントを Identity Server によるシングルサインオンを使って起動するには、jnlpLaunch.jsp および pluginLaunch.jsp を使用します。これらのファイルは、リソースディレクトリ内に格納されています。Instant Messaging Server を起動するには、ブラウザに次のように入力します。

***intant-messaging-codebase*/jnlpLaunch.jsp?server=multiplexor-hostname:multiplexor-port**

または

***intant-messaging-codebase*/pluginLaunch.jsp?server=www.example.com:49909**

ここで、

intant-messaging-codebase は、Instant Messenger リソースのダウンロード元のコードベースです。例 : http://www.example.com。

multiplexor-hostname は、マルチプレクサの名前です。例 : www.example.com

multiplexor-port は、マルチプレクサのポート番号です。例 : 49909。

Java Web Start を使って Instant Messenger を起動する場合、**jnlpLaunch.jsp** を使用します。

Java Plug-in を使って Instant Messenger を起動する場合、**pluginLaunch.jsp** を使用します。

注

- jnlpLaunch.jsp ファイルと pluginLaunch.jsp ファイルは、サーバーの引数を必要とします。
- jnlpLaunch.jsp ファイルと pluginLaunch.jsp ファイルは、im.jnlp ファイル、im.html ファイルと同様にカスタマイズできます。

アプリケーションのカスタマイズ (Java Web Start)

Java Web Start を使って Sun ONE Instant Messenger を実行する場合、`im.jnlp`、`imres.jnlp`、`imbrand.jar` の各ファイルを変更することで、そのユーザーインタフェースをカスタマイズできます。これらの HTML ファイルに対してどのような変更が行えるのかを、以下に示します。

- `im.jnlp` - このファイルは、Java Web Start 版の Instant Messenger アプリケーションを起動します。このファイル内のコードベース、タイトル、ベンダー、および説明を変更できます。

  コード例 3-1 に、`im.jnlp` ファイルのサンプルコードを示します。カスタマイズ可能な HTML コードは太字で示してあります。

コード例 3-1　　im.jnlp ファイルのサンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<!-- Sun ONE Instant Messenger -->
<jnlp
  spec="1.0+"
  codebase="INSERT_CODEBASE_HERE"
  href="INSERT_LOCALE_HERE/im.jnlp">
  <information>
    <title>Title</title>
    <vendor>Name</vendor>
    <homepage href="http://home.htm"/>
    <description>Description</description>
    <description kind="short">Description Kind</description>
    <icon href="IM_JLF32x.gif"/>
    <offline-allowed/>
  </information>
  <security>
    <all-permissions/>
  </security>
  <resources>
    <j2se version="1.3+">
      <resources>
        <jar href="INSERT_LOCALE_HERE/imres.jar"/>
        <jar href="INSERT_LOCALE_HERE/imbrand.jar"/>
      </resources>
    </j2se>
    <jar href="messenger.jar"/>
    <jar href="imdesktop.jar"/>
    <jar href="imnet.jar"/>
    <jar href="icalendar.jar"/>
    <nativelib href="imjni.jar"/>
  </resources>
  <application-desc main-class="com.iplanet.im.client.iIM">
    <argument>server=INSERT_SERVER_HERE</argument>

<argument>help_codebase=INSERT_CODEBASE_HERE/INSERT_LOCALE_HERE<
/argument>
  </application-desc>
</jnlp>
```

注 im.jnlp ファイル内の引数 <argument>*servername*</argument> は、Sun ONE Instant Messaging のマルチプレクサのホストとポートを表しています。iim_mux.listenport パラメータのデフォルト値を変更した場合、値 *servername* を *host.domain* : *port* に変更する必要があります。

- imbrand.jar - このファイルには、カスタマイズ可能なイメージファイル、音声ファイル、およびプロパティが含まれています。imbrand.jar ファイルを jar コマンドを使って解凍するには、Java Developers Kit 1.3 (JDK) が必要となります。imbrand.jar ファイルの内容の詳細については、「imbrand.jar ファイルの内容一覧」を参照してください。

  jar コマンドの構文は、次のようになります。

  ```
  jar xvf imbrand.jar
  ```

  このコマンドを実行すると、ディレクトリツリーが作成され、そこにリソースファイルがコピーされます。この jar ファイル内の個々のファイルを変更する場合、このディレクトリ構造を保守する必要があります。

  目的のファイルを、ファイル名は変えずに変更版の .gif ファイルや .au ファイルで置き換えた後、次の jar コマンドを使ってそれらの変更ファイルを jar ファイルに反映します。

  ```
  jar -uf imbrand.jar com/Sun/im/client/images/*.gif
  ```

  このコマンドを実行すると、変更された .gif ファイルが、imbrand.jar ファイルに反映されます。同様のことが、音声ファイル (.au ファイル) についても可能です。

imbrand.jar の内容一覧

表 3-2 は、imbrand.jar ファイル内のファイルとその説明を、一覧にまとめたものです。imbrand.jar ファイル内に含まれているイメージファイルと音声ファイルを使えば、Sun ONE Instant Messenger の外観をカスタマイズできます。

表 3-2 imbrand.jar ファイルの内容一覧

ファイル名	説明
Angry_16.gif	怒りを視覚的に表現するための顔文字
Devil_16.gif	悪魔の感情を視覚的に表現するための顔文字
Laugh_16.gif	笑いを視覚的に表現するための顔文字
Angel_16.gif	天使のような感情を視覚的に表現するための顔文字
Smiley_16.gif	微笑を視覚的に表現するための顔文字
Love_16.gif	愛情を視覚的に表現するための顔文字

表 3-2　imbrand.jar ファイルの内容一覧 (続き)

ファイル名	説明
Grin_16.gif	ニッとした笑いを視覚的に表現するための顔文字
Wink_16.gif	ウインクを視覚的に表現するための顔文字
Sad_16.gif	悲しみを視覚的に表現するための顔文字
Suprise_16.gif	驚きを視覚的に表現するための顔文字
Away_13.gif	「ステータスを変更」メニューに表示される、不在ステータス用のアイコン
Online_13.gif	「ステータスを変更」メニューに表示される、オンラインステータス用のアイコン
Offline_13.gif	エンドユーザーが不在であるか接続されていない場合に「ステータスを変更」メニューに表示されるアイコン
Idle_13.gif	ステータスバーと連絡先一覧に表示される、アイドルステータス用のアイコン
Forwarded_13.gif	アラートを電子メールに転送するように設定されているオフラインのエンドユーザーに対して表示されるアイコン。このアイコンは連絡先一覧で表示される
Away_24.gif	ステータスバーに表示される、不在ステータス用のアイコン
Online_24.gif	ステータスバーに表示される、オンラインステータス用のアイコン
Offline_24.gif	ステータスバーに表示される、オフラインステータス用のアイコン
tray_icon.ico	タスクバーに表示される Instant Messenger アイコン
app_icon.gif	Instant Messenger のアプリケーションアイコン
logon_splash.gif	「ログイン」ボックスと「バージョン情報」ボックスに表示される Sun ONE のロゴ
alert.au	エンドユーザーがアラートを受信する際のサウンド
away.au	エンドユーザーがステータスを不在に変更する際のサウンド
soundon.au	エンドユーザーが Instant Messenger にログオンする際のサウンド
soundoff.au	エンドユーザーが Instant Messenger を終了する際のサウンド
send.au	エンドユーザーがインスタントメッセージを送信する際のサウンド
receive.au	エンドユーザーがインスタントメッセージを受信する際のサウンド

Instant Messenger の外観のカスタマイズ

imbrand.jar ファイルには、Instant Messenger のルック & フィールを制御するすべてのイメージとプロパティが含まれています。Instant Messenger の外観をカスタマイズするには、imbrand.jar ファイル内のイメージとプロパティを変更します。

Instant Messenger の外観をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

1. imbrand.jar ファイルを任意の作業用ディレクトリにコピーし、そのディレクトリに移動します。たとえば、次のように入力します。

   cp *instant-messaging-resource-directory*/*lang*/imbrand.jar *working_directory*

2. imbrand.jar ファイルを解凍します。

   ```
   jar xf imbrand.jar
   ```

   このコマンドを実行すると、ディレクトリツリーが作成され、そこにリソースファイルがコピーされます。この jar ファイル内の個々のファイルを変更する場合、このディレクトリ構造を保守する必要があります。

3. 変更された .gif ファイルと .au ファイルを imbrand.jar ファイルに反映します。

   ```
   jar cf imbrand.jar .
   ```

4. その imbrand.jar ファイルをリソースディレクトリにコピーします。たとえば、次のように入力します。

   cp imbrand.jar *instant-messaging-resource-directory*/*lang*/ .

注 複数のロケールがサポートされている場合、Instant Messenger の外観のカスタマイズ手順を、それらのロケールごとに実行する必要があります。

ユーザー名表示のカスタマイズ

ツールヒントと検索結果におけるユーザー名表示をカスタマイズできます。

検索結果におけるユーザー名表示のカスタマイズ

まったく同じ氏名を持つエンドユーザーが 2 人いた場合、どちらのエンドユーザーを連絡先一覧に追加すればよいか、判断がつきません。Instant Messenger のユーザー検索結果内に、追加情報が表示されるようにカスタマイズすることが可能です。ユーザーの検索結果内に追加情報を表示するには、`imbrand.jar` ファイル内の `brand.properties` ファイルに、`dialogs.searchresults.format` 属性を追加する必要があります。なお、このファイルは次の場所にあります。

```
com/sun/im/client/
```

`imbrand.jar` の変更方法の詳細については、「アプリケーションのカスタマイズ (Java Web Start)」を参照してください。

ユーザーの検索結果内に追加情報を表示するには、`dialogs.searchresults.format` 属性の値として、ほかの LDAP 属性を追加します。

LDAP 属性は次の形式で指定します。

```
${attr:attribute-name}
```

次の例は、`dialogs.searchresults.format` 属性に指定された LDAP 属性を示したものです。

```
dialogs.searchresults.format=(${attr:title})
```

LDAP ユーザーエントリに含まれる任意の属性を使用するには、それらのカスタム属性のリストを、サーバー設定ファイル `iim.conf` 内に指定する必要があります。それらのカスタム属性は、属性 `iim_ldap.userattributes` の値として指定する必要があります。

カスタム属性リストが設定された `iim_ldap.userattributes` の例を、次に示します。

```
iim_ldap.userattributes=title,department,telephonenumber
```

ツールヒントにおけるユーザー名表示のカスタマイズ

Instant Messenger の連絡先ツールヒント内に、追加情報が表示されるようにカスタマイズすることが可能です。

たとえば、ある連絡先の上にマウスを置くと、その連絡先の電話番号が表示されるようにするには、次の手順を実行します。

1. 次のディレクトリに移動します。

com/sun/im/client/

2. brand.properties ファイルを開きます。
3. そのファイル内に contact.tooltip.format.html 属性を追加します。
4. ファイルへの変更を保存します。
5. 次のディレクトリに移動します。

   cd *instant-messaging-resource-directory*

6. imbrand.jar ファイルの HTML コード内で、contact.tooltip.format.html 属性を追加し、さらにその値として telephonenumber 属性を追加します。

   ```
   contact.tooltip.format.html=mailto: ${attr:mail} tel:
   ${attr:telephonenumber}
   ```

imbrand.jar ファイルのカスタマイズ方法の詳細については、「アプリケーションのカスタマイズ (Java Web Start)」を参照してください。

Sun ONE Instant Messenger の会議室とニュースチャネルの管理

以下に列挙したのは、Sun ONE Instant Messenger で実行可能な、会議室とニュースチャネルに関する管理作業です。これらの作業の実施手順の詳細については、『Sun ONE Instant Messenger Online Help』を参照してください。

- 会議室の管理
- ニュースチャネルの管理
- エンドユーザーへの会議室アクセスレベルの割り当て
- エンドユーザーへのニュースチャネルアクセスレベルの割り当て
- 会議室へのエンドユーザーの割り当て
- ニュースチャネルへのエンドユーザーの割り当て (加入)
- 新しい会議室の作成
- 新しいニュースチャネルの作成
- エンドユーザー設定の変更
- 会議室の削除
- ニュースチャネルからのメッセージの削除
- ニュースチャネルの削除

- ニュースチャネルへのメッセージの投稿
- 会議室からのエンドユーザーの削除
- ニュースチャネルからのエンドユーザーの削除

会議室およびニュースチャネルの作成権限のエンドユーザーへの付与

管理者は、エンドユーザーの会議室とニュースチャネルを作成できます。ただし、エンドユーザーでも、適切な権限を持っていれば、それを行えます。会議室とニュースチャネルの作成権限をエンドユーザーに付与するためのポリシーを追加する方法の詳細については、101 ページの第 4 章「Instant Messaging ポリシーおよびプレゼンスポリシーの管理」を参照してください。デフォルトで会議室またはニュースチャネルを作成するエンドユーザーは、会議室またはニュースチャネルの管理を可能にする管理アクセス権限を持っています。エンドユーザーの権限管理の詳細については、47 ページの「エンドユーザーの権限の管理」を参照してください。

Sun ONE Instant Messenger プロキシ設定の変更

Sun ONE Instant Messaging のメッセージには、`http://stocks.yahoo.com?id=sunw` のような埋め込み URL を含まれることがあります。プロキシサーバーを使用する場合、そうした埋め込み URL を解決できるように、Java Web Start 設定内の Instant Messenger のプロキシ設定を変更する必要があります。

この問題が発生する可能性があるのは、組織内にファイアウォールが存在しており、クライアントホストからインターネットへの接続がプロキシサーバー経由で行われるようになっているが、Java Web Start のプロキシ設定が正しくない場合です。

Sun ONE Instant Messenger のプロキシ設定を変更するには

Java Web Start は、システムまたはデフォルトのブラウザに照会することで、プロキシ設定を自動的に行います。ただし、プロキシ設定が JavaScript ファイルによって実行される場合、Java Web Start はそれらの設定を自動的に行えません。

プロキシ設定を手動で行うには、次の手順を実行します。

1. Java Web Start を起動します。

2. 「ファイル」メニューから「設定」を選択します。
3. 「設定」ダイアログボックスで「手動」オプションを選択します。
4. 次の詳細情報を入力します。

HTTP プロキシ : プロキシサーバーの名前または IP アドレスを入力します。

HTTP ポート : プロキシサーバーのポート番号を入力します。

プロキシなし : プロキシサーバーを経由せずに直接接続可能な任意のドメインの名前を入力します。ホスト名が複数ある場合は、コンマで区切ります。

5. 「了解」をクリックしてプロキシ設定を保存します。

メッセンジャの公開機能セットの制御

管理者は、Instant Messenger の公開機能セットを制御できます。それには、アプレット記述子ファイル内の Instant Messaging アプレットパラメータを設定します。

表 3-3 に、アプレット記述子ファイル内の Instant Messenger アプレットパラメータを示します。また、この表には、これらのパラメータの説明とデフォルト値も含まれています。

表 3-3 Instant Messenger のアプレットパラメータ

パラメータ	デフォルト値	説明
`server`	`127.0.0.1`	Instant Messaging Server のホストとポート
`debug`	`FALSE`	このパラメータが `true` に設定された場合、アプレットは、実行されたすべてのタスクを Java コンソール上に記録する
`uid`		このパラメータは SSO 時に使用される
`token`		このパラメータには SSO トークンが含まれ、自動ログオンに使用される
`secure`	`FALSE`	SRA モードで実行するように、Instant Messenger に指示する。セキュリティインジケータが表示される
`usessl`	`FALSE`	サーバーへの接続時に SSL を使用するように、Instant Messenger に指示する

表 3-3　Instant Messenger のアプレットパラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
allow_alert_only	FALSE	連絡先一覧とニュースチャネルをエンドユーザーに表示しないように、Instant Messenger に指示する このパラメータは、CHAT 様式と POPUP 様式で使用される
allow_file_transfer	TRUE	ファイルの添付と転送を可能にする
enable_moderator	TRUE	true に設定された場合、モデレート会議機能が有効になる
messenger_bean		このパラメータには、使用するメッセンジャ Bean のリストが含まれる。複数のファクトリクラス名を入力できるが、その際、各クラス名の間はコンマで区切る
domain	Null	このパラメータは、マルチドメインの Sun ONE Identity Server 配備で使用される。このパラメータの値は、このエンドユーザーが所属する組織の論理ドメイン名でなければならない
gateway_url	Null	このパラメータには、ポータル SRA のゲートウェイコンポーネントの URL が含まれる

エンドユーザーのシステム上に格納される Instant Messenger データ

Instant Messenger は、限られた量の自動ログイン関連情報を、エンドユーザーのシステム上にキャッシュします。この情報は次の場所に格納できます。

home-directory/.sunmsgr

home-directory は、エンドユーザーのホームディレクトリです。エンドユーザーのホームディレクトリは、Java システムプロパティ内の user.home パラメータから取得できます。

表 3-4 に、キャッシュデータが格納されるディレクトリおよびファイルを示します。また、この表には、それらのファイルおよびディレクトリの説明も含まれています。

表 3-4　キャッシュデータが格納されるディレクトリおよびファイル

ファイル名 / ディレクトリ名	種類	説明
.sunmsgr/messenger.properties	ファイル	自動ログオンプロパティが格納されるファイル
.sunmsgr/<*user_domain*>/	ディレクトリ	特定の { ログイン名 , ドメイン名 } の組み合わせに関するデータが格納されるディレクトリ
.sunmsgr/<*user_domain*>/messenger.properties	ファイル	このファイルには、特定の <*user_domain*> に関する自動ログオンオプションが格納される。このファイルは使用されない
.sunmsgr/<*user_domain*>/messages/	ディレクトリ	このディレクトリには、キャッシュメッセージが格納される。このディレクトリは使用されない

表 3-5 に、Instant Messaging の自動ログオンプロパティを示します。また、この表には、これらのプロパティの説明とデフォルト値も含まれています。

表 3-5　自動ログオンプロパティ

パラメータ	デフォルト値	説明
net.server	127.0.0.1	Instant Messaging Server のホスト名とポート
net.server.*n* (数字 *n* は、複数のエントリを区別するために使用される)		セカンダリサーバーのホスト名とポート番号

表 3-5　自動ログオンプロパティ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
net.user		デフォルトのユーザー ID
net.pass		自動ログオンを可能にするエンコードされたユーザーパスワード

第 4 章

Instant Messaging ポリシーおよびプレゼンスポリシーの管理

Sun ONE Instant Messaging Server は、チャット、会議、調査、プレゼンスアクセスなど、さまざまな機能を提供します。ポリシーには、これらの機能に関する一連のアクセス制御権限を記述できます。一方、エンドユーザーおよびグループには、組織の要求に応じて特定のポリシーを割り当てることができます。

この章では、ポリシーを定義および使用することにより、Sun ONE Instant Messaging Server の機能と権限情報に対するエンドユーザーと管理者のアクセス権限を管理する方法について説明します。

エンドユーザーと管理者の権限を制御する方法

アクセス制御ファイルによるポリシー管理

Sun ONE Identity Server によるポリシー管理

エンドユーザーと管理者の権限を制御する方法

Instant Messaging サービスに対する各種アクセス権限を、エンドユーザーに対して許可または制限することに関する要件は、Sun ONE Instant Messaging Server を使用するサイトごとにそれぞれ異なります。エンドユーザーと管理者の、Sun ONE Instant Messaging Server 機能と権限情報へのアクセスを制御する処理は、ポリシー管理と呼ばれます。ポリシーを管理するための方法は、2 つあります。アクセス制御ファイルを使う方法と、Sun ONE Identity Server を使う方法です。

アクセス制御ファイルによるポリシー管理の概要

アクセス制御ファイルによるポリシー管理では、ニュースチャネル管理、会議室管理、「ユーザー設定」ダイアログにおける設定変更、アラート送信の各領域における、エンドユーザーの権限を調整することができます。また、特定のエンドユーザーをシステム管理者として割り当てることもできます。

Sun ONE Identity Server によるポリシー管理の概要

Sun ONE Identity Server によるポリシー管理では、アクセス制御ファイルを使う方法と同じ権限を制御できますが、この方法ではさらに、アラートの受信、調査の送受信など、機能の制御をよりきめ細かく行えます。完全な一覧については、109 ページの表 4-4 を参照してください。さらに、Sun ONE Identity Server によるポリシー管理では、権限の制御も、よりきめ細かく行えます。

ポリシーには、Instant Messaging ポリシーとプレゼンスポリシーの 2 種類があります。Instant Messaging ポリシーは、アラートの送受信、公開会議室やニュースチャネルの管理、ファイルの送信といった、一般的な Instant Messaging 機能に対する権限を制御します。プレゼンスポリシーは、エンドユーザーが自身のオンラインステータスを変更する権限や、他人がオンライン情報またはプレゼンス情報を表示するのを許可または拒否する権限を制御します。

ポリシー管理 : 使用する方法の選択

使用するポリシー管理方法を選択する際には、ポリシー情報の格納場所も同時に選択する必要があります。ポリシーの管理方法を選択するには、`iim.conf` ファイルを編集し、`iim.policy.modules` パラメータを設定します。Sun ONE Identity Server を使う方法の場合は `identity` を、アクセス制御ファイルを使う方法の場合は `iim_ldap` を、それぞれ設定します。なお、後者の方法は、デフォルトの方法でもあります。

LDAP 単独配備を使用する場合、つまり、Sun ONE Identity Server を使用しない場合は、アクセス制御ファイルによる方法を選択する必要があります。Sun ONE Identity Server と Sun ONE Instant Messaging Server を併用し、かつ Instant Messaging サービスおよびプレゼンスサービスのコンポーネントがインストールされている場合、いずれかのポリシー管理方法を選択できます。ただし、Sun ONE Identity Server によるポリシー管理のほうが、より包括的な方法です。この方法の利点の 1 つは、すべてのエンドユーザー情報をディレクトリ内に格納できる点です。

使用するポリシー管理方法を設定する際の具体的な手順を、以下に示します。

1. `iim.conf` ファイルが格納されているディレクトリに移動します。

2. 任意のエディタを使って iim.conf ファイルを開きます。
3. iim.policy.modules パラメータを編集します。具体的には、次のいずれかを設定します。
   - iim_ldap (アクセス制御ファイルによる方法)
   - identity (Sun ONE Identity Server による方法)
4. iim.userprops.store パラメータを編集します。具体的には、次のいずれかを設定します。
   - ldap (ユーザープロパティを LDAP に格納する場合)
   - file (デフォルト) (ユーザープロパティをファイル内に格納する場合)
5. 変更内容を保存します。
6. 設定を更新します。

ポリシー設定パラメータ

表 4-1 は、Instant Messaging 配備において Sun ONE Identity Server が果たす役割の拡大に伴い、iim.conf ファイル内で新たに利用可能になったパラメータの一覧とその説明です。

表 4-1 iim.conf ファイルにおけるアイデンティティサーバー関連の新しいパラメータ

パラメータ名	使用法	値
iim.policy.modules	ポリシーを Identity Server に格納するかどうかを示す	iim_ldap (デフォルト) identity
iim.userprops.store	ユーザープロパティをユーザープロパティファイル、LDAP のいずれに格納するかを示す	file (デフォルト) ldap

注 現時点では、iim.userprops.store パラメータが重要になるのは、プレゼンスサービスと Instant Messaging サービスのサービス定義がインストールされた場合だけです。

アクセス制御ファイルによるポリシー管理

アクセス制御ファイルを編集することで、次のエンドユーザー権限を制御できます。

- ほかのエンドユーザーのプレゼンスステータスにアクセスする権限
- ほかのエンドユーザーにアラートを送信する権限
- プロパティをサーバー上に保存する権限
- 新しい会議室を作成する権限
- 新しいニュースチャネルを作成する権限

デフォルトでは、ほかのエンドユーザーのプレゼンスステータスにアクセスする権限、エンドユーザーにアラートを送信する権限、およびプロパティをサーバー上に保存する権限が、エンドユーザーに与えられます。ほとんどの配備では、このデフォルト値を変更する必要はありません。

注 管理者は、特定の権限をグローバルに設定できますが、それらの権限に対する例外を定義することも可能です。たとえば、管理者は、選択されたエンドユーザーまたはグループに対して、特定のデフォルト権限を拒否することができます。

アクセス制御ファイルの格納場所は、次のとおりです。

- Solaris の場合 :

  `/etc/opt/SUNWiim/default/config/acls`

- Linux の場合 :

  `/etc/opt/soim/default/config/acls`

- Windows 上でのデフォルトディレクトリ :

  instant-messaging-installation-directory¥`config¥acls`

表 4-2 は、Sun ONE Instant Messaging のグローバルアクセス制御ファイルとそれらのファイルがエンドユーザーに付与する権限を、一覧にまとめたものです。

表 4-2 アクセス制御ファイル

アクセス制御ファイル	権限
`sysSaveUserSettings.acl`	自身の設定を変更できる (できない) ユーザーを定義する
`sysTopicsAdd.acl`	ニュースチャネルを作成できる (できない) ユーザーを定義する
`sysRoomsAdd.acl`	会議室を作成できる (できない) ユーザーを定義する

表 4-2　アクセス制御ファイル (続き)

アクセス制御ファイル	権限
sysSendAlerts.acl	アラートを送信できる (できない) ユーザーを定義する
sysWatch.acl	ほかのエンドユーザーの変更を監視できる (できない) ユーザーを定義する。この権限を持たないエンドユーザーに対しては、Sun ONE Instant Messenger ウィンドウが表示されない
sysAdmin.acl	管理者専用のファイル。このファイルでは、Sun ONE Instant Messaging のすべての機能、すべてのエンドユーザーに対する管理権限を設定する。この権限はほかのすべての権限よりも優先される。また、この権限は、すべての会議室およびニュースチャネルに対する MANAGE アクセス権に加え、すべてのエンドユーザーのプレゼンス情報、設定、およびプロパティに対する MANAGE アクセス権を、管理者に与える

アクセス制御ファイルの形式

アクセス制御ファイルには、権限を定義する一連のエントリが含まれます。各エントリは、次のいずれかのタグで始まります。

- d: - デフォルト
- u: - ユーザー
- g: - グループ

注　d: タグで始まるエントリは、アクセス制御ファイルの最後のエントリでなければなりません。d: タグで始まるエントリのあとに存在するエントリは、すべて無視されます。d: タグの値が true の場合、その他の行はすべて無視されます。アクセス制御ファイル内で d: タグを true に設定した場合、特定のエンドユーザーがその権限を持つことを選択的に拒否することはできません。

タグのあとにはコロン (:) を付けます。デフォルトタグでは、そのあとに true、false のいずれかを指定します。

エンドユーザータグ、グループタグでは、その後にエンドユーザー名、グループ名をそれぞれ指定します。

複数のエンドユーザーまたはグループを指定するには、それらの各エンドユーザー (u)、各グループ (g) をそれぞれ別々の行に記述します。

デフォルトエントリに true が設定された場合、ファイル内のその他のすべてのエントリは無視されます。デフォルトエントリに false が設定された場合、ファイル内に指定されたエンドユーザーとグループのみが、その特定の権限を持つことになります。

以下に示すのは、新規インストール時の、ACL ファイル内の d: タグ (デフォルトタグ) エントリです。

- sysAdmin.acl - d:false を含む
- sysTopicsAdd.acl - d:false を含む
- sysRoomsAdd.acl - d:false を含む
- sysSaveUserSettings.acl - d:true を含む
- sysSendAlerts.acl - d:true を含む
- sysWatch.acl - d:true を含む

注 すべてのアクセス制御ファイルの形式、さらにはその存在自体が、今後の製品リリースで変更される可能性があります。

アクセス制御ファイルのサンプル

この節では、権限が設定されたアクセス制御ファイル (sysTopicsAdd.acl ファイル) のサンプルを示します。会議室レベルおよびニュースチャネルレベルのアクセス制御ファイル (つまり、*roomname*.acl および *newschannel*.acl) については、47 ページの「会議室とニュースチャネルのアクセス制御」を参照してください。

sysTopicsAdd.acl ファイル

以下のサンプルでは、sysTopicsAdd.acl ファイルの d: タグ (デフォルトタグ) エントリは、false になっています。このため、ニュースチャネルを追加および削除する権限は、そのデフォルトよりも前に記述されたエンドユーザーとグループ、すなわち、user1、user2、および sales グループに対して付与されます。

```
# Example sysTopicsAdd.acl file
u:user1
u:user2
g:cn=sales,ou=groups,o=siroe
d:False
```

エンドユーザーの権限の変更

エンドユーザーの権限を変更するには、次の手順を実行します。

1. `config/acls` ディレクトリに移動します。たとえば、Solaris 上では次のように入力します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWiim/default/config/acls
   ```

2. 目的のアクセス制御ファイルを編集します。たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi sysTopicsAdd.acl
   ```

3. 変更を保存します。
4. エンドユーザーが Sun ONE Instant Messenger ウィンドウを更新しない限り、その変更は表示に反映されません。

Sun ONE Identity Server によるポリシー管理

Sun ONE Identity Server の Instant Messaging サービスとプレゼンスサービスを使うと、エンドユーザーと管理者の権限を別の方法で制御できます。各サービスに備わる属性には、動的、ユーザー、ポリシーの 3 種類があります。ポリシー属性は、権限を設定するための属性です。

アイデンティティサーバー内に作成された特定のポリシーに、ほかのユーザーから調査メッセージを受信する権限など、Instant Messaging のさまざまな機能に対する権限を、管理者およびエンドユーザーに許可または拒否する規則を追加する際に、ポリシー属性はそれらの規則の一部となります。

Sun ONE Instant Messaging Server を Sun ONE Identity Server とともにインストールすると、サンプルのポリシーとロールがいくつか作成されます。ポリシーとロールの詳細については、『Sun ONE Identity Server Getting Started Guide』と『Sun ONE Identity Server 6.1 管理ガイド』を参照してください。

さらに、サンプルのポリシーに満足できなかった場合、新しいポリシーを作成し、それらをサイトの要求に応じて特定のロール、グループ、組織、またはエンドユーザーに割り当てることも可能です。

Instant Messaging サービスまたはプレゼンスサービスがエンドユーザーに割り当てられると、それらのエンドユーザーは、関連する動的属性とユーザー属性を取得します。動的属性は、Sun ONE Identity Server で設定された特定のロールまたは組織に割り当てることができます。

特定のロールをエンドユーザーに割り当てたり、組織内でエンドユーザーを作成したりすると、関連する動的属性がそのエンドユーザーの特性の一部となります。ユーザー属性は、各エンドユーザーに直接割り当てます。ユーザー属性は、ロールや組織から継承されるわけではないため、通常はエンドユーザーごとに異なります。

エンドユーザーはログオン時に、該当するすべての属性を取得します。なお、取得される属性は、そのユーザーに割り当てられているロールの種類やポリシーの適用方法に応じて異なります。

動的、ユーザー、ポリシーの各属性がエンドユーザーに関連付けられるのは、プレゼンスサービスと Instant Messaging サービスがそれらのエンドユーザーに割り当てられた後です。

Instant Messaging サービス属性

表 4-3 は、各サービスに含まれるポリシー属性、動的属性、ユーザー属性を一覧にまとめたものです。

表 4-3 Sun ONE Instant Messaging 用の Sun ONE Identity Server 属性

サービス	ポリシー属性	動的属性	ユーザー属性
sunIM	sunIMAllowChat	sunIMProperties	sunIMUserProperties
	sunIMAllowChatInvite	sunIMRoster	sunIMUserRoster
	sunIMAllowForumAccess	sunIMConferenceRoster	sunIMUserConferenceRoster
	sunIMAllowForumManage	sunIMNewsRoster	sunIMUserNewsRoster
	sunIMAllowForumModerate		
	sunIMAllowAlertsAccess		
	sunIMAllowAlertsSend		
	sunIMAllowNewsAccess		
	sunIMAllowNewsManage		
	sunIMAllowFileTransfer		
	sunIMAllowContactListManage		
	sunIMAllowUserSettings		
	sunIMAllowPollingAccess		
	sunIMAllowPollingSend		

表 4-3　Sun ONE Instant Messaging 用の Sun ONE Identity Server 属性 (続き)

サービス	ポリシー属性	動的属性	ユーザー属性
sunPresence	sunPresenceAllowAccess sunPresenceAllowPublish sunPresenceAllowManage	sunPresenceDefaultAcess	sunPresenceEntityDefaultAccess
		sunPresenceAccessDenied	sunPresenceEntityAccessDenied
		sunPresenceAccessPermitted	sunPresenceEntityAccessPermitted
		sunPresenceDevices	sunPresenceEntityDevices

アイデンティティサーバー管理コンソールでは、上表の各属性に対応するラベルが表示されます。以下の 2 つの表は、属性、対応するラベル、簡単な説明を一覧にまとめたものです。表 4-4 はポリシー属性の一覧とその説明、表 4-5 は動的属性およびユーザー属性の一覧とその説明です。

表 4-4　Identity Server のポリシー属性 (Instant Messaging 用)

ポリシー属性	管理コンソールのラベル	属性の説明
sunIMAllowChat	チャット	エンドユーザーは、チャットルームへの参加依頼を受信できるほか、通常のチャット機能にアクセスできる
sunIMAllowChatInvite	チャットに参加依頼	エンドユーザーは、チャットへの参加依頼をほかのユーザーに送信できる
sunIMAllowForumAccess	会議室に参加	Sun ONE Instant Messenger に「会議室」タブが表示され、エンドユーザーは会議室に参加できるようになる
sunIMAllowForumManage	会議室の管理	エンドユーザーは、会議室の作成、削除、および管理を行える
sunIMAllowForumModerate	会議室のモデレート	エンドユーザーは会議のモデレータになれる
sunIMAllowAlertsAccess	アラートの受信	エンドユーザーは、ほかのユーザーからのアラートを受信できる
sunIMAllowAlertsSend	アラートの送信	エンドユーザーは、ほかのユーザーにアラートを送信できる

表 4-4　Identity Server のポリシー属性 (Instant Messaging 用) (続き)

ポリシー属性	管理コンソールのラベル	属性の説明
sunIMAllowNewsAccess	ニュースに加入	Sun ONE Instant Messenger に「ニュース」ボタンが表示される。このボタンを使うと、エンドユーザーは、ニュースメッセージを送受信するためにニュースチャネルを一覧表示できる
sunIMAllowNewsManage	ニュースチャネルの管理	エンドユーザーはニュースチャネルを管理できる (ニュースチャネルの作成、削除、権限割り当てを行える)
sunIMAllowFileTransfer	ファイルの交換	エンドユーザーは、アラート、チャット、ニュースの各メッセージに添付ファイルを追加できる
sunIMAllowContactListManage	連絡先の管理	エンドユーザーは自身の連絡先一覧を管理できる (ユーザーまたはグループの一覧への追加、一覧からの削除、一覧内のフォルダ名の変更を行える)
sunIMAllowUserSettings	Messenger 設定	Sun ONE Instant Messenger に「設定」ボタンが表示される。このボタンを使うと、エンドユーザーは、自身の Sun ONE Instant Messenger 設定を変更できる
sunIMAllowPollingAccess	調査の受信	エンドユーザーは、ほかのユーザーから調査メッセージを受信し、それらの調査に回答できる
sunIMAllowPollingSend	調査の送信	Sun ONE Instant Messenger に「調査」ボタンが表示される。このボタンを使うと、エンドユーザーは、調査メッセージをほかのユーザーに送信し、その回答を受信できる
sunPresenceAllowAccess	他人の Presence にアクセス	エンドユーザーは、ほかのユーザーのプレゼンスステータスを監視できる。連絡先一覧には、連絡先が表示されるだけでなく、それらの連絡先のプレゼンスステータスの変更が反映される (ステータスアイコンが変化する)

表 4-4　Identity Server のポリシー属性 (Instant Messaging 用) (続き)

ポリシー属性	管理コンソールのラベル	属性の説明
sunPresenceAllowPublish	Presence の公開	エンドユーザーは、他人が監視する自分のステータス (オンライン、オフライン、取り込み中など) をクリックして選択できる
sunPresenceAllowManage	Presence アクセスの管理	Sun ONE Instant Messenger の「設定」に「アクセス権」タブが表示される。エンドユーザーは、自身のデフォルトプレゼンスアクセス、プレゼンス許可リスト、プレゼンス拒否リストを設定できる

属性の直接変更

エンドユーザーは、Sun ONE Identity Server の管理コンソールにログインし、Instant Messaging サービスとプレゼンスサービスの各属性値を参照できます。属性が変更可能として定義されていた場合、エンドユーザーはそれらの属性を変更できます。ただし、デフォルトでは、Instant Messaging サービス内の属性はすべて変更不可能になっており、エンドユーザーにそれらの変更を許可することも、あまりお勧めできません。とはいえ、システム管理の観点から、属性の直接操作が有用である場合もあります。

たとえば、「参加する会議室」など、いくつかのシステム属性ではロールの影響は存在しないため、システム管理者は、それらの属性の値を変更する際に、ほかのエンドユーザー (の会議名簿など) からそれらの属性をコピーしたり、それらの属性を直接変更したりします。これらの属性の一覧を、112 ページの表 4-5 に示します。

表 4-5 を見ると、ユーザー属性は、エンドユーザーが Sun ONE Identity Server 管理コンソールを使って設定できます。動的属性は、管理者によって設定されます。動的属性に設定された値は、対応するユーザー属性の値を上書きするか、その値とマージされます。

対応する動的属性とユーザー属性の性質により、競合もしくは補完し合う情報がどのように解決されるかが決まります。たとえば、「参加する会議室」の 2 つのソース (動的属性およびユーザー属性) は互いに補完し合う関係にあるため、両者の情報はマージされます。いずれの属性も他方を上書きしません。

表 4-5　Identity Server のユーザー属性と動的属性 (Instant Messaging 用)

管理コンソールのラベル	ユーザー属性	動的属性	属性の説明	競合の解決
Messenger 設定	sunIMUser Properties	sunIMProperties	Sun ONE Instant Messenger のすべてのプロパティが含まれる。ファイルベースのユーザープロパティ機構における user.properties ファイルに対応している	マージ - ただし、あるプロパティの値がユーザー属性、動的属性の両方に存在していた場合、動的属性の値が使用される
加入	sunIMUserRoster	sunIMRoster	加入情報が含まれる (現時点では未使用)	動的属性の情報が使用される
参加する会議室	sunIMUser ConferenceRoster	sunIMConference Roster	会議室の参加情報が含まれる	マージ - 動的属性とユーザー属性の参加情報がマージされる
ニュースチャネルへ加入	sunIMNewsRoster	sunIMUserNews Roster	ニュースチャネルの加入情報が含まれる	マージ - 動的属性とユーザー属性の加入情報がマージされる
デフォルト Presence 表示	sunPresenceEntity DefaultAccess	sunPresenceDefaul tAccess	Sun ONE Instant Messenger におけるアクセス設定に対応している。これをチェックした場合、プレゼンスステータスがすべてのユーザーから参照可能になる。チェックしなかった場合、プレゼンスステータスはどのユーザーからも参照できなくなる	動的属性の情報が使用される

表 4-5　Identity Server のユーザー属性と動的属性 (Instant Messaging 用) (続き)

管理コンソールのラベル	ユーザー属性	動的属性	属性の説明	競合の解決
Presence を許可しない	sunPresenceEntity AccessDenied	sunPresenceAccess Denied	管理コンソール内の「デフォルト Presence 表示」ラベル (この表の 1 つ前のエントリを参照) がチェックされている場合 (すべてのユーザーから参照可能である場合)、エンドユーザーは、このリストに特定のユーザーを入力することで、それらのユーザーがプレゼンスステータスにアクセスするのを拒否できる	動的属性の情報が使用される
Presence を許可する	sunPresenceEntity AccessPermitted	sunPresenceAccess Permitted	管理コンソール内の「デフォルト Presence 表示」ラベル (この表の 2 つ前のエントリを参照) がチェックされていない場合 (どのユーザーからも参照不可能である場合)、エンドユーザーは、このリストに特定のユーザーを入力することで、それらのユーザーがプレゼンスステータスにアクセスするのを許可できる	動的属性の情報が使用される
Presence エージェント	sunPresenceEntity Devices	sunPresenceDevice s	このリリースでは未使用 (将来使用予定)	動的属性の情報が使用される

Instant Messaging ポリシーとプレゼンスポリシーの事前定義サンプル

表 4-6 は、Instant Messaging サービスコンポーネントのインストール時に Sun ONE Identity Server 内に作成される、7 つのサンプルポリシーと 7 つのサンプルロール、およびその説明を一覧にまとめたものです。各エンドユーザーには、付与すべきアクセス権限に応じたロールを追加できます。

典型的なサイトでは、ロール「IM Regular User」(デフォルトの Instant Messaging アクセス権とプレゼンスアクセス権を取得するロール) を、Instant Messaging ポリシー管理の責務を負わない、Instant Messenger を単に使用するだけのエンドユーザーに割り当てます。また、その同じサイトで、ロール「IM Administrator」(Instant Messaging サービスとプレゼンスサービスの管理権限が関連付けられたロール) を、Instant Messaging ポリシー管理に対して完全な責務を負うエンドユーザーに割り当てます。表 4-7 は、ポリシー属性のデフォルトの権限割り当て一覧です。あるアクションがある規則内で選択されていない場合、この表の値 「許可」や「許可しない」は意味を持ちません。というのも、そのポリシーはその属性に影響しないからです。

表 4-6　アイデンティティサーバーのデフォルトのポリシーとロール

ポリシー	このポリシーが適用されるロール	このポリシーが適用されるサービス	ポリシーの説明
Default Instant Messaging and presence access	IM Regular User	`sunIM`、`sunPresence`	一般的な Instant Messaging エンドユーザーがデフォルトで備えるべきアクセス権
Ability to administer Instant Messaging and Presence Service	IM Administrator	`sunIM`、`sunPresence`	Instant Messaging 管理者が備えるアクセス権。Instant Messaging のすべての機能にアクセスできる
Ability to manage Instant Messaging news channels	IM News Administrator	`sunIM`	エンドユーザーは、ニュースチャネルの管理 (作成や削除) を行える
Ability to manage Instant Messaging conference rooms	Im Conference Rooms Administrator	`sunIM`	エンドユーザーは、会議室の管理 (作成や削除) を行える
Ability to change own Instant Messaging user settings	IM Allow User Settings Role	`sunIM`	エンドユーザーは、Sun ONE Instant Messenger の「設定」ボタンをクリックして設定を編集できる
Ability to send Instant Messaging alerts	IM Allow Send Alerts Role	`sunIM`	エンドユーザーは、Sun ONE Instant Messenger でアラートを送信できる

表 4-6　アイデンティティサーバーのデフォルトのポリシーとロール (続き)

ポリシー	このポリシーが適用されるロール	このポリシーが適用されるサービス	ポリシーの説明
Ability to watch changes on other Instant Messaging end users	IM Allow Watch Changes Role	sunIM	エンドユーザーは、ほかの Instant Messaging エンドユーザーのプレゼンスステータスにアクセスできる

表 4-7　デフォルトポリシーの割り当て

	ポリシー						
属性	Default Instant Messaging and presence access	Ability to administer Instant Messaging and Presence Service	Ability to manage Instant Messaging news channels	Ability to manage Instant Messaging conference rooms	Ability to change own Instant Messaging end-user settings	Ability to send Instant Messaging alerts	Ability to watch changes on other Instant Messaging end-users
sunIMAllowChat	許可	許可					
sunIMAllowChatInvite	許可	許可					
sunIMAllowForumAccess	許可	許可		許可			
sunIMAllowForumManage	許可しない	許可		許可			
sunIMAllowForumModerate	許可しない	許可		許可			
sunIMAllowAlertsAccess	許可	許可				許可	
sunIMAllowAlertsSend	許可	許可				許可	
sunIMAllowNewsAccess	許可	許可	許可				
sunIMAllowNewsManage	許可しない	許可	許可				
sunIMAllowFileTransfer	許可	許可					
sunIMAllowContactListManage	許可	許可					
sunIMAllowUserSettings	許可	許可			許可		
sunIMAllowPollingAccess	許可	許可					
sunIMAllowPollingSend	許可	許可					
sunPresenceAllowManage	許可	許可					
sunPresenceAllowAccess	許可	許可					許可
sunPresenceAllowPublish	許可	許可					

新しい Instant Messaging ポリシーの作成

サイトの特定の要求に応じて、新しいポリシーを作成できます。

新しいポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

1. Sun ONE Identity Server の管理コンソール (`http://hostname:port/amconsole`、たとえば `http://imserver.company22.example.com:80/amconsole`) にログオンします。
2. 「アイデンティティ管理」タブが選択された状態で、ナビゲーション区画 (左下のフレーム) にある「表示」ドロップダウンリストから「ポリシー」を選択します。
3. 「新規」をクリックします。データ区画 (右下のフレーム) に「新規ポリシー」ページが表示されます。
4. 「ポリシータイプ」で「標準」を選択します。
5. 「名前」フィールドにポリシーの説明 (「Ability to Perform IM Task」など) を入力します。
6. 「作成」をクリックします。ナビゲーション区画のポリシー一覧に新しいポリシーの名前が表示され、データ区画のページが、新しいポリシーに対する「編集」ページに変わります。
7. 「編集」ページの「表示」ドロップダウンリストから「ルール」を選択します。「編集」ページ内に「ルール名、サービス、リソース」パネルが表示されます。
8. 「追加」をクリックします。「ルールを追加」ページが表示されます。
9. 適用するサービス (「Instant Messaging サービス」、「Presence サービス」のいずれか) を選択します。

   各サービスでは、エンドユーザーが特定のアクションを実行するのを許可または拒否できます。たとえば、「チャット」は Instant Messaging サービスに固有のアクションであり、「他人の Presence にアクセス」はプレゼンスサービスに固有のアクションです。
10. 「ルール名」フィールドに規則の説明 (「`Rule 1`」など) を入力します。
11. 「リソース名」に適切な値 (`IMResource`、`PresenceResource` のいずれか) を入力します。
    - Instant Messaging サービスの場合は `IMResource`
    - プレゼンスサービスの場合は `PresenceResource`
12. 「アクション」で適用するアクションを選択します。
13. 「値」で各アクションの値 (「許可」、「許可しない」のいずれか) を選択します。

14. 「作成」をクリックします。この規則案が、そのポリシーの保存規則一覧に表示されます。
15. 「保存」をクリックします。この規則案が保存規則になります。
16. そのポリシーに適用するすべての規則を作成し終えるまで、手順 8 ～ 15 を繰り返します。新しい規則を作成するたびに、「保存」をクリックして変更内容をポリシーに保存してください。

ロール、グループ、組織、ユーザーへのポリシーの割り当て

ロール、グループ、組織、またはユーザーには、ポリシー (デフォルトの Instant Messaging ポリシーまたは Instant Messaging のインストール後に作成された Instant Messaging ポリシー) を割り当てることができます。

特定のポリシーを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. Sun ONE Identity Server の管理コンソール (`http://hostname:port/amconsole`、たとえば `http://imserver.company22.example.com:80/amconsole`) にログオンします。
2. 「アイデンティティ管理」タブが選択された状態で、ナビゲーション区画 (左下のフレーム) にある「表示」ドロップダウンリストから「ポリシー」を選択します。
3. 割り当てるポリシーの名前の横にある矢印をクリックします。そのポリシーに対する「編集」ページが、データ区画 (右下のフレーム) に表示されます。
4. 「編集」ページの「表示」ドロップダウンリストから「サブジェクト」を選択します。
5. 「追加」をクリックします。「サブジェクトを追加」ページが表示されます。このページには、次の利用可能なサブジェクトタイプが一覧表示されます。
   - `Identity Server` ロール
   - `LDAP` グループ
   - `LDAP` ロール
   - `LDAP` ユーザー
   - 組織
6. このポリシーに合うサブジェクトタイプ (「組織」など) を選択します。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「名前」フィールドで、サブジェクトの説明を入力します。

9. 必要であれば、「排他的」チェックボックスをオンにします。

   「排他的」チェックボックスは、デフォルトでオフになっています。これは、このサブジェクトのすべてのメンバーにポリシーが適用されることを意味しています。

   「排他的」チェックボックスをオンにすると、このサブジェクトのメンバー以外のすべてのユーザーにポリシーが適用されます。

10. 「利用可能」フィールドで、このサブジェクトに追加するエントリを検索します。

    a. 探したいエントリの検索条件を入力します。デフォルトの検索条件は「*」です。この場合、そのサブジェクトタイプのすべてのサブジェクトが表示されます。

    b. 「検索」をクリックします。

    c. 「利用可能」テキストボックス内で、「選択」テキストボックスに追加したいエントリを強調表示します。

    d. 「追加」、「すべて追加」のいずれか適切なほうをクリックします。

    e. 必要なすべての名前を「選択」テキストボックスに追加し終わるまで、手順 a ～ d を繰り返します。

11. 「作成」をクリックします。このサブジェクト案が、そのポリシーの保存サブジェクト一覧に表示されます。

12. 「保存」をクリックします。このサブジェクト案が保存サブジェクトになります。

13. このポリシーに追加するすべてのサブジェクトを作成し終えるまで、手順 5 ～ 12 を繰り返します。新しいサブジェクトを作成するたびに、「保存」をクリックして変更内容をポリシーに保存してください。

アイデンティティサーバーによる新しいサブ組織の作成

Sun ONE Identity Server のサブ組織作成機能を使うと、組織的に独立した複数のユーザー群を、Sun ONE Instant Messaging Server 内に作成することができます。各サブ組織は、個別の DNS ドメインにマッピングすることが可能です。サブ組織内のエンドユーザーは、ほかのサブ組織内のエンドユーザーから完全に隔離されます。Instant Messaging の新しいサブ組織を作成するための最小限の手順を、以下に示します。

新しいサブ組織を作成するには、次の手順を実行します。

1. Sun ONE Identity Server の管理コンソール (`http://hostname:port/amconsole`、たとえば `http://imserver.company22.example.com:80/amconsole`) にログオンします。

2. 新しい組織を作成します。
   a. 「アイデンティティ管理」タブが選択された状態で、ナビゲーション区画 (左下のフレーム) にある「表示」ドロップダウンリストから「組織」を選択します。
   b. 「新規」をクリックします。データ区画 (右下のフレーム) に「新規組織」ページが表示されます。
   c. 次の情報を適切なフィールドに入力します。
      - サブ組織名 (`sub1` など)
      - ドメイン名 (`sub1.company22.example.com` など)
   d. 「作成」をクリックします。
3. 新しく作成されたサブ組織のサービスを登録します。
   a. ナビゲーション区画で、新しいサブ組織の名前 (`sub1` など) をクリックします (ここでクリックするのは名前であり、その右側にあるプロパティ矢印ではありません)。
   b. ナビゲーション区画の「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択します。
   c. 「登録」をクリックします。「サービスを登録」ページがデータ区画に表示されます。
   d. 次のサービスを選択します。

      「認証」見出しの下
      - コア
      - LDAP

      「Instant Messaging サービス」見出しの下
      - Instant Messaging サービス
      - Presence サービス
   e. 「登録」をクリックします。このサブ組織用に新しく選択されたサービスが、ナビゲーション区画に表示されます。
4. 新しく選択されたサービスのサービステンプレートを作成します。
   a. ナビゲーション区画で、特定のサービスのプロパティ矢印をクリックします。まずは、「コア」サービスから始めます。

      データ区画に「サービステンプレートの作成」ページが表示されます。.

b. データ区画で「作成」をクリックします。すると、「サービステンプレートの作成」ページに代わって、選択したサービスのテンプレートオプションを含むページが表示されます。

テンプレートオプションを変更しない場合でも、個々のサービスごとに「作成」をクリックする必要があります。

c. 以下の手順に従って、各サービスのサービステンプレートのオプションを変更します。

I. **コア** : 通常の場合、オプションを変更する必要はありません。そのまま手順 d に進んでください。

II. LDAP : 手順 d に進む前に、次の手順を実行します。

- 新しいサブ組織のプレフィックスを、「ユーザー検索の開始 DN」フィールドに追加します。プレフィックス追加後の最終的な DN の形式は、次のようになります。

  ```
  o=sub1,dc=company22,dc=example,dc=com
  ```

- 「root ユーザーバインドパスワード」、「root ユーザーバインドパスワード (確認)」の各フィールドに、LDAP パスワードを入力します。

III. Instant Messaging **サービス** : 通常の場合、オプションを変更する必要はありません。そのまま手順 d に進んでください。

IV. Presence **サービス** : エンドユーザーのプレゼンス情報をほかのユーザーがデフォルトで利用できるようにしたい場合 (そのようにしたいサイトが多い)、「デフォルト Presence　表示」チェックボックスをオンにしたあとで、手順 d に進みます。

d. 「保存」をクリックします。

e. すべてのサービスのサービステンプレートを作成し終わるまで、手順 a ～ d を繰り返します。

追加したエンドユーザーへのロールの割り当て

サブ組織内に新しいエンドユーザーを作成し終わったら、次にそれらのエンドユーザーにロールを割り当てる必要があります。ロールは親組織から継承できます。その方法を以下で説明します。

追加したエンドユーザーへロールを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. 親組織に移動し、「表示」ドロップダウンリストから「ロール」を選択します。具体的な手順は、次のとおりです。
   a. Sun ONE Identity Server の管理コンソール (`http://hostname:port/amconsole`、たとえば `http://imserver.company22.example.com:80/amconsole`) にログオンします。
   b. 「アイデンティティ管理」タブが選択された状態で、ナビゲーション区画 (左下のフレーム) にある「表示」ドロップダウンリストから「ロール」を選択します。
2. 割り当てるロールの右側にあるプロパティ矢印をクリックします。そのロールに対するページが、データ区画 (右下のフレーム) に表示されます。
3. データ区画の「表示」ドロップダウンリストから「ユーザー」を選択します。
4. 「追加」をクリックします。「ユーザーを追加」ページが表示されます。
5. ユーザーを特定するための検索パターンを入力します。たとえば、「`UserId`」フィールドにアスタリスク「*」を入力すると、すべてのユーザーが一覧表示されます。
6. 「フィルタ」をクリックします。「ユーザーを選択」ページが表示されます。
7. 「ユーザーを選択」ページで親パスを表示します。
   a. 「親パスを表示」チェックボックスをオンにします。
   b. 「更新」をクリックします。
8. このロールを割り当てるユーザーを選択します。
9. 「送信」をクリックします。

Sun ONE Instant Messaging 6.0 サーバーの Instant Messaging サービスからの移行

移行しない場合

ユーザーのサイトで、Sun ONE Instant Messaging 6.0 サーバーと Sun ONE Identity Server 5.1 ソフトウェアを併用して Instant Messaging サービスが配備されていた場合、Sun ONE Instant Messaging 6.1 ソフトウェアはそれらの古い属性を尊重します。`sunIMAllowFileTransfer` や `sunIMEnableModerator` などといった Sun ONE Instant Messaging 6.0 サーバーのポリシー属性は、Sun ONE Instant Messaging 6.1 サーバーで設定された同じポリシー属性を上書きします。

移行する場合

ただし、2 つの Instant Messaging サービス間の相違点をより好ましいかたちで解決するには、Sun ONE Instant Messaging 6.0 ソフトウェアの Instant Messaging サービスから移行し、Sun ONE Instant Messaging 6.1 ソフトウェアの Instant Messaging サービスとプレゼンスサービスを使用する Sun ONE Identity Server ポリシーを、変更または作成する必要があります。新しいポリシーを定義する際には、古いポリシーと同等のアクセス制御をサイトに対して提供できるように配慮する必要があります。

たとえば、「Default Instant Messaging and presence access」ポリシー内の特定の規則を変更して各ポリシー属性の動作 (「許可」、「許可しない」のいずれか) を設定することで、そのポリシーの動作が、Sun ONE Instant Messaging 6.0 サーバーの場合と同じになるようにします。または、以前と同じ動作を実現する規則を含んだ、新しいポリシーを作成します。

アクセス制御ファイルの移行

ユーザーのサイトで、以前のバージョン (6.0 以前) の Sun ONE Instant Messaging Server が使用されており、かつ Instant Messaging サービスが使われていなかった場合、つまり、エンドユーザーの権限が、Sun ONE Identity Server によるポリシー管理を通じて設定されておらず、アクセス制御ファイルを編集することで設定されていた場合、アクセス制御ファイル内に設定されたポリシー情報に基づいて Sun ONE Identity Server ポリシーを作成できますが、それには次の 2 つの方法があります。

アクセス制御ファイル情報の手動移行

アクセス制御ファイル情報の自動移行

アクセス制御ファイル情報の手動移行

この方法の概要手順を、以下に示します。

1. 各アクセス制御ファイルを開きます (一度に 1 つずつ)。たとえば、`sysTopicsAdd.acl`、`sysRoomsAdd.acl` などです。

   アクセス制御ファイルの格納場所や記述形式の詳細については、104 ページの「アクセス制御ファイルによるポリシー管理」を参照してください。

2. 各ファイル内で、デフォルト行の値を読み取ります。デフォルト行では、文字「d」の後にコロンが続いています (`d:`)。

3. Sun ONE Identity Server 管理コンソールの「Default Instant Messaging and presence access」ポリシー内で、アクセス制御ファイルから読み取ったデフォルト値と同じ値を、特定の規則に設定します。

4. 通常の Instant Messaging エンドユーザーのすべてに、ロール「IM Regular User」を割り当てます。

5. これらのアクセス制御ファイル内に記述されたエンドユーザー (会議室やニュースチャネルの管理権限など、さまざまな権限を持つユーザー) を、それらの権限を備えた対応するロールに追加します。各デフォルトポリシーが適用されるロールについては、114 ページの表 4-6 を参照してください。

アクセス制御ファイル情報の自動移行

アクセス制御ファイル内の情報を手作業で移し替える代わりに、それらの情報をコマンドを使って一括移行することもできます。

次のコマンドを入力します。

`imadmin migrate`

このコマンドを実行すると、グローバルアクセス制御ファイル内の情報が、対応するポリシーとその関連サブジェクトへと転送されます。グローバルアクセス制御ファイルとポリシー間のマッピング一覧については、表 4-8 を参照してください。

表 4-8　アクセス制御ファイルとポリシー間のマッピング

アクセス制御ファイル	ポリシー
`sysSaveUserSettings.acl`	Ability to change own Instant Messaging user settings
`sysTopicsAdd.acl`	Ability to manage Instant Messaging news channels
`sysRoomsAdd.acl`	Ability to manage Instant Messaging conference rooms
`sysSendAlerts.acl`	Ability to send Instant Messaging alerts
`sysWatch.acl`	Ability to watch changes on other Instant Messaging end users

表 4-8　アクセス制御ファイルとポリシー間のマッピング (続き)

アクセス制御ファイル	ポリシー
sysAdmin.acl	Ability to administer Instant Messaging and Presence Service

Sun ONE Instant Messenger 設定の移行

Sun ONE Instant Messaging 6.1 サーバーでは、iim.conf ファイルのパラメータ iim.userprops.store が ldap に設定されていると、Sun ONE Instant Messenger のエンドユーザー設定が、sunIMUserProperties ユーザー属性に格納されます。

ユーザーのサイト上で、以前のバージョンの Sun ONE Instant Messaging Server が使用されており、かつ Sun ONE Instant Messenger 設定が user.properties ファイルに格納されていた場合、Sun ONE Instant Messaging 6.1 サーバーのインストール完了後、エンドユーザーがサーバーにログオンする際に、その古い設定が sunIMUserProperties ユーザー属性へと自動的に移行されます。ただし、そうした処理が実行されるのは、iim.conf ファイル内の iim.userprops.store パラメータが ldap に設定されている場合だけです。

あるエンドユーザーが初めて Sun ONE Instant Messaging 6.1 サーバーにログオンする際、サーバーは、sunIMUserProperties ユーザー属性が存在するかどうか、存在している場合はそのエンドユーザーの設定が格納されているかを確認します。そのエンドユーザーの設定がそこに見つからなかった場合、サーバーは、そのエンドユーザーに対する user.properties ファイルが存在するかどうかを確認します。そのような user.properties ファイルが存在する場合、サーバーは、そのファイル内の情報を sunIMUserProperties ユーザー属性へと転送します。一方、そのような user.properties ファイルが存在しない場合は、デフォルトの Sun ONE Instant Messenger 設定が、そのエンドユーザーの sunIMUserProperties ユーザー属性値として設定されます。

第 5 章

Instant Messaging アーカイブの管理

この章では、Sun ONE Instant Messaging アーカイブの管理方法と設定方法について説明します。

この章に含まれる節は、次のとおりです。

- Instant Messaging アーカイブの概要
- インスタントメッセージのアーカイブ
- アーカイブプロバイダの有効化
- アーカイブプロバイダの設定
- Portal Server 検索データベース内のアーカイブデータの管理
- Instant Messenger アーカイブ制御の有効化

Instant Messaging アーカイブの概要

Instant Messaging アーカイブは、インスタントメッセージを捕捉し、それらのメッセージを Portal Server 検索データベース内にアーカイブします。これにより、エンドユーザーは、Portal Server デスクトップの検索ページからクエリーを実行し、それらのアーカイブメッセージを取得できるようになります。

Sun ONE Instant Messaging アーカイブには、次のコンポーネントが含まれています。

アーカイブ / 取得コンポーネント : Sun ONE Portal Server 検索コンポーネントは「アーカイブ / 取得コンポーネント」とも呼ばれ、アーカイブインスタントメッセージの格納場所として使用されます。Instant Messaging アーカイブデータは、インデックスの設定後、Portal Server 検索データベース内に格納されます。また、それらのアーカイブデータにはカテゴリを割り当てることもできます。たとえば、アラートメッセージを `Alert` カテゴリ内に格納したりできます。

注 データを個々のカテゴリに格納すると、検索処理が単純化されるほか、アーカイブデータをすばやく取得できるようになります。

Instant Messaging アーカイブ検索 / 表示サーブレット : エンドユーザーが、特定の条件に一致するドキュメントの検索処理を実行すると、Portal Server 検索は、その条件に一致するページを取り出します。これらのページは、リモート Web ページ、Instant Messaging アーカイブデータのいずれかです。なお、Instant Messaging アーカイブデータは「Instant Messaging リソース記述子」とも呼ばれます。

- リモート Web ページの場合、条件に一致するページの URL が、検索結果リスト内に表示されます。エンドユーザーが検索結果リスト内の Web ページの URL をクリックすると、ブラウザは、リモート Web サーバーからそのページを取得します。
- Instant Messaging リソース記述子の場合、それらのアーカイブデータは、Portal Server 検索データベース内に格納されており、Web サーバーからダウンロード可能なドキュメントとして存在しているわけではありません。

エンドユーザーが、Instant Messaging リソース記述子の URL をクリックしてそのアーカイブデータを表示しようとすると、Instant Messaging アーカイブ検索 / 表示サーブレットが起動されます。Instant Messaging アーカイブ検索サーブレットは、Portal Server 検索データベースから目的の情報を取り出し、その Instant Messaging アーカイブデータを含んだテキスト形式または HTML 形式の応答を生成します。

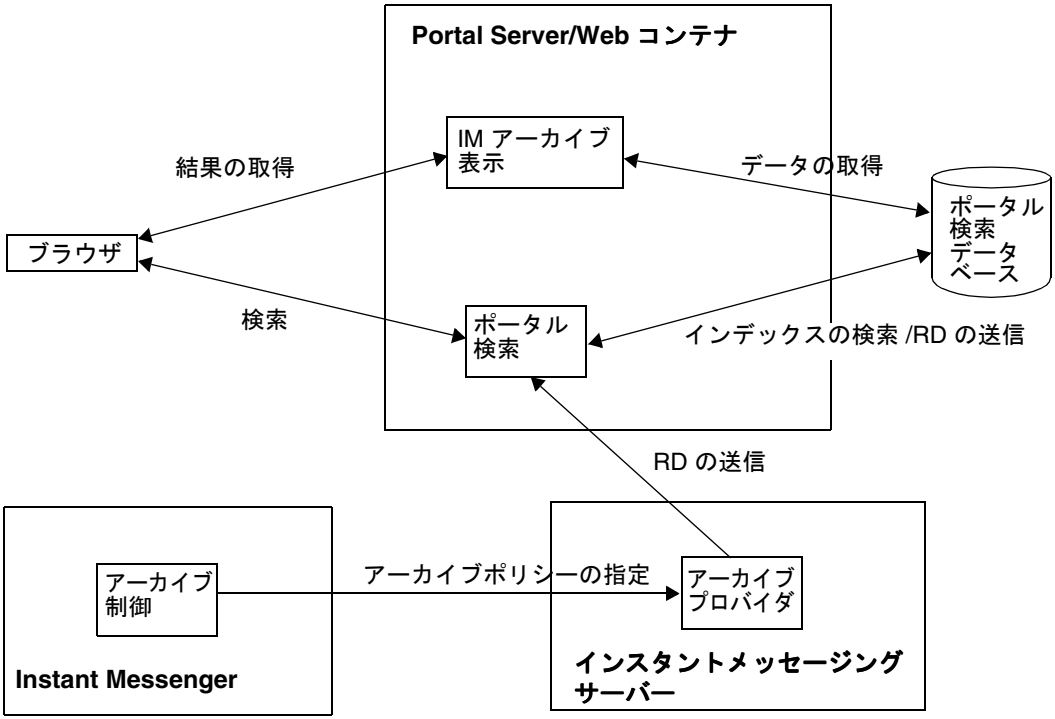
Instant Messaging アーカイブプロバイダ : このコンポーネントは、アーカイブすべきインスタントメッセージが発生するたびに、Instant Messaging Server によって起動されます。Instant Messaging アーカイブプロバイダは、Instant Messaging Server から提供されたデータに基づいて、SOIF (Summary Object Interchange Format) に準拠したリソース記述子 (Resource Descriptor、RD) を作成します。そして、それらのリソース記述子を、Portal Server 検索 API 経由で Portal Server 検索データベースに送信します。なお、アーカイブプロバイダは、Portal Server 検索データベースへのデータ送信時のパフォーマンス低下を抑えるために、バッファレコードを使用します。

Instant Messenger アーカイブ制御 : Instant Messaging データのアーカイブは、エンドユーザーの人手を介さずに自動的に行えます。エンドユーザーがアーカイブ機能を制御できるようにするには、Instant Messenger アーカイブ制御コンポーネントを有効にする必要があります。このコンポーネントを使うと、エンドユーザーは、「すべての

チャットをアーカイブ」などといった、デフォルトのアーカイブオプションを設定できます。また、それらのデフォルト値をトランザクション単位で変更することもできます。たとえば、エンドユーザーは、会議のコンテンツをアーカイブするように選択できます。

図 5-1 は、Sun ONE Instant Messaging アーカイブのコンポーネントを図示したものです。

図 5-1　Sun ONE Instant Messaging アーカイブのコンポーネント



インスタントメッセージのアーカイブ

すべてのインスタントメッセージは、アーカイブ時に次のいずれかのカテゴリに分類されます。

チャット : 非公開会議室のすべてのメッセージ

会議室 : 公開会議室のすべてのメッセージ

アラート : すべてのアラートメッセージが格納される

調査 : すべての調査メッセージが格納される

News : ニュースチャネルに投稿されたすべてのメッセージが格納される

Sun ONE Instant Messaging アーカイブプロバイダの機能は、次のとおりです。

- サーバーを通過するすべての Instant Messaging トラフィックを捕捉します。
- アーカイブデータを、Portal Server 検索内の個々のカテゴリ内に格納できます。
- データを個々のカテゴリに格納すると、検索処理を単純化できるほか、アーカイブデータをすばやく取得できるようになります。
- Portal Server デスクトップを使って検索を実行できます。
- Portal Server 検索のセキュリティ機能を使ってアクセス制御リストを提供できます。アーカイブプロバイダのセキュリティ機能を使うと、ある一連の管理ユーザーに対してのみ、アーカイブデータへのアクセスを許可できます。
- Portal Server 検索データベースの管理ツールを使ってデータ管理を行えます。

アーカイブプロバイダの有効化

Instant Messaging のアーカイブプロバイダを有効にするには、次の手順を実行します。

1. `config` ディレクトリに移動します。たとえば、Solaris 上では次のように入力します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWiim/default/config
   ```

2. `iim.conf` ファイルを開きます。

   たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi iim.conf
   ```

3. `iim.conf` ファイルに次の行を追加します。

   デフォルトのアーカイブプロバイダを使用する場合、次の行を追加します。

```
iim_server.msg_archive = true
```

カスタムアーカイブプロバイダを使用する場合、次の行を追加します。

```
iim_server.msg_archive.provider = provider_name
```

Portal Server 検索ベースのアーカイブを使用する場合、*provider_ name* を次の文字列で置き換えます。

```
com.iplanet.im.server.IMPSArchive
```

4. ファイルを保存します。
5. Instant Messaging Server 設定を更新します。更新するには、次のように入力します。

```
imadmin refresh
```

Sun ONE Instant Messaging Server に備わる API と SPI を使うと、カスタムアーカイブプロバイダを記述できます。Instant Messaging API の詳細については、167 ページの「Instant Messaging API」を参照してください。

アーカイブプロバイダの設定

アーカイブプロバイダは、アーカイブメッセージをリソース記述子 (RD) として、Portal Server 検索データベース内に格納します。アーカイブプロバイダが使用する Portal Server 検索スキーマのフィールドは、次のとおりです。

`Title`：このフィールドには、`Conference` カテゴリでは公開会議室の名前が、`Chat` カテゴリでは特定チャットセッション内の参加者の名前が、`Alert` カテゴリと `News` カテゴリではアラートメッセージの件名とニュースチャネルの名前が、それぞれ格納されます。また、`Poll` カテゴリでは、"`Poll from` *Sender*" が、`Title` フィールドに格納されます。ここで、*Sender* は調査の送信者の表示名です。

`Keyword` ：`Conference` カテゴリと `Chat` カテゴリの場合、このフィールドには会議室内のすべての参加者のリストが格納されます。また、公開会議室の場合、会議室の名前も格納されます。`Alert` カテゴリでは、送信者と受信者の表示名が格納されます。`News` カテゴリでは、チャネルの名前が格納されます。`Poll` カテゴリでは、送信者と受信者のリストが格納されます。以上の値に加え、すべてのカテゴリで、カテゴリ別の一意の ID も格納されます。

表 5-1 は、アーカイブプロバイダの各カテゴリの一意の ID とその説明を示したものです。

表 5-1 各カテゴリの一意の ID とその説明

カテゴリ	一意の ID
Conference	RoomName-StartTime
Chat	説明 :
	RoomName - 公開会議室または非公開会議室の名前
	StartTime - RD 作成時のタイムスタンプ
Alert	Alert-messageID
	説明 :
	messageID - アーカイブメッセージのメッセージ ID。このメッセージ ID が重要となるのは、RD に含まれるメッセージが 1 つだけの場合である。たとえば、News メッセージや Alert メッセージなど
Poll	Poll-pollID
News	TopicName-messageID

ReadACL : Conference カテゴリと News カテゴリでは、このフィールドの値は、それぞれ会議室とニュースチャネルのアクセス制御ファイルに基づいて設定されます。Chat カテゴリでは、このフィールドには参加者の DN が格納されます。Alert カテゴリでは、このフィールドには送信者の DN と受信者の DN が格納されます。Poll カテゴリでは、アーカイブによって新しいアクセス制御ファイルが提供されます。

RD に対する検索アクセス権は、この ReadACL フィールドの値によって制御されます。ドキュメントレベルのセキュリティが有効になっている場合、エンドユーザーが検索結果にアクセスできるのは、ReadACL フィールドにそのエンドユーザーの DN が含まれている場合だけです。Instant Messenger アーカイブ制御が有効になっている場合、チャットメッセージに対して ReadACL フィールドに追加されるエンドユーザー DN は、エンドユーザーの選択内容に応じて変わります。

Description : このフィールドには、HTML の書式を含まないアーカイブメッセージが格納されます。

Full-Text : このフィールドには、HTML 形式のアーカイブメッセージが格納されます。

Classification : このフィールドには、アーカイブメッセージのカテゴリが格納されます。

アーカイブプロバイダ設定パラメータ

表 5-2 は、iim.conf ファイルに追加可能なアーカイブプロバイダ設定パラメータの一覧とその説明です。

表 5-2　iim.conf ファイルに追加可能なアーカイブプロバイダ設定パラメータ

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_arch.title.attr	Title	このパラメータには、Portal Server 検索のデフォルトスキーマの Title と同等のフィールドの名前を指定する
iim_arch.keyword.attr	Keyword	このパラメータには、Portal Server 検索のデフォルトスキーマの Keyword と同等のフィールドの名前を指定する
iim_arch.readacl.attr	ReadACL	このパラメータには、Portal Server 検索のデフォルトスキーマの ReadACL と同等のフィールドの名前を指定する
iim_arch.description.attr	Description	このパラメータには、Portal Server 検索のデフォルトスキーマの Description と同等のフィールドの名前を指定する
iim_arch.fulltext.attr	Full-Text	このパラメータには、Portal Server 検索のデフォルトスキーマの Full-Text と同等のフィールドの名前を指定する
iim_arch.category.attr	Category	このパラメータには、Portal Server 検索のデフォルトスキーマの Category と同等のフィールドの名前を指定する
iim_arch.readacl.admin	なし	このパラメータには管理者の DN を指定する。値を複数指定する場合、それらの値は ";" で区切る必要がある
iim_arch.readacl.adminonly	false	このパラメータには、true、false のいずれかを指定する true - パラメータ iim_arch.readacl.admin に指定された管理者 DN のみが、ReadACL フィールドに追加され、ReadACL フィールドのデフォルト動作は無効になる false - パラメータ iim_arch.readacl.admin に指定された管理者 DN が ReadACL フィールドに追加されるほか、そのフィールドのデフォルト動作も実行される

表 5-2　iim.conf ファイルに追加可能なアーカイブプロバイダ設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_arch.categories	all	このパラメータには、アーカイブ可能なメッセージタイプのリストを指定する 指定可能な値は次のとおり poll alert chat conference news 複数の値も指定可能。それらの値はコンマ (",") で区切る
iim_arch.categoryname	なし	カテゴリ名が割り当てられていないカテゴリが存在した場合、このパラメータの値がそのカテゴリの名前として使用される
iim_arch.alert.categoryname	なし	このパラメータには、アラートアーカイブメッセージが格納されるカテゴリの名前を指定する **注 :** アラートメッセージ専用のカテゴリは、かならずしも必要ではない
iim_arch.poll.categoryname	なし	このパラメータには、調査アーカイブメッセージが格納されるカテゴリの名前を指定する **注 :** 調査メッセージ専用のカテゴリは、かならずしも必要ではない
iim_arch.conference.categoryname	なし	このパラメータには、会議アーカイブメッセージが格納されるカテゴリの名前を指定する **注 :** 会議メッセージ専用のカテゴリは、かならずしも必要ではない
iim_arch.chat.categoryname	なし	このパラメータには、チャットアーカイブメッセージが格納されるカテゴリの名前を指定する **注 :** チャットメッセージ専用のカテゴリは、かならずしも必要ではない

表 5-2　iim.conf ファイルに追加可能なアーカイブプロバイダ設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_arch.news.categoryname	なし	このパラメータには、ニュースアーカイブメッセージが格納されるカテゴリの名前を指定する **注** : ニュースメッセージ専用のカテゴリは、かならずしも必要ではない
iim_arch.conference.quiettime	5	このパラメータには、1 つの会議室 (公開または非公開) における連続した 2 つのメッセージ間の最大沈黙時間を指定する。沈黙したまま指定した時間が経過すると、現在の RD は期限切れとなり、メッセージアーカイブ用の新しい RD が作成される。この値の単位は「分」である
iim_arch.poll.maxwaittime	15	このパラメータには、調査データをサーバー内にバッファリングする (最大) 時間を指定する。この値の単位は「分」である
iim_arch.ignoreexplicitdeny	true	このパラメータには、true、false のいずれかを指定する true - Poll カテゴリと Conference カテゴリで、明示的な拒否アクセスを持つデータがアーカイブされない。これらのメッセージがアーカイブされないたびに、その情報が server.log ファイル内に記録される false - Poll カテゴリと Conference カテゴリで、明示的な拒否アクセスを持つデータがアーカイブされ、そのメッセージが Portal Server 検索データベースに追加される **注** : 特定の会議室またはニュースチャネルへのアクセスを明示的に拒否しなかった場合、デフォルトのアクセス権は、READ、WRITE、MANAGE のいずれかになる。また、特定のエンドユーザーのアクセス権を NONE にすることも可能

表 5-2　iim.conf ファイルに追加可能なアーカイブプロバイダ設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_arch.portal.search	なし	このパラメータの値には、Portal Server 検索サーブレットの URL を指定する。 例 : http://www.example.com/portal/search このパラメータが存在しない場合、アーカイブプロバイダは、システム上に存在する AMConfig.properties ファイルに基づいて、Portal Server 検索 URL の値を決定する
iim_arch.portal.admindn	なし	このパラメータの値は、管理ユーザーの DN でなければならない。 例 : uid=amadmin,ou=People,o=internet Portal Server 検索のドキュメントレベルのセキュリティがオンになっている場合、このパラメータを指定する必要がある
iim_arch.portal.adminpassword	なし	このパラメータの値は、iim_arch.portal.admindn パラメータで指定された管理ユーザーのパスワードでなければならない。 Portal Server 検索のドキュメントレベルのセキュリティがオンになっている場合、このパラメータを指定する必要がある
iim_arch.portal.search.database	なし	このパラメータの値は、Sun ONE Instant Messaging Server によってアーカイブメッセージが格納されるデータベースの名前でなければならない。このパラメータを指定しなかった場合、Sun ONE Portal Server 検索のデフォルトのデータベース内に、すべてのメッセージが格納される
iim_arch.portal.deployuri	/portal	このパラメータには Portal Server の配備 URI を指定する
iim_arch.portal.channelname	IMChannel	このパラメータには、インスタントメッセージングチャネルの名前を指定する

デフォルト以外のデータベースへの Sun ONE Instant Messaging アーカイブメッセージの格納

Sun ONE Instant Messaging アーカイブメッセージをデフォルト以外の Portal Server 検索データベース内に格納するには、次の手順に従います。

1. `iim.conf` ファイルを変更します。

   a. `config` ディレクトリに移動します。たとえば、Solaris 上では次のように入力します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWiim/default/config
   ```

   b. 任意のエディタを使って `iim.conf` ファイルを開きます。

   たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi iim.conf
   ```

   c. デフォルトのアーカイブプロバイダに対して、次の行を追加します。

   `iim_arch.portal.search.database =` *database-name*

   ここで、*database-name* は、デフォルト以外のデータベースの名前です。

   d. ファイルを保存します。

2. Portal Server 検索チャネルを変更します。

Portal Server 検索チャネルに、別のデータベース内のデータを検索するためのオプションを追加します。詳細については、『Sun ONE Portal Server Desktop Customization Guide』を参照してください。

3. `IMArchiveDisplay.jsp` ファイルを変更します。

   a. 次のディレクトリに移動します。

   ```
   /etc/opt/SUNWps/desktop/default/IMProvider/
   ```

   b. `IMArchiveDisplay.jsp` ファイルのバックアップを作成します。

   c. 任意のエディタを使って `IMArchiveDisplay.jsp` ファイルを編集します。たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi IMArchiveDisplay.jsp
   ```

   d. `IMArchiveDisplay.jsp` ファイル内のコードを検索し、次の 2 行を見つけます。

コード例 5-1 `IMArchiveDisplay.jsp` ファイル内の検索コード (編集前)

```
<search:setQuery query = "<%= scope %>"/>
<search:setRDMType rdmType = "rd-request"/>
```

e. コード例 5-1 に示した 2 行の間に、次のコード行を追加します。

```
<search:setDatabase database = "database-name"/>
```

新しいコード行を追加すると、検索コードはコード例 5-2 のようになります。

コード例 5-2 IMArchiveDisplay.jsp ファイル内の検索コード (編集後)

```
<search:setQuery query = "<%= scope %>"/>
<search:setDatabase database = "database-name"/>
<search:setRDMType rdmType = "rd-request"/>
```

ここで、*database-name* は、デフォルト以外のデータベースの名前です。

Portal Server 検索データベース内のアーカイブデータの管理

注 以下の手順は Solaris に固有のものです。というのも、Sun ONE Portal Server は、Solaris 上でのみサポートされているからです。

Instant Messaging データは、Portal Server 検索データベース内にリソース記述子 (RD) としてアーカイブされます。Portal Server 検索データベース内の個々のエントリは、リソース記述子 (RD) と呼ばれます。各 RD は、ある単一のリソースに関する一連の情報を含んでいます。各 RD のフィールドは、Portal Server 検索データベースのスキーマによって決定されます。

アーカイブデータを管理するには、これらの Portal Server 検索データベース内の RD を管理する必要があります。ここでは、Portal Server 検索データベースの保守作業のうち、頻繁に実行されるもののいくつかを説明します。

Portal Server 検索データベースにおけるデータ管理の詳細については、『Sun ONE Portal Server 6.2 管理者ガイド』を参照してください。

rdmgr コマンド

rdmgr コマンドは、検索サービスを操作する際の主要コマンドです。このコマンドは、2 種類のサブコマンドを管理者に提供します。1 つは、リソース記述子 (RD) を操作するためのサブコマンド、もう 1 つは、データベースを保守するためのサブコマンドです。rdmgr コマンドは通常、検索が有効化された Portal Server インスタンスディレクトリ内で実行されます。

rdmgr コマンドを起動するには、次の手順を実行します。

1. 次のディレクトリに移動します。

   cd /var/opt/SUNWps/https-servername/

2. コマンド行で次のように入力します。

   run-cs-cli *portal-server-install-dir*/SUNWps/bin/rdmgr args

   ここで、*portal-server-install-dir* は、Portal Server のインストール先ディレクトリです。

rdmgr コマンドの詳細については、『Sun ONE Portal Server 6.2 管理者ガイド』の「コマンド行ユーティリティ」を参照してください。

リソース記述子 (RD) の検索

引数値 -Q を指定して rdmgr コマンドを実行すると、検索結果の RD リストが生成されます。

例 :

- テキスト testing を含むリソース記述子 (RD) を検索するには、次のように入力します。

  run-cs-cli *portal-server-install-dir*/SUNWps/bin/rdmgr -Q testing

- 特定のカテゴリに属するリソース記述子 (RD) を検索するには、次のように入力します。

```
run-cs-cli portal-server-install-dir/SUNWps/bin/rdmgr -Q
"classification=Archive:Chat:January"
```

リソース記述子の削除

Portal Server 検索データベースからリソース記述子 (RD) を削除する例を、次に示します。

テキスト `testing` を含むすべてのリソース記述子 (RD) を削除するには、次のように入力します。

`run-cs-cli` *portal-server-install-dir*`/SUNWps/bin/rdmgr -d -Q testing`

特定のカテゴリ `Archive:Chat:January` に属するすべてのリソース記述子 (RD) を削除するには、次のように入力します。

```
run-cs-cli portal-server-install-dir/SUNWps/bin/rdmgr -d -Q
"classification=Archive:Chat:January"
```

Instant Messenger アーカイブ制御の有効化

Instant Messenger アーカイブ制御コンポーネントを使うと、エンドユーザーは、アーカイブインスタントメッセージを制御できます。このコンポーネントを使うと、エンドユーザーは、Portal Server 検索データベース内に格納されたアーカイブインスタントメッセージを検索できます。それには、Instant Messenger のメインウィンドウ内の「アーカイブ」ボタンをクリックします。また、エンドユーザーは、Instant Messenger の「アーカイブ」タブを使って、「すべてのチャットをアーカイブ」などのデフォルトのアーカイブオプションを設定することもできます。Instant Messenger アーカイブ制御の機能は、Instant Messenger の 2 つのオプションモジュールによって提供されています。

Instant Messenger アーカイブ制御コンポーネントを有効にするには、アプレット記述子ファイル内の `archive_control` アプレットパラメータを設定します。

Instant Messaging LDAP 配備の変更すべきアプレット記述子ファイルは、次のとおりです。

- `im.jnlp`、`imssl.jnlp`、および `jnlpLaunch.jsp` （ポータルのみ）(Java Web Start の場合)
- `im.html`、`imssl.html`、および `pluginLaunch.jsp` （ポータルのみ）(Java Plugin の場合)

JNLP ファイルおよび jnlpLaunch.jsp ファイルの変更

Java Web Start を使って Instant Messenger を起動する場合、Instant Messenger の Instant Messenger アーカイブ制御機能を有効にするには、次の手順を実行します。

1. Instant Messenger のドキュメントルートディレクトリに移動し、`im.jnlp` ファイルと `imssl.jnlp` ファイルを見つけます。

   `jnlpLaunch.jsp` ファイルは、次の場所にあります。

/etc/opt/SUNWps/desktop/default/IMProvider

2. jnlp、jsp のいずれかのファイルを開き、次の行を追加または編集します。

```
<argument>archive_control=true</argument>
```

html アプレットページおよび pluginLaunch.jsp ファイルの変更

Java Plug-in を使って Instant Messenger を起動する場合、Instant Messenger の Instant Messenger アーカイブ制御機能を有効にするには、次の手順を実行します。

1. メッセンジャのドキュメントルートディレクトリに移動し、im.html ファイルと imssl.html ファイルを見つけます。

   pluginLaunch.jsp ファイルは、次の場所にあります。

   /etc/opt/SUNWps/desktop/default/IMProvider

2. html、jsp のいずれかのファイルを開き、次の行を追加または編集します。

```
<PARAM NAME="archive_control" VALUE="true" />
<EMBED archive_control=true;/>
```

注 Instant Messaging Server の iim.conf ファイル内で iim_server.msg_archive.auto の値が true に設定されている場合は、Instant Messenger アーカイブ制御を有効にしないでください。エンドユーザーのメッセンジャ設定は、すべて無視されるからです。

アーカイブデータの表示の変更

アーカイブデータは、IMArchiveDisplay.jsp ファイルを使って配備されます。IMArchiveDisplay.jsp ファイルはデフォルトで、フォルダ /etc/opt/SUNWps/desktop/default/IMProvider 内にインストールされます。このファイルを編集すれば、アーカイブデータのスタイルやリソース文字列を変更できます。

たとえば、エンドユーザーの入室時に表示されるデフォルトのシステムメッセージ「joe has joined the room」を「joe has entered the room」で置き換えるには、次の手順を実行します。

1. 任意のエディタを使って IMArchiveDisplay.jsp ファイルを編集します。たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi IMArchiveDisplay.jsp
   ```

2. ファイル IMArchiveDisplay.jsp 内のコード例 5-3 のコード行をコード例 5-4 のもので置き換えます。

コード例 5-3 デフォルトのシステムメッセージの変更

```
....
ht.put("has_joined_the_room","<span class='user'> {0} </span>
<span class='headervalue'> has joined the room.</span>");
....
```

コード例 5-4 デフォルトのシステムメッセージを置換したあと

```
....
ht.put("has_joined_the_room","<span class='user'> {0} </span>
<span class='headervalue'> has entered the room.</span>");
....
```

同様に、ほかのキーに対するリソース文字列やキー情報の表示スタイルも、変更可能です。

Portal Server 検索のデフォルトスキーマ内の Title と Full-Text の属性名が変更された場合、それらの変更内容を、IMArchiveDisplay.jsp ファイルにも反映する必要があります。

アーカイブプロバイダの配備シナリオ例

この配備シナリオ例では、関連する Instant Messaging データをまとめてアーカイブする方法を説明します。

関連する Instant Messaging データをまとめてアーカイブするには、次の手順を実行します。

データの種類ごとにカテゴリを作成します。たとえば、すべての Instant Messaging アーカイブデータが格納される `Archive` カテゴリ内に、チャットメッセージ格納用のサブカテゴリ `Chat` を作成します。また、データを日時に基づいてアーカイブするようなサブカテゴリを作成することもできます。たとえば、2002 年 12 月のチャットデータをアーカイブするには、次のようなサブカテゴリを作成します。

```
Archive:Chat:2002:12
```

すべてのチャットデータを日時に基づいてアーカイブするには、次の手順を実行します。

1. `config` ディレクトリに移動します。たとえば、Solaris 上では次のように入力します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWiim/default/config
   ```

2. `iim.conf` ファイルを編集します。たとえば、次のように入力します。

   ```
   vi iim.conf
   ```

3. パラメータ `iim_arch.chat.categoryname` に対し、次の値を追加します。

   ```
   iim_arch.chat.categoryname = Archive:Chat:%Y:%M
   ```

   アーカイブプロバイダは、現在の年を `%Y` に、現在の月を `%M` に、それぞれ自動的に割り当てます。これらの値は、システム日付とシステム時刻から取得されます。

サブカテゴリ 2002 年 12 月に対するチャットデータをアーカイブおよびバックアップするには、次のように入力します。

1. `rdmgr -Q "classification=Archive:Chat:2002:12" > archive.soif`
2. `.soif` ファイルをバックアップシステムに格納します。

Portal Server 検索データベースから 2002 年 12 月分のアーカイブチャットデータを削除するには、次のように入力します。

```
rdmgr -d "classification=Archive:Chat:2002:12"
```

付録 A

Instant Messaging の設定パラメータ

この章では、Instant Messaging の設定パラメータについて説明します。

この章には、次の節があります。

- iim.conf ファイルの使用
- 一般的な設定パラメータ
- ユーザーソース設定パラメータ
- ロギング設定パラメータ
- Instant Messaging Server 設定パラメータ
- 複数サーバー設定パラメータ
- マルチプレクサ設定パラメータ

iim.conf ファイルの使用

Instant Messaging の設定情報は、次に示すインスタントメッセージング設定ディレクトリ内の `iim.conf` ファイルに格納されます。

- Solaris の場合 :

  `/etc/opt/SUNWiim/config/iim.conf`

- Windows の場合 :

  instant-messaging-installation-directory¥`config¥iim.conf`

このファイルは ASCII 形式のプレーンテキストファイルであり、各行には次の規則に基づいて、特定のサーバーパラメータとその値が定義されます。

- パラメータとその値 (複数可) は、1 つの等号 (=) で区切られます。なお、等号の前後には、スペースまたはタブを挿入できます。

- 値は、二重引用符 (" ") で囲むことができます。複数の値を設定可能なパラメータの場合、値文字列の全体を二重引用符で囲む必要があります。
- コメント行の先頭文字は、感嘆符 (!) でなければなりません。コメント行は情報提供を目的とした行です。したがって、サーバーはコメント行を無視します。
- 同じパラメータが 2 回以上現れた場合、最後に現れたパラメータの値が有効になります。
- 円記号 (¥) は、行の継続を示すための記号であり、値 (複数可) が 1 行に収まらないことを示します。
- 各行は、行終端記号 (¥n、¥r、または ¥r¥n) で終端されます。
- キーは、行内の、最初の非ホワイトスペース文字から最初の ASCII 等号 (=) またはセミコロン (;) の直前までの、すべての文字から構成されます。キーの末尾がセミコロンであった場合、そのあとに、文字列 lang- と、値の解釈に用いる言語を示すタグが続きます。その言語タグのあとには、等号 (=) が続きます。等号の前後に存在するすべてのホワイトスペース文字は、無視されます。行内の残りの文字はすべて、関連する値文字列の一部となります。
- 値文字列内の複数の値は、コンマ (,) で区切られます。
- 単一の値の内側に、コンマ、空白、改行、タブ、二重引用符、バックスラッシュなどの特殊文字が含まれている場合、その値全体を二重引用符で囲む必要があります。さらに、値内のすべてのキャリッジリターン、改行、タブ、バックスラッシュ、二重引用符には、円記号 (¥) を付ける必要があります。
- iim.conf ファイルを変更した場合、その新しい設定が有効になるように、Instant Messaging Server を再起動する必要があります。

注 インストール時に初期化された iim.conf ファイルを変更する際には、本書で説明した手順に必ず従ってください。

一般的な設定パラメータ

表 A-1 は、一般的な設定パラメータの一覧とその説明です。

表 A-1 一般的な設定パラメータ

パラメータ	デフォルト値	説明
iim.comm.modules	iim_server,iim_mux	使用する通信モジュール。値は iim_server と iim_mux。デフォルト値は「iim_server, iim_mux」。これは、サーバーとマルチプレクサの両方を使用することを意味する。iim_mux はマルチプレクサ用の値
iim.smtpserver	localhost	電子メールまたはポケットベルにメッセージを転送するオプションが設定されたエンドユーザーにメールを送信する際に用いる SMTP サーバー
iim.instancedir	UNIX の場合 : /opt Windows の場合 : c:¥Program Files¥Sun¥InstantMessaging	インストールディレクトリルート
iim.instancevardir	Solaris の場合 : /var/opt/SUNWiim/default Linux の場合 : /var/opt/soim/default Windows の場合 : iim.conf¥	実行時のファイル (エンドユーザープロファイルデータベースやログなど、サーバーおよびマルチプレクサによって実行時に生成されるファイル) を格納するためのディレクトリを設定する
iim.user	LDAP 配備の場合、inetuser ポータル配備の場合、root	サーバープロセスを実行するためのエンドユーザー名。UNIX プラットフォームでのみ使用される
iim.group	LDAP 配備の場合、inetgroup ポータル配備の場合、root	サーバープロセスの実行時に用いるグループ。Solaris プラットフォームでのみ使用される

表 A-1　一般的な設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim.jvm.maxmemorysize	256	サーバーの実行元 JVM が使用可能なヒープの最大サイズ (MB)。Java コマンドの -mx 引数を構築する際に使用される
iim.mail.charset	なし	このパラメータは、メールのヘッダを ASCII 形式にするかどうか、エンコードしないようにするかどうかを指定する オフラインのアラート用に送信するメールメッセージのヘッダをエンコードする際に用いる文字セットの名前を指定する 例 : iim.mail.charset=iso-2022-jp
iim.jvm.command	/usr/j2se/bin/java	JRE (Java Runtime Executable) の場所
iim.identity.basedir	/opt	Sun ONE Identity Server のデフォルトインストールディレクトリ (ベースディレクトリとも呼ばれる)
iim.identity.jre	/usr/java_1.3.1_04	アイデンティティサーバーがすべてのプロセスを実行する際に使用する JRE の場所
iim.portal.deployuri	/portal	Portal Server の war ファイルをアイデンティティサーバー内に配備する際に用いられる URI
iim.portal.host	imhostname	Portal Server が実行されているサーバーのホスト名。デフォルト以外のポート番号を使用する場合は、ポート番号を指定する
iim.portal.protocol	http	Portal Server へのアクセス時に使用するプロトコル
iim.policy.resynctime	720	Instant Messaging Server は、古いエンドユーザー情報を消去する目的で、キャッシュされたすべてのエンドユーザー情報を定期的にクリアする。このパラメータには、キャッシュされたエンドユーザー情報のクリア頻度を分単位で指定する

ユーザーソース設定パラメータ

表 A-2 は、ユーザーソース設定パラメータの一覧とその説明です。

表 A-2　ユーザーソース設定パラメータ

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_ldap.host	localhost:389	Sun ONE Instant Messaging Server がエンドユーザー認証時に使用する、LDAP サーバーの名前とポート
iim_ldap.searchbase	o=internet	LDAP サーバー上におけるエンドユーザーおよびグループの検索時に、ベースとして使用する文字列
iim_ldap.usergroupbinddn	なし (サーバーは匿名検索を実行する)	検索用 LDAP サーバーへのバインド時に使用する dn を指定する
iim_ldap.usergroupbindcred	なし (サーバーは匿名検索を実行する)	LDAP 検索時に iim_ldap.usergroupbinddn の dn と組み合わせて使用するパスワードを指定する
iim_ldap.loginfilter	(&(|(objectclass=inetorgperson)(objectclass=webtopuser))(uid={0}))	エンドユーザーのログイン時に使用する検索フィルタ
iim_ldap.usergroupbyidsearchfilter	(|(&(objectclass=groupofuniquenames)(uid={0}))(&(|(objectclass=inetorgperson)(objectclass=webtopuser))(uid={0}))))	ディレクトリ内の ID で指定されたベースでエンドユーザーおよびグループを検索する際に使用される検索フィルタ
iim_ldap.usergroupbynamesearchfilter	(|(&(objectclass=groupofuniquenames)(uid={0}))(&(|(objectclass=inetorgperson)(objectclass=webtopuser))(uid={0}))))	ディレクトリ内の名前で指定されたベースでエンドユーザーおよびグループを検索する際に使用される検索フィルタ

表 A-2　ユーザーソース設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_ldap.allowwildcardinuid	False	検索実行時に UID のワイルドカードを有効にするかどうかを指定する。大部分のディレクトリでは、UID のインデックスはワイルドカードなしの検索専用として設定されているため、デフォルト値は False になっている。この値を True に設定した場合、UID のインデックスをサブ文字列検索用に設定しない限り、パフォーマンスが低下する可能性がある
iim_ldap.userclass	inetOrgPerson,webtopuser	エントリが特定のエンドユーザーに属することを示す LDAP クラス
iim_ldap.groupclass	groupOfUniqueNames	エントリが特定のグループに属することを示す LDAP クラス
iim_ldap.groupbrowsefilter	(objectclass=groupofuniquenames)	ディレクトリ内の指定された検索ベースですべてのグループをブラウズする際に使用される検索フィルタ
iim_ldap.searchlimit	40	検索結果として返すエントリの最大数。値 -1 は、このサーバー上での検索を無効にすることを意味し、値 0 は、無制限の検索を示す。
iim_ldap.userdisplay	cn	エンドユーザーの表示名として使用する LDAP 属性
iim_ldap.groupdisplay	cn	グループの表示名として使用する LDAP 属性
im_ldap.useruidattr	uid	エンドユーザーの UID として使用する LDAP 属性
im_ldap.groupmemberattr	uniquemember	グループのメンバーリストを提供する LDAP 属性

表 A-2　ユーザーソース設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_ldap.usermailattr	mail	エンドユーザーのプロビジョニングされた電子メールアドレスを格納するための LDAP 属性。オフラインエンドユーザーに電子メールメッセージを送信する際に使用される
iim_ldap.userattributes	なし	LDAP ユーザーエントリのカスタム属性リストを格納するための LDAP 属性
iim_ldap.groupattributes	なし	LDAP グループエントリのカスタム属性リストを格納するための LDAP 属性
iim_ldap.groupmemberurlattr	なし	動的グループのメンバーシップ属性。LDAP フィルタまたは LDAP URL が格納される
iim_ldap.useidentityadmin	Sun ONE Identity Server Instant Messaging Service Definition コンポーネントがインストールされている場合のデフォルト値は true Sun ONE Identity Server Instant Messaging Service Definition コンポーネントがインストールされていない場合のデフォルト値は false	値が true の場合、ディレクトリサーバーへのバインド時にアイデンティティサーバー管理者の資格情報が使用される

ロギング設定パラメータ

表 A-3 は、ロギング設定パラメータの一覧とその説明です。

表 A-3　ロギング設定パラメータ

パラメータ	デフォルト値	説明
iim.log.iim_server.severity	NOTICE	サーバーモジュールに対するロギングレベル。可能な値を、レベルが高いものから低いものの順に並べると、FATAL、ERROR、NOTICE、WARNING、INFO、DEBUG となる。特定の低いロギングレベルを選択すると、そのレベルよりも高いレベルのログもすべて記録される。たとえば、WARNING を選択した場合、FATAL、ERROR、NOTICE、および WARNING のログが記録される
iim.log.iim_server.url	Solaris の場合 : /var/opt/SUNWiim/default/log/server.log Linux の場合 : /var/opt/soim/default/log/server.log Windows の場合 : *instant-messaging-installation-directory*¥log¥server.log	サーバーログファイルの場所。ディスク領域がいっぱいにならないように、このファイルの中身を定期的に削除する必要がある
iim.log.iim_mux.severity	NOTICE	マルチプレクサモジュールに対するロギングレベル。可能な値を、レベルが高いものから低いものの順に並べると、FATAL、ERROR、NOTICE、WARNING、INFO、DEBUG となる。特定の低いロギングレベルを選択すると、そのレベルよりも高いレベルのログもすべて記録される。たとえば、WARNING を選択した場合、FATAL、ERROR、NOTICE、および WARNING のログが記録される

表 A-3　ロギング設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim.log.iim_mux.url	Solaris の場合 : /var/opt/SUNWiim/default/log/mux.log Linux の場合 : /var/opt/soim/default/log/mux.log Windows の場合 : *instant-messaging-installation-directory*¥log¥mux.log	マルチプレクサログファイルの場所。ディスク領域がいっぱいにならないように、このファイルの中身を定期的に削除する必要がある
iim.log.iim_server.maxlogsize		このパラメータには、サーバーログファイルの最大サイズを指定する。ログファイルのサイズがこのパラメータに指定された値を超えると、サーバーによって新しいログファイルが作成される

Instant Messaging Server 設定パラメータ

表 A-4 は、Instant Messaging Server 設定パラメータの一覧とその説明です。

表 A-4　Instant Messaging server 設定パラメータ

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_server.domainname	ホストのドメイン名	このサーバーがサポートすべき論理 Instant Messaging server ドメイン名。この名前は、ネットワーク上のほかのサーバーがこのサーバーを特定する際に使用される。また、このサーバーが自身のエンドユーザーをほかのサーバーに通知する際にも使用される。これは必ずしも、Instant Messaging Server を実行しているシステムの完全指定ドメイン名である必要はない たとえば、システム iim.xyz.com が企業 xyz.com の唯一の Instant Messaging Server であった場合、このドメイン名として xyz.com が選択される可能性が高い
iim_server.port	49919	サーバーのバインド先として使用する IP アドレスとポート。サーバーはこのポート上で、ほかのサーバーからの接続を待機する。IP アドレス設定は、マルチホームのマシン上で特定の IP アドレスのみを使用したい場合に便利である。IP アドレスを指定しなかった場合、localhost の INADDR_ANY の値が使用される

表 A-4　Instant Messaging server 設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_server.useport	TRUE	このサーバーがサーバー間通信ポート上で待機するかどうかを示す。可能な値は TRUE と FALSE である。TRUE の場合、サーバーは、iim_server.port に定義されたポート上で待機する。ただし、ポートが明示的に定義されていない場合は、ポート 9919 上で待機する
iim_server.sslport	49910	安全なサーバー間通信時に使用されるサーバーの SSL ポート。**注** : 値の形式は、*IPaddress:port* である。IP アドレスを指定しなかった場合、localhost の INADDR_ANY の値が使用される
iim_server.usesslport	FALSE	このサーバーがサーバー間 SSL 通信ポート上で待機するかどうかを示す。可能な値は TRUE と FALSE である。TRUE の場合、サーバーは、iim_server.sslport に定義されたポート上で待機する。ただし、ポートが明示的に定義されていない場合は、ポート 9910 上で待機する
iim_server.clienttimeout	15	アクティブでないクライアント接続をサーバーが破棄するまでの時間 (分) を指定する。たとえば、マシンがシャットダウンされた場合などに適用される。設定可能な最小値は、5 分である。

表 A-4　Instant Messaging server 設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_server.usesso	0	このパラメータは、認証時に SSO プロバイダを使用すべきかどうかをサーバーに指示する。SSO プロバイダは、サーバーが SSO サービスを使ってセッション ID を検証する際に使用されるモジュールである ポータル配備の場合、Portal Server セッション API を使えば、IM サーバーは、クライアントから送信されてきたセッション ID を検証できる このパラメータの値は、0、1、-1 のいずれかである。 0 - SSO プロバイダを使用しない (デフォルト) 1 - まずは SSO プロバイダを使用するが、SSO 検証が失敗した場合には LDAP を使用する -1- SSO プロバイダのみを使用する。SSO 検証が失敗しても、LDAP 認証を試みない iim_server.usesso パラメータは、iim_server.ssoprovider パラメータと組み合わせて使用する
iim_server.ssoprovider	なし	このパラメータには、SSO プロバイダを実装しているクラスを指定する。iim_server.usesso の値が 0 以外であり、かつこのオプションが設定されていなかった場合、サーバーは、デフォルトの Portal Server ベースの SSO プロバイダを使用する

表 A-4　Instant Messaging server 設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_server.msg_archive	false	このパラメータは、アーカイブプロバイダを有効にするかどうかを指定する
iim_server.msg_archive.provider	なし	このパラメータには、カスタムアーカイブプロバイダのリストを設定する。このパラメータには複数の値を設定でき、個々の値はコンマ (,) で区切る
iim_server.msg_archive.auto	false	このパラメータは、エンドユーザーのアーカイブ制御設定を考慮するかどうかを、サーバーに指示する このパラメータの値が true の場合、ユーザー設定で「すべてをアーカイブ」オプションを選択したのと同じ効果を持つ
iim_server.conversion	false	このパラメータは、メッセージ変換を有効にするかどうかを指定する。メッセージ変換プロバイダの設定リストを使ってメッセージ変換を行うかどうかを指定する
iim_server.conversion.provider	なし	このパラメータには、メッセージ変換時に使用するメッセージ変換プロバイダのリストを設定する このパラメータには複数の値を設定でき、個々の値はコンマ (,) で区切る

表 A-4　Instant Messaging server 設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_server.servertimeout	-1	リモートサーバーがアクティブ状態にない場合、リモートサーバーが開いた接続をこのサーバーが自動的に閉じるように設定することが可能である。これは、リモートサーバーからこのサーバーへ要求が送られてきた時刻を定期的に測定することで実現されている。リモートサーバーから最後の要求が届いたあとの経過時間が、iim_server.servertimeout パラメータの値を超えた場合に、リモートサーバーへの接続が切断される このパラメータ値の単位は「分」である
iim_server.enable	true	この値は、Instant Messaging Server を有効にするかどうかを示す。Instant Messaging マルチプレクサを有効にする場合、このパラメータを false に設定する
iim_server.conversion.external.command	なし	このパラメータには、メッセージ変換時に使用する外部コマンドを指定する
iim_server.stat_frequency	1	このパラメータには、サーバーが活動概要をログファイルに記録する頻度を指定する。ただし、サーバーが活動概要をログファイルに記録するのは、サーバーの最低ログ重要度が NOTICE 以下に設定された場合だけである。この値の単位は「分」である
iim_server.secconfigdir	/etc/opt/SUNWiim/default/config	このディレクトリには鍵と証明書のデータベースが含まれる。また、通常はセキュリティモジュールデータベースも含まれる

表 A-4　Instant Messaging server 設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_server.keydbprefix	なし	この値には、鍵データベースのファイル名のプレフィックスを含める。鍵データベースのファイル名は、必ず key3.db で終わる必要がある たとえば、鍵データベース名が This-Database-key3.db であった場合 (プレフィックスが含まれていた場合)、このパラメータの値は This-Database になる
iim_server.certdbprefix	なし	この値には、証明書データベースのファイル名のプレフィックスを含める。証明書データベースのファイル名は、必ず cert7.db で終わる必要がある たとえば、証明書データベース名が Secret-stuff-cert7.db であった場合 (プレフィックスが含まれていた場合)、このパラメータの値は Secret-stuff になる
iim_server.secmodfile	secmod.db	この値には、セキュリティモジュールファイルの名前を含める
iim_server.certnickname	Server-Cert	この値には、証明書のインストール時に入力した証明書の名前を含める この証明書の名前は、大文字、小文字が区別される

表 A-4　Instant Messaging server 設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
`iim_server.keystorepasswordfile`	`sslpassword.conf`	この値には、鍵データベースのパスワードが格納されたファイルの相対パスと名前を含める。このファイルには、次の行が含まれている必要がある `Internal (software) Token:`*password* ここで、*password* は、鍵データベースを保護しているパスワードである
`iim_server.trust_all_cert`	`false`	この値が `true` の場合、サーバーはすべての証明書を信頼するとともに、証明書の情報をログファイル内に追加する

複数サーバー設定パラメータ

ネットワーク上の複数 Instant Messaging Server 間の通信を実現するには、このサーバーに接続する他のサーバーのリストと、それらの各協調サーバー (coserver) に関する情報を、サーバーに設定する必要があります。特定の協調サーバーを識別するには、Sun ONE Instant Messaging ドメイン名、ホスト名、ポート番号、サーバー ID、およびパスワードを指定します。

各協調サーバーに割り当てられるシンボリック名は、`coserver1` などのような、文字と数字から構成される文字列です。こうしたシンボリックな命名規則を用いることで、複数のサーバーを指定できます。

Instant Messaging Server をこのように設定すれば、より大きな Instant Messaging コミュニティを形成できます。したがって、次のことが可能になります。

- 各サーバー上のエンドユーザーは、ほかのすべてのサーバー上のエンドユーザーと通信できる
- ほかのサーバー上の会議室を使用できる
- ほかのサーバー上のニュースチャネルに加入できる (ただし、与えられたアクセス権限の範囲内)

表 A-5 は、複数サーバー設定パラメータの一覧とその説明です。

表 A-5 複数サーバー設定パラメータ

パラメータ	デフォルト値	説明
`iim_server.serverid`	なし	このサーバーが、ほかのすべてのサーバーに対して自身の識別子として使用する文字列
`iim_server.password`	なし	このサーバーが、ほかのすべてのサーバーに対して自身を認証する際に使用するパスワード

`iim_server.coservers`	なし	このサーバーへの接続を許可するサーバーのシンボリック名を含む、コンマ区切りリスト。意味のある名前であれば、どのようなものでも指定可能であるが、`.serverid`、`.password`、`.host` の各パラメータで使用する名前に一致させる必要がある
		例 :
		`iim_server.coservers=coserver1,coserver2`
		または
		`iim_server.coservers=abc,xyz,ntc`

表 A-5 複数サーバー設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_server.*coserver1*.serverid	なし	このサーバーへの認証時に、名前 *coserver1* で表された協調サーバーを識別する文字列。**注** : iim_server.coservers のリストに abc を設定した場合、対応する *serverid* 名は、iim_server.abc.serverid となる
iim_server.*coserver1*.password	なし	このサーバーへの認証時に、名前 *coserver1* で表された協調サーバーが使用するパスワード。**注** : iim_server.coservers のリストに abc を設定した場合、対応するパスワード名は、iim_server.abc.password となる
iim_server.*coserver1*.host	なし	このサーバー上のエンドユーザーが、名前 coserver1 で表されたサーバー上のエンドユーザーと通信する際の、接続先の IP アドレスとポート。**注** : iim_server.coservers のリストに abc を設定した場合、対応するホスト名は、iim_server.abc.host となる **注** : 値の形式は、*name:port*、*IPaddress:port* のいずれかである
iim_server.*coserver1*.usessl	False	このサーバーが SSL を使ってサーバー *coserver1* と通信するかどうかを示す。可能な値は TRUE と FALSE である。

マルチプレクサ設定パラメータ

表 A-6 は、マルチプレクサ設定パラメータの一覧とその説明です。

表 A-6　マルチプレクサ設定パラメータ

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_mux.listenport	49909	マルチプレクサが Sun ONE Instant Messenger を待機する際に使用する、IP アドレスと待機ポート。値の形式は、*IP_address:port* である。IP アドレスを指定しなかった場合、localhost の INADDR_ANY の値が使用される。**注**：この値を変更した場合、ファイル im.html と im.jnlp 内のポート値も、同じ値に変更する必要がある
iim_mux.serverport	49999	マルチプレクサが通信する IM サーバーとポート。値の形式は、*servername*:*port*、*IP_address*:*port* のいずれかである
iim_mux.numinstances	1	マルチプレクサのインスタンス数。このパラメータは、Solaris プラットフォームに対してのみ有効である
iim_mux.maxthreads	5	マルチプレクサの 1 インスタンス当たりの最大スレッド数
iim_mux.maxsessions	2000	1 マルチプレクサプロセス当たりの最大同時接続数
iim_mux.usessl	off	この値が on に設定された場合、マルチプレクサは、アプリケーションデータを交換する前に、受け入れた接続ごとに SSL ハンドシェイクを要求する
iim_mux.secconfigdir	/etc/opt/SUNWiim/default/config	/etc/opt/SUNWiim/default/config は、iim_mux.secconfigdir パラメータの値である。このディレクトリには鍵と証明書のデータベースが含まれる。また、通常はセキュリティモジュールデータベースも含まれる

表 A-6　マルチプレクサ設定パラメータ (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
iim_mux.keydbprefix	なし	この値には、鍵データベースのファイル名のプレフィックスを含める。鍵データベースのファイル名は、必ず key3.db で終わる必要がある たとえば、鍵データベース名が This-Database-key3.db であった場合 (プレフィックスが含まれていた場合)、このパラメータの値は This-Database になる
iim_mux.certdbprefix	なし	この値には、証明書データベースのファイル名のプレフィックスを含める。証明書データベースのファイル名は、必ず cert7.db で終わる必要がある たとえば、証明書データベース名が Secret-stuff-cert7.db であった場合 (プレフィックスが含まれていた場合)、このパラメータの値は Secret-stuff になる
iim_mux.secmodfile	secmod.db	この値には、セキュリティモジュールファイルの名前を含める
iim_mux.certnickname	Server-Cert	この値には、証明書のインストール時に入力した証明書の名前を含める この証明書の名前は、大文字、小文字が区別される
iim_mux.keystorepassword file	/etc/opt/SUNWiim/default/config/sslpassword.conf	この値には、鍵データベースのパスワードが格納されたファイルの相対パスと名前を含める。このファイルには、次の行が含まれている必要がある Internal (software) Token:*password* ここで、*password* は、鍵データベースを保護しているパスワードである
iim_mux.stat_frequency	600	この値は、マルチプレクサが活動概要をログファイルに記録する頻度を表す。最小値は 10 秒
iim_mux.enable	true	値が true の場合、このインスタンスでマルチプレクサが実行される。値が false の場合、このインスタンスでマルチプレクサは実行されない

付録 B

Instant Messaging リファレンス

この章では、Instant Messaging を管理するための imadmin コマンドについて説明します。

imadmin

imadmin ユーティリティを使うと、Instant Messaging Server およびマルチプレクサの起動、停止、および再起動が行えます。Solaris プラットフォーム上では、imadmin を、root として実行するか、インストール時に指定したエンドユーザーとして実行します。

要件 :

imadmin ユーティリティは、Instant Messaging Server がインストールされているホスト上で起動する必要があります。

場所 :

- Solaris の場合 : *instant-messaging-installation-directory*/SUNWiim/sbin
- Windows の場合 : *instant-messaging-installation-directory*¥sbin

表 B-1 は、imadmin 関連コマンドの一覧とその説明です。

表 B-1　各種 imadmin コマンドとその説明

コマンド	説明
imadmin start	有効になっているコンポーネント (サーバー、マルチプレクサのいずれかまたは両方) を起動する
imadmin stop	有効になっているコンポーネント (サーバー、マルチプレクサのいずれかまたは両方) を停止する

表 B-1　各種 imadmin コマンドとその説明 (続き)

コマンド	説明
imadmin refresh	有効になっているコンポーネント (サーバー、マルチプレクサのいずれかまたは両方) を更新する
imadmin start server	サーバーのみを起動する
imadmin stop server	サーバーのみを停止する
imadmin refresh server	サーバーのみを更新する
imadmin start multiplexor	マルチプレクサのみを起動する
imadmin stop multiplexor	マルチプレクサのみを停止する
imadmin refresh multiplexor	マルチプレクサのみを更新する
imadmin migrate	現在のポリシーアクセス制御ファイルに基づいて、Sun ONE Identity Server のポリシーを生成する
imadmin version	バージョンを出力する

機能説明

imadmin [*options*] [*action*] [*component*]

オプション

表 B-2 は、imadmin コマンドのオプションの一覧とその説明です (Solaris プラットフォームのみ)。

表 B-2　imadmin コマンドのオプション

オプション	説明
-c *alt-config-file*	アクション start、refresh とともに使用し、/etc/opt/SUNWiim/config/iim.conf ファイルとは別の設定ファイルを指定する
-h	imadmin コマンドに関するヘルプを表示する

アクション

表 B-3 は、さまざまな imadmin コマンドで実行されるアクションの一覧とその説明です。

表 B-3　imadmin コマンドのアクション

オプション	説明
start	classpath と Java のヒープサイズを設定したあと、指定されたすべてのコンポーネントを起動する
stop	指定されたすべてのコンポーネントのデーモンを停止する
refresh	指定されたコンポーネントを停止および起動する。設定変更時に使うと便利である

コンポーネント

表 B-4 は、imadmin コマンドに対するコンポーネントの一覧とその説明です。

表 B-4　imadmin コマンドに対するコンポーネント

オプション	説明
server	Instant Messaging Server を示す
multiplexor	Instant Messaging マルチプレクサのみを示す

付録 C

Instant Messaging API

この付録では、Sun ONE Instant Messaging によって使用される API について説明します。

Sun ONE Instant Messaging API の概要

Sun ONE Instant Messaging には、拡張モジュールや統合化モジュールの開発に役立つ Java API が各種用意されています。それらの API の詳細なマニュアルは、Javadoc によって生成された HTML ファイルとして、インストールされた Instant Messenger コンポーネントに付属しています。これらの Javadoc ファイルは、*instant-messaging-resource-directory*/`apidocs`/ ディレクトリ内にインストールされています。これらの API マニュアルを参照するには、ブラウザから *imcodebase*/`apidocs` をポイントします。ここで、*codebase* は、Instant Messenger リソースのコードベースを表します。

Instant Messaging API は、次のとおりです。

- Instant Messaging サービス API
- メッセンジャ Bean
- サービスプロバイダインタフェース
- 認証プロバイダ API

Instant Messaging サービス API

Instant Messaging API は、同一ホスト上またはリモートホスト上に存在するアプリケーションが、プレゼンス、会議室、通知、調査、ニュースチャネルなどといった Sun ONE Instant Messaging の各種サービスにアクセスする際に使用されます。

Instant Messaging サービス API を使うと、次のことが行えます。

- Java ベースまたは Web ベースのクライアント (ポータルチャネルなど) を作成する
- 別のクラスのクライアントを利用可能にするブリッジ (ゲートウェイ) を作成する
- Instant Messenger 機能やプレゼンス機能を既存のアプリケーションに組み込む
- 外部のニュースソースを Sun ONE Instant Messenger のニュースとして表示する

メッセンジャ Bean

メッセンジャ Bean は、動的に読み込まれるモジュールであり、その目的は、メッセンジャの機能を拡張することにあります。メッセンジャ Bean を使うと、既存の Instant Messenger ウィンドウ内にボタンやメニュー項目などのアクションリスナーを追加したり、チェックボックスやトグルボタンなどのアイテムリスナーを追加したりできます。アイテムリスナーは、エンドユーザー入力の受信時に起動されます。また、Bean 固有のアクションは、エンドユーザーの入力に基づきます。これらの Bean は、独自の設定パネルを追加したり、Bean 固有のプロパティをサーバー上に保存したりする能力を備えています。これらの Bean には、Instant Messenger が受信する任意のイベント (新しいアラートメッセージなど) を通知できます。

メッセンジャ Bean を使用したアプリケーションでは、次のことが行えます。

- エンドユーザー間で、音声やビデオに加え、アプリケーションや会議を共有できる
- アーカイブ目的で、会議の記録 (送受信されたアラートの内容など) を抽出および処理できる

注 Sun ONE Instant Messenger のアーカイブ制御機能は、メッセンジャ Bean を使って提供されています。

サービスプロバイダインタフェース

サービスプロバイダインタフェース API を使うと、Sun ONE Instant Messaging のサーバー機能を拡張できます。サービスプロバイダインタフェースは、次の独立した API から構成されています。

- アーカイブプロバイダ API
- ドキュメントコンバータ API
- 認証プロバイダ API

アーカイブプロバイダ API

アーカイブプロバイダはソフトウェアモジュールの一種であり、通常、アーカイブシステムや監査システムとの統合化機能を提供します。特定のサーバー処理が実行されると、その処理用に設定されたアーカイブプロバイダが起動されます。

アーカイブプロバイダは、次のサーバー処理に対して起動されます。

- アラート、調査、チャット、ニュース、会議などのインスタントメッセージが送信される時
- 認証イベント中 (ログイン時やログアウト時)
- プレゼンスステータスに変化があった時
- サブスクライブイベント中 (あるユーザーが会議室に入退室する時や、新しいチャネルに加入 / 加入解除する時など)

アーカイブプロバイダ API を使用したアプリケーションとしては、次のものがあります。

- Instant Messaging アーカイブ

注 Sun ONE Instant Messaging のデフォルトの Instant Messaging アーカイブは、アーカイブプロバイダ API に基づいています。Instant Messaging アーカイブの詳細については、「Instant Messaging アーカイブの管理」を参照してください。

- リソースの使用量を制御する目的でその使用統計を記録するアプリケーション

メッセージ変換 API

メッセージコンバータは、個々のメッセージまたはその一部がサーバーを通過する際に起動されます。メッセージコンバータは、対象のメッセージ部分をまったく変更しない場合もありますし、それらのメッセージ部分を変更または削除する場合もあります。テキスト部分は、Java の String オブジェクトとして処理されます。メッセージコンバータは、それ以外の添付ファイルをバイトストリームとして処理し、処理済みのバイトストリーム (オリジナルとは異なる可能性があります) を返します。ただし、削除する必要のある添付ファイルに対しては、何も返しません。

メッセージ変換 API を使用したアプリケーションでは、次のことが行えます。

- ウィルスのチェックと除去
- 変換エンジンの統合化
- メッセージ内容のフィルタリング

認証プロバイダ API

認証プロバイダ API を使えば、Sun ONE Identity Server のパスワードベースまたはトークンベースの認証サービスを使用しない環境下で、Sun ONE Instant Messaging を配備できます。この API はエンドユーザーが認証を要求するたびに起動されます。また、この API は LDAP 認証と組み合わせて使用できます。

認証プロバイダ API を使用したアプリケーションとしては、次のものがあります。

- Sun ONE Identity Server によるシングルサインオン (SSO) は、認証プロバイダ API を使って実現されています。また、この API を使えば、ほかの認証システムとの統合化を図ることも可能です。

付録 D

Instant Messaging 障害追跡

この付録では、Sun ONE Instant Messaging のインストール中および配備中に発生する可能性の高い問題を列挙します。各種システムコンポーネントによってさまざまな処理実行時に生成されるログ情報は、問題の切り分けや障害追跡を行う際に、極めて重要な役割を果たします。ロギングの詳細については、「ロギングの管理」を参照してください。この節では、各種ログファイルと、それらの Solaris 上でのデフォルトの場所について説明します。

マルチプレクサとサーバーのログは、ファイル `mux.log` と `server.log` にそれぞれ記録されます。なお、これらのファイルはデフォルトで、ディレクトリ `/var/opt/SUNWiim/default/log` に格納されます。マルチプレクサとサーバーのログファイルのロギングレベルは、`iim.conf` 設定ファイル内のプロパティ `iim.log.iim_mux.severity` と `iim.log.iim_server.severity` によって制御されます。これらのプロパティに設定可能な値は、次のとおりです。

- `fatal`
- `error`
- `warning`
- `notice`
- `info`
- `debug`

ポータル配備のロギング設定は、`com.iplanet.services.debug.level` プロパティによって決定されます。このプロパティに設定可能な値は、次のとおりです。

- `message`
- `warning`
- `error`
- `off`

表 D-1 は、デスクトップログファイルとアーカイブログファイルの場所を示したものです。

表 D-1　デスクトップログファイルとアーカイブログファイルの場所

ログファイル	デフォルトの場所
desktop.debug	/var/opt/SUNWam/debug/
IMArchiveSearch.log	/var/opt/SUNWam/debug/
IMArchiveSubmit.log	/var/opt/SUNWam/debug/

メッセンジャクライアントのロギング情報を取得するには、Java Web Start アプリケーションマネージャまたは Java plug-in マネージャから、ロギング出力を有効にします。

問題のいくつかを以下に列挙します。また、それらの原因や解決に向けての手がかりについても説明します。

メッセンジャクライアントが読み込まれないか、起動されない

接続が拒否され、タイムアウトが発生した

認証エラー

IM チャネルの表示エラー

Instant Messaging のコンテンツがアーカイブされない

サーバー間通信の開始に失敗した

致命的なエラーによってサーバーが不整合な状態に陥った

メッセンジャクライアントが読み込まれないか、起動されない

この問題の原因となっている可能性のあるものを、以下に列挙します。

- アプレットページ内のコードベースが間違っている
- MIME タイプ「Application/x-java-jnlp-file」が、Web サーバー設定内に定義されていない
- Plug-in または Java Web Start がインストールされていないか、正常に機能していない
- 互換性のあるバージョンの Java が利用できない状態にある

必要な情報を得るには、次の場所を確認してください。

- Java Web Start または Plug-in のエラー情報 (例外スタックトレースや起動ページ)

- ブラウザ上のアプレットページソース

接続が拒否され、タイムアウトが発生した

この問題の原因となっている可能性のあるものを、以下に列挙します。

- Instant Messaging Server またはマルチプレクサが実行されていない
- アプレット記述子ファイル (`.jnlp` または `.html`) 内に指定されているマルチプレクサのホスト名またはポート番号が正しくない
- Instant Messenger とマルチプレクサの SSL 設定が食い違っている
- クライアントとサーバーのバージョンが一致していない

必要な情報を得るには、次の場所を確認してください。

- Instant Messaging Server とマルチプレクサのログファイル

認証エラー

この問題の原因となっている可能性のあるものを、以下に列挙します。

- LDAP サーバーへのアクセス時に問題が発生した
- エンドユーザーが見つからない
- 資格情報が無効である
- アイデンティティサーバーのセッションが無効である

必要な情報を得るには、次の場所を確認してください。

- Instant Messaging Server 、アイデンティティ認証、および LDAP に関するログファイル

IM チャネルの表示エラー

この問題の原因となっている可能性のあるものを、以下に列挙します。

- サーバーによるセッショントークンの検証が失敗し、認証エラーが発生した
- Instant Messaging チャネルが正しく設定されていない (たとえば、Instant Messaging Server のホストやポートが正しくない)
- Plug-in または Java Web Start がインストールされていないか、正常に機能していない
- エンドユーザーが見つからない (Instant Messaging Server による LDAP 検索時にエンドユーザーが見つからない)

必要な情報を得るには、次の場所を確認してください。

- Instant Messaging Server と Instant Messaging チャネルに関するログ

Instant Messaging のコンテンツがアーカイブされない

この問題の原因となっている可能性のあるものを、以下に列挙します。

- コンテンツは実際にはアーカイブされているが、エンドユーザーの権限が不足しているために、そのコンテンツにアクセスできない
- コンテンツがまだ `Compass` データベースにコミットされていない
- Instant Messaging Server でアーカイブプロバイダが無効になっている

必要な情報を得るには、次の場所を確認してください。

- Instant Messaging Server ログファイルとアーカイブログファイル

サーバー間通信の開始に失敗した

この問題の原因となっている可能性のあるものを、以下に列挙します。

- サーバーの識別が正しくない
- SSL 設定の不一致

必要な情報を得るには、2 つの Instant Messaging Server のログファイルを確認してください。

致命的なエラーによってサーバーが不整合な状態に陥った

Sun ONE Instant Messaging のインストールまたはアンインストール中に致命的なエラーが発生した場合、システムが不整合な状態に陥る可能性があります。そのような状態では、インストール、アンインストールのどちらも完了できなくなります。こうした場合、インストールを最初からやり直せるように、Sun ONE Instant Messaging のすべてのコンポーネントを手作業で削除する必要があります。クリーンアップ手順は、パッケージの削除とレジストリ情報の削除から構成されます。

1. 次回のインストールで必要となる可能性のある情報のすべてを、バックアップします。76 ページの「Instant Messaging データのバックアップ」を参照してください。
2. 製品のレジストリ情報を手作業で編集します。
   - Solaris 9 の場合、次のコマンドを実行します。

     `prodreg(1)`

   - その他のすべてのシステムの場合 :

   a. 次の場所にある `productregistry` XML ファイルを開き、その内容を編集します。
      - Solaris の場合 : `/var/sadm/install/productregistry`
      - Linux の場合 : `/var/tmp/productregistry`

- Windows の場合 : `%SystemRoot%/system32/productregistry`

b. 上記のファイル内で、次の処理を実行します。

すべてのプラットフォーム上で、次の情報を削除します。

- Sun ONE Instant Messaging のすべての XML 要素

UNIX 上に次のパッケージまたは RPM が残っている場合は、それらを削除します。

- SUNWiim
- SUNWiimm
- SUNWiimd
- SUNWiimid
- SUNWiimc
- SUNWiimjd

Windows 上で、次のレジストリキーとそのサブキーを削除します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥¥Software¥¥Sun Microsystems¥¥Instant
Messaging¥¥6
```

付録 E

従来の Sun ONE Instant Messaging 6.0 サービス

これは、非推奨のサービスです。Sun ONE Instant Messaging ソフトウェアをすでに所有しており、今回、バージョン 6.1 をインストールしようとしている場合、以下に記載したサービス属性は依然として有効であり、バージョン 6.1 の属性よりも優先されるという点に注意してください。

Sun ONE Instant Messaging Server を Sun ONE Identity Server とともに配備した場合、Sun ONE Identity Server に Instant Messaging サービスが追加されます。Instant Messaging サービスを使うと、管理者は、Sun ONE Instant Messaging Server へのアクセスにポリシーメカニズムを適用できるようになります。

Sun ONE Identity Server 経由で管理されるポリシーの詳細については、107 ページの「Sun ONE Identity Server によるポリシー管理」を参照してください。

表 E-1 は、Instant Messaging サービス属性の一覧とその説明です。

表 E-1 Instant Messaging サービス属性

サービス属性	説明
sunIMEnable	ブール型の属性。有効にすると、特定の組織に対してアクセス権限および拒否権限が設定される。この属性は動的属性として追加される
sunIMAllowAlertOnly	ブール型の属性。有効にすると、Instant Messenger にアラートのみが表示される。連絡先一覧やニュースは表示されない。この属性は、CHAT 様式と POPUP 様式で使用される。この属性はデフォルトで、無効になっている
sunIMAllowFileTransfer	ブール型の属性。有効にすると、メッセージにファイルを添付できるようになる。この属性はデフォルトで、有効になっている

表 E-1　Instant Messaging サービス属性 (続き)

サービス属性	説明
sunIMEnableModerator	ブール型の属性。Sun ONE Instant Messenger のモデレート会議機能を有効にするかどうかを決定する。この属性はデフォルトで、有効になっている
sunIMFlavor	この属性はドロップダウンリストから選択できる。有効にするメッセージタイプを記述する。値は、ALL、IM、NEWS、CHAT、POPUP のいずれかである。デフォルトで選択されている値は、ALL である

索引

I

iim.conf ファイル , 34, 44, 51, 58, 64, 139, 141, 143
imadmin コマンド , 41, 163
imres.jnlp ファイル , 89
index.html ファイル , 24
index.html ファイルと im.html ファイルのカスタマイズ , 87

J

Java Web Start, 79

L

LDAP ディレクトリサーバー
  IM が特定ユーザーとして検索できるようにする , 63
  ポータルモードと LDAP 単独モード , 25
  要件 , 17
LDAP 配備 , 17

P

Portal Server 配備 , 19

S

SMTP サーバー , 25
SSL
  設定 , 53
  設定パラメータ , 153
  有効化 , 59
SSL の有効化 , 59
Sun ONE Instant Messaging Server
  SSL, 53
  アクセス制御 , 36
  構成 , 26
  コンポーネント , 15
  サーバー間通信 , 50
  設定ファイル , 34
  ディレクトリ構造 , 32
  バックアップ , 76
  ロギングの概要 , 44
Sun ONE Instant Messaging Server のバックアップ , 76
Sun ONE Instant Messenger
  概要 , 21
  カスタマイズ , 84
  通信モード , 21
  プロキシ設定 , 96
sysTopicsAdd.acl ファイル , 106

U

URL、埋め込み , 22

W

Web サーバー , 24, 26

あ

アイデンティティサーバー
配備 , 19
ポリシー , 102, 107–118
アクセス制御ファイル , 102, 104–107
形式 , 105
サンプル , 106
デフォルトの権限 , 106
アラートの転送 , 25

う

埋め込み URL, 22

か

会議室
アクセス制御 , 48
管理 , 95
会議室およびニュースチャネルの作成権限のエンドユーザーへの付与 , 96
管理
会議室 , 95
ニュースチャネル , 95
ユーザーの権限 , 47
ロギング , 44

き

起動
サーバーとマルチプレクサ , 42
サーバーとマルチプレクサ (Windows の場合のみ), 43

け

権限 , 47, 101, 124

こ

構成 , 26
コンポーネント
LDAP ディレクトリサーバー , 25
SMTP サーバー , 25
Sun ONE Instant Messaging Server, 15
Sun ONE Instant Messenger, 21
Web サーバー , 24
マルチプレクサ , 24

さ

サーバー
構成 , 26
コンポーネント , 15
設定パラメータの変更 , 44
ロギングレベル , 45
サーバー間通信 , 51

せ

設定
SSL, 53
SSL パラメータ , 153
サーバー間通信 , 51

設定パラメータ
SSL, 153
一般 , 152
複数サーバー , 159
マルチプレクサ , 161
ユーザーソース , 147
ロギング , 150
設定ファイル , 32

ち

チャット , 22

て

停止
サーバーとマルチプレクサ , 42
サーバーとマルチプレクサ (Windows の場合のみ), 43
ディレクトリ構造 , 32
ディレクトリサーバー , 17, 25

に

ニュースチャネル
アクセス制御 , 48
管理 , 95

ふ

プロキシ設定 , 96

へ

変更
設定パラメータ , 44
ユーザーの権限 , 107

ほ

ポリシー , 101–124

ま

マルチプレクサ , 24
listenport パラメータ , 44, 91
概要 , 24
ロギングレベル , 45

ゆ

ユーザー管理 , 40
ユーザーの権限
会議室の作成 , 96
ニュースチャネルの作成 , 96
変更 , 107
ユーザープロビジョニング , 40

ろ

ロギング
概要 , 44
レベルの設定 , 46
ログファイルの監視と内容の削除 , 46
ロギングレベル , 45
ログファイルのレベルの設定 , 46